

参考資料

[本文資料]

資料 1 : ARCS+AT チェックリスト試用解説書	A-1～4
資料 2 : ARCS+AT チェックリスト試用後アンケート用紙	B-1～3
資料 3 : ARCS+AT チェックリストへの意見・指摘記入用紙	C-1
資料 4 : ARCS+AT チェックリスト試用結果サンプル	D-1～2
資料 5 : ARCS+AT Web サイト画面イメージサンプル	E-1～3
資料 6 : ARCS+AT チェックリストへの意見・指摘結果	F-1～5
資料 7 : ARCS+AT チェックリスト試用後アンケート結果	G-1～6
資料 8 : ARCS+AT チェックリスト試用結果 (10 大学分)	H-1～34
資料 9 : ARCS+AT モデル ver1.1	I-1～35

[学会発表]

資料 10 : 教育システム情報学会 2008@熊本大学 投稿論文	J-1～2
資料 11 : 同上プレゼンテーションスライド	K-1～4
資料 12 : 熊大フォーラム 2008@スラバヤ 投稿論文	L-1～2
資料 13 : 同上ポスターセッション用ポスター原稿	M-1

【ARCS+AT チェックリスト試用解説書】

このたびは ARCS+AT チェックリストの試用にご協力いただき、ありがとうございます。
ここに、試用に際しての概要説明をまとめておりますので、まず最初にこちらをご覧ください。
また、試用された後、本チェックリストに関するご意見などをお伺いいたしたく、
アンケートを用意しておりますので、ご回答ご協力方よろしくお願いいたします。

熊本大学大学院教授システム学専攻
M2 中嶋康二

手 順

1. 試用に関する説明をご覧ください、主旨をご理解いただく。
2. ARCS+AT チェックリストを利用して、御校の e ラーニング導入支援体制・環境・運用等をチェックいただく。
3. (可能であれば)チェックされた結果に基づいて改善策等の検討可能性を計っていただく。
4. 試用後アンケートにご回答いただく。
5. 回答等データを中嶋まで送付いただく。～試用完了。

■ ARCS+AT チェックリストについて

ARCS+AT チェックリストは、高等教育機関において、「**e ラーニング導入支援者**」が学習効果の高い e ラーニング化を効率的に成功させるための方策として提案しようとするものです。 ※「e ラーニング」とは広義の e ラーニング（=ICT 利活用学習）を指しています。

このチェックリストは、ID（インストラクショナル・デザイン）の理論、特に学習者を動機付けるための ARCS モデル（注 1）を参照して、「**e ラーニング導入支援者**」が e ラーニング導入に関して教員の意欲を高められるよう、諸要素についてのチェック項目をまとめています。チェックリストのそれぞれのチェック項目を出来る限り満たすように整備・改善、そして支援提供していくことで、当該機関の e ラーニング化の効率的な成功を導く、という筋書きを期待しています。

ただし、これはすべての科目で e ラーニングを導入することを提案するものではありません。e ラーニング導入が適当か否かといった検討がなされることに意義があると考えています。

注 1：ARCS モデル（Keller）は、学習意欲を「注意・関連性・自信・満足感」の 4 側面にとらえ、教育の魅力を高める作戦を整理するための枠組みです。

Attention：注意（面白そうだな）

Relevance：関連性（やりがいがありそうだな）

Confidence：自信（やればできそうだな）

Satisfaction：満足感（やってよかったな）

注 2：ARCS モデルと ARCS+AT モデルの相関については以下の図表をご参照ください。

表 1 ARCS モデルと ARCS+AT モデルの対比表

	ARCS モデル	ARCS+AT モデル
モデル利用者	教授者	e ラーニング導入支援者
モデル対象者	学習者	e ラーニング導入教員
主旨	学習者の動機づけ 1.学習成果を生む	導入教員の支援 1.e ラーニングの的確な導入実現 2.学習成果を生む 3.機関として e ラーニング導入の成功を導く

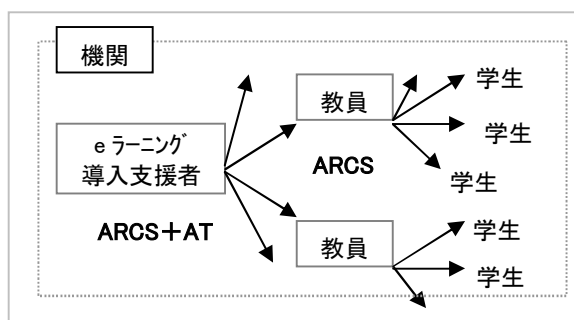


図 1 相関図

ARCS+AT チェックリスト作成に当たっては、私の約 6 年間の大学（情報関連支援部署）勤務上の経験則が基礎となっているため、チェックリストの実質的な効果や汎用性を示すには広く実証していく必要がございます。御校を含めた諸大学での試用を経て、後々には、いずれの大学においても役に立つチェックリストとなるようその品質を高めていくことを目指す所存です。（改めまして、このたびの御校各位のご協力に心から感謝申し上げる次第です。）

■ 試用いただくに当たって

ARCS+AT チェックリストを試用いただくに当たっては、別添の ARCS+AT チェックリスト（「ARCS+AT 教員の e ラーニング導入を動機付けるための支援者向けチェックリスト」）の各項目をご覧ください、御校の現況と照らした結果を当該欄にご記入ください。また、このチェックをきっかけとした改善案や将来展望などがありましたら併せてご記入ください。

なお、チェック項目の内容に関して不明点等ございましたら、以下の連絡先までご連絡くださいますようお願いいたします。

【連絡先】

熊本大学大学院教授システム学専攻 M2 中畠康二（なかじま こうじ）

Email : knakajima@st.gsis.kumamoto-u.ac.jp

携帯電話 : 090-5124 - 3514

■ チェックリスト記入例

	■チェック項目	■タスクリスト	■チェック結果記入欄（不足点・改善案など併記）
A-1	・ 教員向け Web など、e ラーニング導入に関する情報を配信する手段を整備しているか	・ 教員向け e ラーニング導入支援情報配信サイト構築 ・ 同主旨の冊子等作成・配付 ・ 同主旨のメール等配信	・ 情報配信サイトは現在構築中。H21.2 に本番アップ予定。 ・ 冊子は作成していない。有効性を検討し、認められれば作成する。 ・ ML による配信は以前から実施している。
	・ e ラーニング導入の利点に関する情報を配信しているか	・ 左記実施	・ 具体例などは示せていない。外部情報など収集することを検討する。
	・ 各種情報配信において、タイトルやイメージ図など、関心を引きつけるように工夫されているか		・ 努力しているつもりだが、関心を引けているのかは定かではない。一度、調査してみる。

■ ドキュメント一覧

- ① ARCS+AT チェックリスト試用解説書 ※ このドキュメントです。
- ② ARCS+AT チェックリスト ※ Word ファイルでお渡ししています。
- ③ 試用後アンケート ※ Word ファイルでお渡ししています。
- ④ チェックリストへのご意見・ご指摘 ※ Word ファイルでお渡ししています。

以 上

■ ARCS+AT チェックリスト試用後アンケート

このたびは ARCS+AT チェックリストの試用にご協力いただき、誠にありがとうございました。ご多忙の中、ご協力いただけたことを心から感謝しております。最後に、試用いただいた結果についてご意見やご感想などをお伺いいたしたく、質問項目を挙げております。是非、忌憚のないご回答を頂戴できればと願っております。よろしくお願いいたします。（熊本大学教授システム学専攻 M2 中畠康二）

【ご回答に際して】

選択式の質問箇所は、選択した回答が分かるように「□」を「■」としてくださいますようお願いいたします。

Q1. このたびご協力くださった方(々)について聞かせてください。

(1) 協力くださった方(々)の部局名と機関内の役割などについて教えてください。

大学名

部局名

人 数

役 割

※ ここでご回答いただいた個別情報については、外部に公表いたしません。

(2) ARCS+AT チェックリストを試用いただくに当たって機関内で問題となるところがありましたか？あれば、(差し支えない範囲で)どのような問題だったか教えてください。

☐ あった

☐ なかった

・あった場合、どのような問題でしたか？

[]

Q2. 総じて、ARCS+AT チェックリストは、e ラーニング導入推進において「利用価値がある」と感じられましたか？

☐ ある

☐ 改善すればある

☐ ない

・「改善すればある」と回答された方へ、考えられる改善すべき点を教えてください。

[]

・「ない」と回答された方へ、その理由を教えてください。

[]

Q3. ARCS+AT チェックリストでチェックした結果、e ラーニング導入(もしくは ICT 推進)に関する支援体制などの整備状況が確認する機会となりましたか？

☐ できた

☐ できなかった

☐ その他

・この問いに関連して、ご意見等あればお聞かせください。

[]

Q4. ARCS+AT チェックリストでチェックした結果、e ラーニング導入(もしくは ICT 推進)に関する支援体制などの改善提案や改善検討機会などの創出につながりましたか？

☐ つながった

☐ つながらなかった

☐ その他

・「つながった」と回答された方へ、差し支えない範囲でその内容を教えてください。

[]

・その他、この問いに関連して、ご意見等あればお聞かせください。

[]

**Q5. ARCS+AT チェックリストを利用した個別の e ラーニング導入支援を想像してください。
科目担当の先生との共同作業は円滑に進みそうでしょうか？**

☐ 進みそう

☐ 難しそう

☐ わからない

・「難しそう」と回答された方へ、どのような点が難しそうか、お聞かせください。

[]

Q6. ARCS+AT チェックリストを利用した e ラーニング導入支援を想像してください。e ラーニング導入支援ご担当の方々には、これを機会に ID (インストラクショナル・デザイン) の理解を深め、ID を e ラーニング導入へ有効活用する、という展開ができそうでしょうか？

☐ できそう

☐ できなそう

☐ わからない

・「できなそう」と回答された方へ、どの辺りが難しそうか、お聞かせください。

Q7. ARCS+AT チェックリストを利用した e ラーニング導入支援取り組みを想像してください。
e ラーニング導入支援ご担当の方々には、実施後、導入実績を取りまとめて、大学の e ラーニング導入 (ICT 推進) 計画へ適切な改善等を提案することができそうでしょうか？

☐ できそう

☐ できなそう

☐ わからない

・この問いに関連して、ご意見等あればお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。
今後ともよろしくお願いいたします。

アンケートご回答をご送付いただく際、もし差し支えなければ実際にチェックされた ARCS+AT チェックリストを併せてご提供いただければ幸いです。学外秘の箇所がありましたら、その箇所を削除いただいた上で結構ですので、是非、ご協力方よろしくお願いいたします。

熊本大学教授システム学専攻
M2 中瀧康二

■ ARCS+AT チェックリストへのご意見・ご指摘

ARCS+AT チェックリストで各項目をチェックいただいた際に、「チェック項目の説明文の意図がわかりにくい／使われている文言が不適切／新たな項目を追加した方がよい」などのご指摘をいただける箇所がありましたら、是非お聞かせください。

記入者氏名 _____

区分	指摘	備考(修正案など)
(例 1) R 全体	「eラーニングが有効」という前提か？	
(例 2) C-1	「ゴール(目標)」という表現は誤解を招くのでは？	「最低限の実施事項」としてはどうか。

【前提】基本的なICT利用からLMS利用まで、また、対面授業の支援からオンデマンド(ブレンディッド)まで広く対象としている

	■チェック項目	■タスクリスト		■チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
A-1	・ 教員向けWebなど、eラーニング導入に関する情報を配信する手段を整備しているか	・ 教員向けeラーニング導入支援情報配信サイト構築	△	・ もともと教員向けのポータルサイトを掲載していましたが、eラーニング導入を睨んだものではなく、関連リンクボタンとニュースを掲載するだけのものでした。教員向けeラーニング導入支援情報配信サイトは、このチェックリスト実施のあと、現在構築中です。
		・ 同主旨の冊子等作成・配付	×	・ 同主旨の冊子は作成していません。前述のポータルサイトにヘルプ欄などを掲載している程度です。
		・ 同主旨のメール等配信	△	・ 教員向けMLはありますが、同主旨のものは配信していません。
	・ eラーニング導入の利点に関する情報を配信しているか	・ 左記実施	×	・ 前項同様、当該情報は配信していません。
	・ 各種情報配信において、タイトルやイメージ図など、関心を引きつけるように工夫されているか		×	・ これまでは出来ていませんでした。上述の作成中サイトでは、工夫を凝らすよう心掛けています。
A-2	・ eラーニングという形態(カラクリ)を有効活用している科目事例を提示しているか	・ 左記実施	×	・ 出来ていません。上述サイトにて提示しようとしています。
	・ eラーニングの有効性が論理的に解り易く示されているか		×	同上
	・ 従来の問題点がいかにeラーニングで解決できるか、事例が紹介されているか		×	同上
	・ 工夫次第で応用の可能性がどんどん広がる事が示されているか		×	同上
A-3	・ 配信する諸情報は簡潔・端的にまとめられているか	・ 左記実施	×	・ 出来ていません。上述サイトではまとめられるよう注意しています。
	・ 短い説明が難しい場合は内容をブロックに分けて飽きないように工夫しているか		×	同上
	■チェック項目	■タスクリスト		■チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
R-1	・ 当該学問領域におけるeラーニング活用事例を提示するなどして、対象教員の科目での利用イメージが湧きやすくしているか	・ 左記実施	×	・ 出来ていません。上述サイトにて提示しようとしています。
		※当該領域における汎用性を示すこと。		
R-2	・ 対象教員に、eラーニングの有効性の理解とそれによる担当科目の改善が、いかに重要であるか認識させる内容になっているか	・ 左記実施	×	・ 出来ていません。上述サイトにて提示しようとしています。実効性を高めるためにはより深く深い構想が必要と感じています。
		・ 対象教員が自ら進んで目標を達成したいと思わせる内容になっているか		
R-3	・ 対象教員のITリテラシーに合わせた、無理のないeラーニング導入イメージを提示しているか	・ 左記実施	×	・ 出来ていません。上述サイトにて提示しようとしています。
	■チェック項目	■タスクリスト		■チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
AT-1	・ 対象教員が当該科目のeラーニング導入において利用できるシステム類、ツール類の種類・機能・使い方について具体的に明示・説明しているか	・ 左記実施	○	・ 支援窓口に掲示していますが、上述サイトにてより詳しく提示しようとしています。
AT-2	・ 対象教員が当該科目のeラーニング導入において受けられる支援(準備支援・運用支援・障害対応支援など)について具体的に明示しているか	・ 左記実施	○	・ 支援窓口に掲示していますが、上述サイトにてより詳しく提示しようとしています。
		・ 関連サイトなどへのリンク掲載		
	・ 対象教員に、著作権に関する支援の内容を明示しているか	・ 著作権処理の方針明示	○	・ 支援申請書に記載していますが、詳細を上述サイトに提示しようとしています。
AT-3	・ 対象教員に、今後のeラーニング導入における支援の保証を明示しているか	・ 左記実施	×	・ 出来ていません。上述サイトにて提示しようとしています。
	・ IDについて簡潔に説明しているか	・ 左記実施	×	同上
	・ IDに基づく、eラーニングを有効活用した授業の設計方法について具体的に説明しているか	※IDに関するリファレンス(外部リンク・参考文献)提示	×	同上
	■チェック項目	■タスクリスト		■チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
C-1	・ eラーニング導入についてのゴール(目標)を設定し、対象教員と共有できているか	・ 左記実施	○	個別対応の中で確認している
		※ドキュメント化(可視化)すること		
		[参照] IDレイヤーモデル(鈴木,2005)		
C-2	・ eラーニング導入前後で学習成果(効果)を対比するためのチェック項目を挙げているか	・ 学習成果チェックシート(フォーマット)の整備	○	事後アンケートなど実施している
	・ 当該科目のeラーニング化を小さなステップに分けて実施し、その都度出来具合と効果を確認しながら進める体制になっているか	・ 左記実施	×	・ 出来ていません。上述サイトにて提示しようとしています。
C-3	・ eラーニング導入に関して、うまくいかないところがある場合、どこが悪かったかを教員が自分で判断できるように、ヒント集などが用意されているか	・ ヒント集の整備	×	・ 出来ていません。上述サイトにて提示しようとしています。

■ARCS+ATチェックリスト試用結果サンプル(試用時添付用)

	・ 対象教員が自ら中心となってeラーニング導入を行っていると思える支援体制になっているか	・ 左記実施	×	・ 出来ていません。上述サイトにて提示しようとしています。
	■チェック項目	■タスクリスト		■チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
S-1	・ C-1で設定していたゴールに対して、成否を評価するチェックリストを用意しているか/それは、将来的な改善点が容易にピックアップできるようになっているか	・ 導入成果チェックシート(フォーマット)の整備	△	個別支援では事後アンケートがこれに当たる
	・ eラーニングを導入した教員が、他の教員にも導入を勧めたり、支援する機会を設けているか	・ FD報告会やWEB掲載の機会整備	△	・ 同義ではないですが、ICT推進ワークグループという教員のワーキンググループを運営しており、折々に教員全体への働きかけを行っています。
			×	・ FD報告会やWEB掲載は行っていません。WEB掲載は、上述サイトにて実現しようと考えています。
S-2	・ C-2により、対象教員がeラーニング導入の効果を確認するような手順を取っているか	・ 左記実施	×	・ 出来ていません。上述サイトにて提示しようとしています。
	・ eラーニングを導入した教員に何らかのインセンティブが与えられるようになっているか		×	・ 現時点では何もありません。検討中です。
	・ 導入科目、教員ごとに、eラーニング導入前後の比較などの成果を公表するようになっているか		×	・ 出来ていません。上述サイトにて提示しようとしています。
S-3	・ 的確な改善・修正をしつつも、諸評価基準の軸と質を一定に保ち、公平な支援を提供できる体制を整えているか	・ 左記実施	×	・ 出来ていません。上述サイトの構築と同期して体制整備しようと考えています。ただし、マンパワーの不足があることは否めませんので、出来る範囲でやらなければいけません。(増員のメドなし)

[eラーニング導入推進サイト]



当サイトは、本学のeラーニング導入推進を図る[●●センター]からの情報発信サイトです。
先生方の担当科目において、「そもそも、はたしてICT活用が有用なのか？」という視点から「何をどう使ってどのようにインストラクションするのが有用なのか？」までを広く捉えて、効率的な協働によるICT推進に取り組みます。

[キーワード定義] [ICT](#) / [eラーニング](#) / [LMS](#) / [ID \(インストラクショナル・デザイン\)](#) など

※ 当サイトでは、「ICT導入 eラーニング導入」と定義しています。

■主に、これからeラーニング導入を検討される先生方向け情報コンテンツ

※詳細閲覧には、表中左側のタイトルをクリックしてください。

Attention まずご覧ください	◇ eラーニング導入の利点 ◇ eラーニング導入事例等紹介 [外部事例等] ◇ eラーニング導入で何が解決できる？
Relevance 役に立ちます	◇ eラーニング活用科目領域 ◇ 領域別等具体事例紹介 [外部事例等]
Assistance Tools バックアップします	◇ 利用できるツール@XX大学 ◇ 受けられる支援@XX大学 ◇ 授業設計を支援するID
Confidence 実現できます	◇ eラーニング導入@XX大学の手順解説 ◇ eラーニング導入@XX大学ヒント集
Satisfaction 実感できます	◇ eラーニング導入@XX大学 成否チェック手順 ◇ 成功事例@XX大学 (導入者の声)

Last Updated:

(A) 2008/11/15 (R) 2008/11/15 (AT) 2008/11/15 (C) 2008/11/15 (S) 2008/11/15

■ICT推進基本方針

[ITセンター]では、本学の教育とICTを適切に橋渡すことを主旨として、講義の効果・効率・魅力を高める一助となる支援を提供します。
支援においては、先生方主体で進められるよう柔軟なサポート提供を目指します。

■支援担当・問い合わせ先

ITセンター
XXXX@XXX.ac.jp

※当サイト管理者は、
大阪学院大学ITセンター主任
／熊本大学大学院教授システム学専攻M2
[中島](#)です。

Attention まずご覧ください	◇ eラーニング導入の利点 ◇ eラーニング導入事例等紹介 ◇ eラーニング導入で何が解決できる？
--	---

◇ eラーニング導入の利点

eラーニングを導入する、ICTを活用する、といってもただ道具を使うだけでよい成果を導けるわけではありません。
eラーニング活用には、よい準備とよい使い方がなされる必要があります。これを前提として、その利点をまとめています。

[オンライン環境を利用したeラーニングの利点]

eラーニングを利用するメリット3大要素
情報提示 : 24時間、いつでもどこでも授業コンテンツにアクセスできること 相互作用 (インタラクション) : オンラインの同期や非同期のディスカッションや質疑によって理解を深められること 外部リソース接続 (リンク) : WWW上の様々なリソースを直に活用できること

「eラーニングの11のベネフィット」 (ローゼンバーグ,2002) より抜粋

- ・ 伝達される内容はニーズに応じて、統一することもカスタマイズすることもできる
- ・ 内容は常に新しく、信憑性がある
- ・ 毎日24時間いつでも学習できる
- ・ 利用のための準備に時間がかからない
- ・ 普遍性がある (=世界共通のインターネットプラットフォームを利用している)
- ・ コミュニティを構築できる
- ・ 拡張性が高い

「よくデザインされたeラーニングのメリット」 (ブロードベント,2002, 鈴木訳出,2004)

<学習者にとって>

1. オンライン討議で質疑をやり取りするときに、理解や記憶を刺激する相互作用を生む。
2. 学習スタイルの差に応じたバラエティに富む学習が可能で、様々な学習者を支援できる。
3. 自己ペースで学習することができ、自分が好むスピードで学習を進めることを可能にする。
4. いつでもどこでも学習を進めることができる便宜を提供する。
5. 移動に必要な時間と費用を節約できる。
6. WWWへのハイパーリンクで情報を探しにいくことを可能にする。
7. Web上の情報のうち、適切で焦点化した素材を選ぶことを可能にする。
8. 作業支援ツールで文脈に適したヘルプが提供される。
9. インターネットを使うための技術的なスキルを向上させる。
10. 学習者に学習に対する責任をもたせ、知識や自信を高める。

<インストラクタにとって>

1. いつでもどこからでも (学習者から) インストラクタへのアクセスが可能になる。
2. すべての学習者にあらかじめ重要な情報をパッケージ化して提供しておくことで、インストラクタは授業実施時に高次の活動に集中できる。
3. スレッド型掲示板やストリーミング技術を使って討議記録を残し、あとで参照できる。
4. 学習者の積極的な参加を得ることで、個人差に応じた指導を可能にする。
5. 授業実施に係る移動と宿泊の費用を削減できる。
6. インストラクタがWeb上の最新情報へアクセスすることを推奨する。
7. 印刷物による遠隔教育に比べて、より積極的なかわりをサポートするコミュニケーションを可能にする。

<教材開発者にとって>

1. Webサイト上で、教材や宿題、管理情報などのレイアウトを標準化できる。
2. 教材の更新を迅速化する枠組みを設定できる。
3. 投票システムやクイズなどの革新的でインタラクティブなツールを使うことを推奨する。
4. コンピテンシー評価や職務遂行管理のためのツールと学習を結びつける。
5. 現存するWeb上の多種多様な資源へのアクセスを推奨する。
6. 知識に基づいた質問への回答を自動化できる。
7. インターネット上の討議機能を用いて参加者同士の有意義な意見交換を可能にする。
8. 音声ファイルやビデオストリーミング、個別的ビデオ会議などの技術を使うことで、より引き込まれやすい個別対応要素を追加できる。

<管理者にとって>

1. 学習者の参加・進捗状況についてのレポートを自動的・継続的に提供する。
2. 伝統的な集合研修施設 (=教室等設備) にかかる財産資源を削減できる。

3. 遠隔学習プログラムに係る教材作成、郵送、電話のコストを削減できる。
4. HTMLファイルとブラウザを用いることで、WindowsやUNIX、Machintoshなどの異なるプラットフォームで同じ教材を活用できる。
5. テンプレートを用いることで、研修 (= 講義) プログラムにより統一性をもたせることができる。
6. 組織横断的に研修 (= 講義) プログラムを提供するためのソフトウェアを活用して「すべてここでまかなえる場所」を作ることができる。
7. 世界的に活躍するインストラクタへアクセスすることができる。

注) 一部、大学における理解に適合するよう追記しています。

References:
M.J.Rosenberg(2001). E-learning: Strategies for delivering knowledge in the digital age. McGraw-Hill
Broadbent,B.(2002). ABCs of e-learning: Reaping the benefits and avoiding the pitfalls. Jossey-Bass/Pfeiffer, ASTD.

◇ eラーニング導入事例等紹介

ここでは、学外のeラーニング導入事例やeラーニング関連サイトを紹介します。是非、ご参照ください。

私立大学情報教育協会	■ 教育事例等オンデマンド配信	協会で開催した会議、発表会等における教育改善のための教育方法、教材開発、教育支援に関する講演、事例紹介のデジタルアーカイブ → コンテンツのリストは誰でも見ることはできますが、コンテンツそのものを閲覧する場合は認証が必要です。閲覧希望の場合は、ITセンターまでご連絡ください。
メディア教育開発センター(NIME)	■ 能力開発学習ゲートウェイ NIME-glad	大学等がインターネットで配信している学習コンテンツを総合的に検索できるWebサイト
	■ 能力開発学習コンテンツCLAD	社会の人材ニーズとして、大学・高等専門学校の卒業生に求められる知識・スキルなどの能力開発のためのeラーニング学習システム
	■ リメディアル教育READ	基礎学力向上のためのeラーニング学習システム
※随時追加掲載します。		

◇ eラーニング導入で何が解決できる？

では、eラーニング導入によって、これまでにあったどんな問題が解決されるのか、具体的に考えてみます。

問題1	講義時間だけでは不足。しかし補講などを実施するのは負担が大きすぎる。	[解決策・案] LMS (例: OGU-Caddie) を利用して自学自習のインストラクションを施す。24時間のインタラクション環境を提示する。これらにより、講義時間外の学習を促すことができる。
問題2	予習・復習をしてこない。	[解決策・案] LMSに講義前後の毎回のタスクを設置して単位取得に必須とする。これにより、全員がオンデマンドで取り組むことになり、予習・復習となる。また、学習状況管理もできるメリットもある。
問題3	小テストをしっかり受けさせたい。	[解決策・案] LMSに小テストを設置してみる。一回の問題数を少なくして回数を増やす (スモールステップ)。満点になるまで何回でも受験できるようにする。これらにより、全員がひととおり小テストをクリアする環境を創出できる。
※随時追加掲載します。		

※ 記載内容について問い合わせがありましたら、下記問い合わせ先までご連絡ください。

ITセンター
XXXX@XXX-u.ac.jp

■ ARCS+AT チェックリストへの意見・指摘（回答数:6 大学）

対面式または非対面式で実施された ARCS+AT チェックリスト試用において、被験者がチェックリストの回答作成上気付いた点や指摘を、試用後に提示いただいた。ARCS+AT の要素区分ごとにまとめたものが以下の表になる。なお、異なる被験者が同内容の指摘をしている場合もそのまま記載している。また、表中の網掛け欄は「非対面式被験者からの指摘」を表し、それ以外は「対面式被験者からの指摘」を意味する。なお、「その他からの指摘」は斜体表示する。

表 1. 全体に対する意見・指摘

区分	指摘内容
全体	そもそも e ラーニングの範囲・定義はどう捉えるのか？説明しておくべきでは？
	ARCS+AT のそれぞれの領域がイメージしにくい。
	A-R-AT-C-S の流れに違和感。チェック項目のボリューム不足か？
	ARCS+AT に先に分けるのがよいのか、現状分析から入るのがよいのか要検討では？
	タスクリストにできる限り具体的な内容を記載しないと、似たような質問が並んでおり、明確に回答できない。
	たとえば、A-1 の「各種情報配信において、タイトルやイメージ図など、関心を引きつけるように工夫されているか」と A-3 の質問は表現を変えているだけで、内容が同じに見えてしまう。もし意図が違うのであれば、タスクリストやサンプルに具体的な内容を書かないと適切な回答を誘導できないと感じる。
	チェックリストにたびたび「明示しているか」や「説明しているか」という文言がでてくるが、これは A のところで聞いた「手段」が前提なのかそうでないのか分からないため、回答者は曖昧な回答としてしまうと感じる。
	「チェック結果記入」欄への自由記述というスタイルの功罪が検討されるべきかもしれない。評価者のスキルや意識の違いによってチェック内容の正当性に影響が及ぶのであれば、場合によっては、このチェックリストが改善に有効に連携しないことも懸念される。例えば、「A-2:e ラーニングの有効性が論理的に解り易く示されているか」をチェックする際に、「論理性」や「解かり易さ」をどのように自己点検・評価できるかという疑問。 →例えば、ルーブリックのように段階的かつ具体的な到達レベル（評価指標）を提示することで、チェックの妥当性、客観性、正当性が保証されるかもしれない。さらに、e ラーニング導入支援者にとっては、具体的な目標が提示されることになり、自己点検のための評価指標として実効性が生まれるかもしれない（ルーブリックの効用）。一方で、自由記述の持つ優位性を失うことがないように配慮しなければならない。
	本学では導入支援体制が十分に整っていないため、「A」や「R」に関するチェックはイメージがつかみやすく、現状に対する具体的な評価が容易であったが、「C」、「S」、「AT」については、まだそのレベルにないため、ほとんど評価ができなかった。
	「ARCS+AT」の説明文を見ると、「A」では「教員」という言葉が使われている一方で、

	「R」や「AT」では「対象教員」という言葉が使われている。この違いは、「A」に関するチェックは広く教員一般に、「R」や「AT」は個別の教員を対象に対する働きかけを想定していると考えられる。 →おそらく、eラーニング導入へのステップに応じて「ARCS+AT」モデルを「A」から「S」まで段階的に適用していくものだと思うのだが、eラーニング導入支援者が取組の状況をチェックする際に、「教員（全般）」なのか「（特定の）対象教員」なのかといった違いを認識させる必要があるのであれば、設問に工夫が必要かもしれない。
--	--

表 2. 要素 A に対する意見・指摘

区分	指摘内容
A-2-2	「論理的」とは？主観によるのでは？
A-3	短い説明が難しい場合は内容をブロックに分けて飽きないように工夫しているか →具体的にどのようなものをいうのか選択できるなど、すると良い。
A-3	配信する諸情報は簡潔・端的にまとめられているか →どのようになっていることがまとめられているかがわからなかった。できているつもりで答えた。

表 3. 要素 R に対する意見・指摘

区分	指摘内容
R 全体	eラーニングが有効である、という前提になっているのか？
R-1	「対象教員が思い描く理想の授業がどのように実現できるのか示しているか」について何を回答として求めているか分かりづらい。「対象教員が思い描く理想の授業」は科目によっても教員によっても違うのでは？eラーニングを活用することによって考えられる教育効果が上がると考えられるものを例示する程度にとどまるのではないかと思う。
R-1	個々の授業科目ごとに特化した情報を示すことはコストがかかるのではないか。 →多様な成功事例を示す中で、教員自らが授業科目への適用可能性を発見するように促すほうが（コストパフォーマンスという視点では）よいのかもしれない。
R-1-2	「対象教員が思い描く理想の授業」というのが「ICT による学習支援で授業がどう変わるか？」を知った場合とそうでない場合で異なると思われる。本チェック項目の場合は「ICT による学習支援で授業がどう変わるか？」を知ってもらった上での、「対象教員が思い描く理想の授業」の方が適切に思える。
R-1-2	教員の考える理想と真の理想との間にギャップは存在するであろう。つまり、果たして誰が「理想の授業」を思い描けるのか？といった素朴な疑問も浮かぶ。
R-2	対象教員に、eラーニングの有効性の理解とそれによる担当科目の改善が、いかに重要であるか認識させる内容になっているか →具体的なチェックリストがあると良いと思う。チェックリストを作れなくて困っていると思

	う.
R-2	「対象教員が自ら進んで目標を達成したいと思わせる内容になっているか」について、A-1 のタスクリストとして挙げられている媒体によってこのことが実現できるとは思えない。もし期待すべき回答があるのであれば、タスクリストやサンプルにきちんと記載すべき。
R-2	「内容」とは何の内容なのか示されていない。前項「A」で提示された「教員向け Web など、e ラーニング導入に関する情報を配信する手段」なのだろうか？これは、「R」全体に感じたことでもある。
R-2-1	「科目の改善」とは e ラーニング導入のことか？
R-2-1	「内容になっているか？」はわかりにくい。
R-2-2	「目標」という単語はわかりにくい。
R-2-2	何の内容が「対象教員が自ら進んで目標を達成したいと思わせる内容になっているか」が不明。
R-3	「イメージを提示」するだけでよいのか、あるいは「メンタリング」のような具体的な支援が必要なのかという議論が求められると考える。一方で、教員のITリテラシーをどう評価するかという素朴な疑問も浮かぶ。また、「ID リテラシー」への配慮も必要と感じる

表 4. 要素 AT に対する意見・指摘

区分	指摘内容
AT-2-2	多様な支援プログラムが考えられる中で、なぜ“著作権処理”だけがチェック対象として明示化されているのだろうか？という疑問を感じた。
AT-2-3	「保証」が意味する内容を具体的にイメージできなかった。 →提供する支援プログラムを明示的に示すことで十分であるかもしれない（仮に保証したとしても、どこまでそれが実効性を持つのか不明）。
AT-3	このチェック項目の文章を読むと、「ID」理論や実践への活用法（ノウハウ）を教員が理解することを目標に、そういった働きかけを行っているか？というチェックに見える。 →しかし、このチェック項目の趣旨が「＜頼れそうだなあ＞」なのであれば、むしろ「e ラーニング導入支援者はID理論と実践に深い造詣があり、これにもとづくきめ細かな対応を行いますので、十分な教育効果が期待できます。どうぞ安心して支援を受けてください。すべてお任せ下さい」というような“アピール”ができていいのか？という評価になるのではないかと感じた。

表 5. 要素 C に対する意見・指摘

区分	指摘内容
C 全体	「ゴール（目標）」や「学習成果（効果）」という言葉は、“学習者としての教員”と“教授者としての教員”との二重構造を e ラーニング導入支援者が十分に理解し、導入に関する目標設定や評価を適正に組み立てることができなければ、チェックとして機能しなくな

	る懸念を感じる。一方で、「出来具合」という言葉は、eラーニング実践に対する評価としてわかりやすい印象がある。 →使用される言葉の意味や定義を十分に理解させる仕掛けが求められるのかもしれない。チェックリスト活用のためのガイドラインのようなもの？しかし、それはまさに導入支援ガイドラインになるのかもしれない。
C 全体	チェック項目が概括的にもかかわらず、タスクが具体化されていないため、チェックの正当性(目標の設定を含めた評価システム全般)が保証されないのではないかという懸念がある。 →具体的なイメージが湧かないため、なんとなく「していない」、「なっていない」と回答してしまう。何をどこまですれば、本来のあるべき姿に対してどの程度の到達度なのか、まさに「小さなステップに分けて」評価可能なチェックリストへの改善が求められるのではないかと感じた。
C-1,2,3	レイヤーモデルや学習成果チェックリスト(フォーマット)の整備や、ヒント集の整備など。 →どのようなものかや、チェックリストやヒント集が作れなく困っているケースが多いと思う。独自に実施しているものが良いのかどうか分からないので、チェックを受けたいと思う。理想となるものがあると良い。
C-1	「ゴール(目標)」ではわからない。
C-1-1	「ゴール(目標)」は表現が適切ではないのでは？
C-2	「小さなステップに分けてそのステップごとに効果の確認」とあるが、eラーニング化を小さなステップに分けることは理解できるが、その効果とはなにかがわからない。タスクリストやサンプルに方向性を示さないと明快な解答は厳しいと感じる。
C-2-2	掲げている目標が高すぎるのでは？高すぎる目標は意欲をそぐことになる。
C-2-2	「小さなステップ」ではわかりにくい。
C-3-2	「eラーニング導入」は「eラーニング導入実施」とすべきでは？
C-3-2	「自ら・・・思える」というのは、実際には支援されているにもかかわらず、自己効力感を感じているという状態なのだろうか。実際の運用にしても、その評価にしても、高度なテクニックが求められる内容に感じる。 →タスクが具体化されていないことも、こういう疑問を感じる要因になっているのかもしれない。

表 6. 要素 S に対する意見・指摘

区分	指摘内容
S 全体	いずれも重要なチェック項目だという印象を受けた。 また、それぞれのチェック項目の内容も(他のカテゴリのチェック項目に比較して)具体性が感じられた。
S-1	導入成果チェックシートなどの評価基準の整備

	→フォーマット化があると良い。理想となるものや、各大学の課題や目的を入力するフォーマットがあり、それ自体が評価指標になっていくようなシートがあると便利。活用できると思います。求めていると思います。
S-1-1	C-1 同様、「ゴール」は適切でない。
S-3	「諸評価基準の軸」がわかりにくい。
S-3	意味がわかりにくい。

表 7. 注記に対する意見・指摘

区分	指摘内容
【注記】 eラーニングの 定義	この説明では、eラーニング導入支援者によって理解のバラツキが生じるのではないかと感じた。→代表的なeラーニング実践のスタイルとその意義を例示してはどうか。

表 8. 参考文献に対する意見・指摘

区分	指摘内容
【参考文献】	文献を提示するだけでは、その意味や背景を理解できるとは思えなかった。 →エッセンスでもよいので、具体的に示すべきではないか。

■ ARCS+ATチェックリスト試用後アンケート回答集計(回答数:10大学)

以下の表に示すのは、ARCS+ATチェックリストの試用後に被験者自身に記述いただいた回答を取りまとめたものである。なお、回答数右に回答形態別に内数を示す。また、自由記述回答には文末に回答形態の別を（）記載する。

表1. ARCS+ATチェックリスト試用後アンケート回答集計

Q1	Q1.このたびご協力くださった方(々)について聞かせてください。	
	(1) 協力くださった方(々)の部局名と機関内の役割などについて教えてください。	
	大学名	—
	部局名	情報化支援・教育支援専門部署： 8 それ以外： 2
	人 数	1 名体制： 4 複数名体制： 5 その他： 1
	役 割	—
	(2) ARCS+AT チェックリストを試用 いただくに当たって機関内で問題と なるところはありましたか？あれば、 (差し支えない範囲で)どのような問 題だったか教えてください。	あった： 3 （非対面 1・その他 2） なかった： 5 （対面 1・非対面 4） 無回答： 2 （対面 2）
Q2	・あった場合、どのような問題でした か？	・ e ラーニング導入という観点では、あらゆる面で整備が整っていない。特に、「教員の e ラーニング導入意識」への働きかけは不十分であるため、回答に窮することが多々あった。（その他） ・ 全体的な回答なのか、科目毎なのか分かり難かった。（その他） ・ 機関としての正当なチェックを保証するためには、チェック項目ごとに客観的評価を助ける指標が具体化、明示化されている方がよいと感じた（項目の記述が概括的な印象を受けた部分があり、それを補完するようなタスクの記述が不十分な印象を受けた部分もある）。（非対面式）
	Q2.総じて、ARCS+AT チェックリス トは、e ラーニング導入推進において 「利用価値がある」と感じられました か？	ある： 4 （非対面 3・その他 1） 改善すればある： 6 （対面 4・非対面 1・その他 1） ない： 0
	・「改善すればある」と回答された方 へ、考えられる改善すべき点を教え てください。	・ 指標のひとつとなるので、こういうリストがあると思いますが、質問項目が何をどういうものを想定しているのかイメージしにくい。 理想・手本となる Web があるとよいと思います。（対面式） ・ 開発までのスケジュール（タイムスパン）例：この項目については、少なくとも○ヶ月前にはクリアしないとイケない 等 が示され

		ると、もっとよいと思います。その大学の事情に合わせて、役割分担のあり方(SME と IDer, デザイナーなど)を柔軟に変更できるとよい。(対面式) ・ ARCS+AT のそれぞれの領域がイメージしづらい。(対面式) ・ 大学間で共有できるツールは共有できるようにし、チェックが×でもすぐに解決が提供できる環境が必要。(非対面式) ・ eラーニングを導入実施している組織において、現状に対しての評価基準となり、一定の自己評価が可能となる。また、今後の展開に向けて課題等を明確にすることができ、とても有効に活用できるものである。ただし、これから導入しようとしている機関やまったく白紙の状態の場合は、回答後にどこから着手したらよいのか等が明らかにならないため、そうした段階ごとに活用できるようにすることが有効ではないかと思われます。(非対面式) ・ 詳細は「チェックリストへの「ご意見ご指摘」」を見てもらいたいが、質問事項が曖昧なものが多く回答しづらいものが見受けられた。サンプルかタスクリストが具体的になっていれば、それが参考になるのだろうが、それが省略されすぎていて参考にならず使いづらいものになっている。途中で何を目的としてこのチェックリストに回答しているか忘れてしまいがちになるので、目的を常に意識できるようなもうひとひねりした工夫が必要かもしれない。(非対面式) ・ 個別科目に関する質問なのか、全体的な質問なのか分かり易くする。(その他) ・ チェックの結果、どこを重点的に改善すべきか、というポイントや実施のためのガイドラインが明確に浮かび上がってこなければならぬと考える。そうでなければ、限られたリソース(人的資源やコストなど)をどこに集中的に投下すればよいのかがわからず、結果的に改善に連携しない懸念がある。(非対面式)
	・「ない」と回答された方へ、その理由を教えてください。	—
Q3	Q3. ARCS+AT チェックリストでチェックした結果、e ラーニング導入(もしくは ICT 推進)に関する支援体制などの整備状況を確認する機会となりましたか？	できた: 9 (対面 2・非対面 5・その他 2) できなかった: 1 (対面 1) その他: 0
	・この問いに関連して、ご意見等あればお聞かせください。	・ できたと思うが、実施までの道のりは難しい。全部できなくても段階的にここまですればいいのでは？ みたいな支援提案モデルがあればよいと思った。(対面式) ・ 体制として整備はできていないが、大学職員の果たす役割、スキルとして今後必要なものを確認する(広い意味での Staff

		Development)につなげられるような気がする。(対面式) ・ E ラーニングや ICT 導入・普及は、「組織的」でなければならないという命題においては、体制の議論を ICT に疎い(?) 経営層に働きかけるための戦略としても使っていくべきだと思う。(非対面式) ・ 各大学のおかれている状況により違うため、なんともいえないが、ICT 活用を得意とする教員がどの程度の割合でいるのか、学習支援システムはあるのか、大学としての必要性、課題、等と関連してくると思われます。通信教育課程がある・ない。／大学経営としての視点、マネジメントの視点が不可欠であると思います。支援体制が十分かどうかは判断がつかないと思います。このチェックリストでは、／収支バランス等も関係してきます。教育効果だけでは判断できない。(非対面式) ・ 支援体制があるかないかの判断はできると思うが、整備状況までは確認できないような気がした。(非対面式) ・ 解決策がある程度チェックに内包されているケースもあるが、それほど明確でないこともある。解決策の候補をある程度提示してもらえるとよいと思う。(その他) ・ eラーニング導入支援が進んでいない本学にとっては、結果的に「A」から「R」に関するチェックが中心となったが、教員の動機付けを促そうとする視点で支援体制の現状を評価することによって、取組の遅れを具体化することができた。(非対面式)
Q4	Q4. ARCS+AT チェックリストでチェックした結果、e ラーニング導入(もしくは ICT 推進)に関する支援体制などの改善提案や改善検討機会などの創出につながりましたか？	つながった: 8 (対面 1・非対面 5・その他 2) つながらなかった: 1 (対面 1) その他: 1 (対面 1)
	・「つながった」と回答された方へ、差し支えない範囲でその内容を教えてください。	・ 個人的にはつながったと思うが、組織全体で検討しないと前に進まないで、創出とまでは言えない気がします。(対面式) ・ チェックリストを使ったとしても、個人の努力に依拠している状態のままだと、チェックリストの本当の効果にはつながらないと思う。体制を動かすためのヒント(＝大学における情報化戦略策定)につながればよいと思う。(対面式) ・ 教員向け ICT 推進サイト(≒e ラーニング導入サイト)を構築するというアクションにつながりました。これで多くのチェック項目をクリアする一助となりそうです。(その他) ・ 支援ツールの整備と支援体制(人的)の構築(非対面式) ・ 先生方への周知等、教育効果を発揮できるよう、教員の意識改善への参考や、学生への教育の質を確認していくものとしては、有効であると思います。ただし、改善検討会を実施していることが評価されるので、その内容が一番重要であるかも。ステップがあ

		と思います。細かく分けられるのではないのでしょうか。(非対面式) ・このようなことをきっかけにして議論を始めることはできると思う。(非対面式) ・いくつか、eラーニング推進機構でやることになっていながら、できていないことがらが挙げられていた。早急な実施の必要性を感じた。(その他) ・また、気がついていなかったこともあった。例えば、eラーニング導入の利点など、解りやすく提示する必要性を感じた。(その他) ・自己チェックや現状確認の機会となった。具体的な改善内容をまとめる段階にはまだ至っていない。(非対面式) ・「ARCS」という視点で教員の動機付けを促そうとする視点で支援体制の現状を評価するというアプローチによって解決すべき課題を具体化するにあたってのヒントを得ることができた。(非対面式)
	・その他、この問いに関連して、ご意見等あればお聞かせください。	・共同開発、またはカスタマイズ、導入の可能性を感じた。(その他)
Q5	Q5. ARCS+AT チェックリストを利用した個別の e ラーニング導入支援を想像してください。科目担当の先生との共同作業は円滑に進みそうですか？	進みそう： 2 (対面 2) 難しそう： 2 (非対面 2) わからない： 6 (非対面 4・その他 2)
	・「難しそう」と回答された方へ、どのような点が難しそうか、お聞かせください。	・「わからない」と回答しましたが、「難しそう」に近いイメージです。本学では、ICT に近い教員が少なく、意識レベルの取り組みが必要なため、大いに困難を抱えるかも知れませんし、今回構築する教員向け ICT 推進サイトが(=インストラクショナル・デザインが)功を奏すかもしれません。後者となることを願って支援努力しますが。(その他) ・教員の手間のかかることはいやがるでしょう。すべての仕事が、支援者側に押し付けられそうな気がします。(非対面式) ・各大学のEラーニングへの取組状況によって違うと思います。しかし、個別の科目を開発していく段階で、開発担当者が説明していくステップや完成して評価を受けるまでを一通りチェックすることは可能であると思う。本学の場合は、先生方は、ID理論などは全く関係ない世界の教員であり、ICTは苦手であるというスタートラインであるため、先生方に共同作業を行ってもなかなか進まないと思われます。まずは、開発者のチェックリストとしての活用で有効に発揮すると思います。(非対面式) ・「このチェックリストを利用しながら教員との共同作業を円滑に進める」ということが想像つきません。(非対面式) ・チェックリストの内容を教員に噛み砕いて提示する方法が難しいと

		感じる。その点のサンプルとなる資料や教員用チェックリストがあれば助かる。(非対面式)
Q6	Q6. ARCS+AT チェックリストを利用した e ラーニング導入支援を想像してください。e ラーニング導入支援ご担当の方々には、これを機会に ID (インストラクショナル・デザイン) の理解を深め、ID を e ラーニング導入へ有効活用する、という展開ができそうでしょうか？	できそう: 4 (対面 2・非対面 1・その他 1) できなさそう: 4 (非対面 4) わからない: 2 (対面 1・その他 1)
	・「できなさそう」と回答された方へ、どの辺りが難しそうか、お聞かせください。	・ このチェックリストの目的にIDの理解は入っているのですか？／このチェックリストはIDの道具のひとつだと思うので、目的をブラさない方がよいと感じます。／もちろんIDの理解がeラーニングの導入へ有効であることは、その通りです。(非対面式) ・ このままでは、どの辺りが ID なのか、またどこに ID の有効性があるのか分かり難い。ID に興味を持たせるという観点では、もう少し工夫が必要に思う。(その他) ・ ID を学習していない担当者には、事前に ID の学習提供が必要だと考える。ID はこのチェックリストの前提となる理論・考え方なので、その部分の理解が弱い担当者には、チェックリストの提示のみでは、ピンとこない所が多そう。(非対面式) ・ チェックリストによってあるべき姿が明確になるような仕掛け、例えば「ルーブリック」の手法によって目標や到達度が明示化され、その背景を理解させるためのガイドラインと連携すれば、ID を含め、支援組織に求められる機能や支援スタッフの役割を認識させることが期待できる。こういった施策がなければ、難しいのではないかと感じる。(非対面式)
Q7	Q7. ARCS+AT チェックリストを利用した e ラーニング導入支援取り組みを想像してください。e ラーニング導入支援ご担当の方々には、実施後、導入実績を取りまとめて、大学の e ラーニング導入 (ICT 推進) 計画へ適切な改善等を提案することができそうでしょうか？	できそう: 6 (対面 1・非対面 3・その他 2) できなさそう: 1 (非対面 1) わからない: 3 (対面 2・非対面 1)
	・この問いに関連して、ご意見等あればお聞かせください。	・ 多少抽象的な表現や、直感的にわかりにくい部分もありましたが、全国の e ラーニング支援者が、自分で裏付けなく「あれも要る、これも要る」と思いついていたものが、実は ID 理論の○○にあたるものだったんだ！という気づきのきっかけになっていけばいいと思いました。(対面式)

	・ ID を活用した取り組みの蓄積は大学の e ラーニング計画や、IT 計画に少なからぬ影響を与えるインパクトと説得力を持っていると感じます。（その他） ・ このチェックリストだけでは、提案までは難しいと思います。課題等は明確になると思います。／その後のフォローや理想となるものを提示しておく必要があると思います。このチェックリストでは、先生方や学生にわかりやすく説明しているかや、周知しているか、などチェック項目がありますが、導入支援者へ対して、このチェックリストで明らかになった課題をどのように解決に導くことができるのかの説明や方法論を確認できるものが必要である。／現時点では、課題が明確になった。／できている・できていないと解決するだけで、Eラーニング推進が進むのか？／組織マネジメントをどのように形成していくのか。支援体制も作ればよいものでもない。どう活用するのか。等のノウハウ部分がなければ、適切な改善提案に結びつかないと思います。／IDの専門家でもないため、逆にID理論を学ぶことにつなげることはできますね。（非対面式） ・ このチェックリストが改善されれば可能だと感じる。（非対面式） ・ 大学の ICT 推進に直結する内容に思われる。（その他） ・ 現状評価と今後の計画立案に際して、チェックリストの各項目の内容は、「基準」として利用できると感じた。（非対面式） ・ 問いの内容が壮大なので、回答が難しい……。 （非対面式）
--	---

試用大学①:関西大学(大阪府)・・・対面式

【前提】

関西大では、対面授業でのLMS(CEAS)利用を基本形としており、LMS利用支援を主眼としている。

	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄（不足点・改善案など併記）
A-1	・ 教員向け Web など、eラーニング導入に関する情報を配信する手段を整備しているか	・ 教員向け eラーニング導入支援情報配信サイト構築	○	利用手引書などをウェブに掲載している http://www.atl.kansai-u.ac.jp/
		・ 同主旨の冊子等作成・配付	×	ウェブから各自でダウンロード・印刷する
		・ 同主旨のメール等配信	×	特になし
	・ eラーニング導入の利点に関する情報を配信しているか	・ 左記実施	○	ウェブ上に「教えと学びのショーケース」サイトを掲載し、配信している http://www.sc.kansai-u.ac.jp/
	・ 各種情報配信において、タイトルやイメージ図など、関心を引きつけるように工夫されているか		○	前項のサイトについて、タイトルネーミングなど工夫した
A-2	・ eラーニングという形態（カラクリ）を有効活用している科目事例を提示しているか	・ 左記実施	○	上述サイトにて事例を提示している
	・ eラーニングの有効性が論理的に解り易く示されているか		△	サイトで事例紹介しているが、論理的かといえは未整備かもしれない
	・ 従来の問題点がいかにeラーニングで解決できるか、事例が紹介されているか		○	上述サイトにて事例を提示している
	・ 工夫次第で応用の可能性がどんどん広がることが示されているか		○	同上
A-3	・ 配信する諸情報は簡潔・端的にまとめられているか	・ 左記実施	△	
	・ 短い説明が難しい場合は内容をブロックに分けて飽きないように工夫しているか		×	
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄（不足点・改善案など併記）
R-1	・ 当該学問領域におけるeラーニング活用事例を提示するなどして、対象教員の科目での利用イメージが湧きやすくしているか	・ 左記実施	△	学問領域ではなく、学習者の特性・教育哲学・科目特質などで区分する方向で現在教員の意見聴取し研究中
		※当該領域における汎用性を示すこと。		
	・ 対象教員が思い描く理想の授業がどのように実現できるのか示しているか	・ 左記実施	×	
R-2	・ 対象教員に、eラーニングの有効性の理解とそれによる担当科目の改善が、いかに重要であるか認識させる内容になっているか	・ 左記実施	×	

	・ 対象教員が自ら進んで目標を達成したいと思わせる内容になっているか		×	
R-3	・ 対象教員の IT リテラシーに合わせた、無理のない e ラーニング導入イメージを提示しているか	・ 左記実施	×	
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
AT-1	・ 対象教員が当該科目の e ラーニング導入において利用できるシステム類、ツール類の種類・機能・使い方について具体的に明示・説明しているか	・ 左記実施	○	ウェブ上で詳細を掲載している
AT-2	・ 対象教員が当該科目の e ラーニング導入において受けられる支援（準備支援・運用支援・障害対応支援など）について具体的に明示しているか	・ 左記実施	○	総合問い合わせ窓口を明示している →LMS(CEAS)ログイン画面にも明示 https://ceas4.gp.kansai-u.ac.jp/Core1/faces/index2.jsp
	・ 対象教員に、著作権に関する支援の内容を明示しているか	・ 関連サイトなどへのリンク掲載 ・ 著作権処理の方針明示	×	
	・ 対象教員に、今後の e ラーニング導入における支援の保証を明示しているか	・ 左記実施	△	公式 HP のトップページに CEAS のリンクボタンを配置していることが CEAS の継続運用を保証している http://www.kansai-u.ac.jp/index.html
AT-3	・ ID について簡潔に説明しているか	・ 左記実施	×	
	・ ID に基づく、e ラーニングを有効活用した授業の設計方法について具体的に説明しているか	※ID に関するリファレンス（外部リンク・参考文献）提示	×	
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
C-1	・ e ラーニング導入についてのゴール（目標）を設定し、対象教員と共有できているか	・ 左記実施 ※ドキュメント化（可視化）すること	○	個別対応の中で確認しているが、年間数件程度である。
C-2	・ e ラーニング導入前後で学習成果（効果）を対比するためのチェック項目を挙げているか	・ 学習成果チェックシート（フォーマット）の整備	○	個別支援はイーラーニングの効果を測定するための事後アンケートなど実施している。通常の授業では全学的な授業評価アンケートを実施
	・ 当該科目の e ラーニング化を小さなステップに分けて実施し、その都度出来具合と効果を確認しながら進める体制になっているか	・ 左記実施	△	そもそも CEAS が週単位で運用する形態になっている
C-3	・ e ラーニング導入に関して、うまくいかないところがある場合、どこが悪かったかを教員が自分で判断できるように、ヒント集などが用意されているか	・ ヒント集の整備	×	

	・ 対象教員が自ら中心となってeラーニング導入を行っていると思える支援体制になっているか	・ 左記実施	○	
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
S-1	・ C-1 で設定していたゴールに対して、成否を評価するチェックリストを用意しているか／それは、将来的な改善点が容易にピックアップできるようになっているか	・ 導入成果チェックシート（フォーマット）の整備	△	個別支援では事後アンケートがこれに当たる
	・ eラーニングを導入した教員が、他の教員にも導入を勧めたり、支援する機会を設けているか	・ FD 報告会やWEB 掲載の機会整備	○	「教えと学びのショーケース」サイト掲載している
S-2	・ C-2 により、対象教員がeラーニング導入の効果を確認するような手順を取っているか	・ 左記実施	×	
	・ eラーニングを導入した教員に何らかのインセンティブが与えられるようになっているか		×	
	・ 導入科目、教員ごとに、eラーニング導入前後の比較などの成果を公表するようになっているか		×	
S-3	・ 的確な改善・修正をしつつも、諸評価基準の軸と質を一定に保ち、公平な支援を提供できる体制を整えているか	・ 左記実施	△	順番待ちするほどは支援に対するニーズがなく、「公平」を保つ必要のある状態ではない

（表中原文のまま）

試用大学②：A大学…対面式

【前提】

「eラーニング」の定義として、オフキャンパスの「オンデマンド授業」を念等に置いた。本学では、WebCTを用いた対面授業の補完的教育（ブレンデッドラーニング）については、「eラーニング」ではなく、ICT活用教育と規定している。今回は、「オンデマンド授業」の開発について、担当者が決定した段階から授業実施運営を行うにあたって、eラーニング導入支援を行う場合を前提とした。

	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
A-1	・ 教員向け Web など、eラーニング導入に関する情報を配信する手段を整備しているか	・ 教員向け eラーニング導入支援情報配信サイト構築	○	「情報化推進室 Web」を開設している(2004-)
		・ 同主旨の冊子等作成・配付	○	教育向けに配付している(2005-) ※学生向けは 1994 から配付している。
		・ 同主旨のメール等配信	○	広報課が各部署集約してメルマガ配信している
	・ eラーニング導入の利点に関する情報を配信しているか	・ 左記実施	△	主要会議にて議論(提起)しているが、配信はしていない。
	・ 各種情報配信において、タイトルやイメージ図など、関心を引きつけるように工夫されているか		×	特にしていない。
A-2	・ eラーニングという形態(カラクリ)を有効活用している科目事例を提示しているか	・ 左記実施	△	FDセンターでは Forum 紹介・学内 Website 掲載を行っているが、完全にこれに合致するものではない。
	・ eラーニングの有効性が論理的に解り易く示されているか		×	担当者主観としては示しているが、
	・ 従来の問題点がいかにeラーニングで解決できるか、事例が紹介されているか		△	オンデマンド授業事例について(就職活動する4年生や健康上の理由で通学できない学生などへの対策としての意義を)関係会議にて発表を行っている。
	・ 工夫次第で応用の可能性がどんどん広がることが示されているか		×	「広がるのか？」の議論がまず必要。 広げることが教育力の向上や大学教学の発展につながるのかという議論や、議論をもとにした「確信」をもつレベルにはいたっていない。
A-3	・ 配信する諸情報は簡潔・端的にまとめられているか	・ 左記実施	○	簡潔・端的に過ぎるのも不適切と考えている。
	・ 短い説明が難しい場合は内容をブロックに分けて飽きないように工夫しているか		○	WebCT マニュアルを基本編・応用編に分けるなど。
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
R-1	・ 当該学問領域におけるeラーニング活用事例を提示するなどして、対象教員	・ 左記実施	○	オンデマンド授業(8科目)を担当する教員に対して、学部単位・開講方針を周知する機会を設けている。
		※当該領域における汎用性を		

	の科目での利用イメージが湧きやすくしているか	示すこと。		
	・ 対象教員が思い描く理想の授業がどのように実現できるのか示しているか	・ 左記実施	○	サンプルを提示して支援している。教材制作上の注意(内容・著作権など)について明示し、想定どおり実現できるよう打ち合わせを重ねる。
R-2	・ 対象教員に、eラーニングの有効性の理解とそれによる担当科目の改善が、いかに重要であるか認識させる内容になっているか	・ 左記実施	○	授業アンケートの結果をフィードバックすることで有効性を示している。
	・ 対象教員が自ら進んで目標を達成したいと思わせる内容になっているか		○	
R-3	・ 対象教員のITリテラシーに合わせた、無理のないeラーニング導入イメージを提示しているか	・ 左記実施	○	教員にITスキルの支援を行っている
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
AT-1	・ 対象教員が当該科目のeラーニング導入において利用できるシステム類、ツール類の種類・機能・使い方について具体的に明示・説明しているか	・ 左記実施	○	冊子ならびにウェブにて掲載しています。
AT-2	・ 対象教員が当該科目のeラーニング導入において受けられる支援(準備支援・運用支援・障害対応支援など)について具体的に明示しているか	・ 左記実施	○	しています。
	・ 対象教員に、著作権に関する支援の内容を明示しているか	・ 関連サイトなどへのリンク掲載 ・ 著作権処理の方針明示	○ ○	著作権処理は原則として大学では行いません(どうしてもこれがないと授業が成り立たない場合は要相談)。著作権取扱についての啓蒙は行っています。「著作権に関するガイドライン」を大学が発行しているので、それを渡しています。
	・ 対象教員に、今後のeラーニング導入における支援の保証を明示しているか	・ 左記実施	○	担当部署を明示しています。
AT-3	・ IDについて簡潔に説明しているか	・ 左記実施	×	IDに関する知識を持つスタッフがいない。
	・ IDに基づく、eラーニングを有効活用した授業の設計方法について具体的に説明しているか	※IDに関するリファレンス(外部リンク・参考文献)提示	×	
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
C-1	・ eラーニング導入についてのゴール(目標)を設定し、対象教員と共有できているか	・ 左記実施	△	できるだけそうしようとしているが、そのための論理的根拠の整備が必要。
		※ドキュメント化(可視化)すること		
C-2	・ eラーニング導入前後で学習成果(効果)を対比するためのチェック項目を挙げているか	・ 学習成果チェックシート(フォーマット)の整備	○	アンケート結果と実績(学習成果)推移で評価している。ただし、チェック項目は多いとは言えない。

	・ 当該科目のeラーニング化を小さなステップに分けて実施し、その都度出来具合と効果を確認しながら進める体制になっているか	・ 左記実施	△	授業配信前と事後アンケートのみのため、不十分か。
C-3	・ eラーニング導入に関して、うまくいかないところがある場合、どこが悪かったかを教員が自分で判断できるように、ヒント集などが用意されているか	・ ヒント集の整備	×	
	・ 対象教員が自ら中心となってeラーニング導入を行っていると思える支援体制になっているか	・ 左記実施	○	
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
S-1	・ C-1 で設定していたゴールに対して、成否を評価するチェックリストを用意しているか／それは、将来的な改善点が容易にピックアップできるようになっているか	・ 導入成果チェックシート（フォーマット）の整備	△	アンケート結果によるフィードバックのみ。
	・ eラーニングを導入した教員が、他の教員にも導入を勧めたり、支援する機会を設けているか	・ FD 報告会やWEB掲載の機会整備	○	Forum やウェブ上で配信。また、各学部設置されている「企画委員会」に配信（提案）している。
S-2	・ C-2 により、対象教員がeラーニング導入の効果を確認するような手順を取っているか	・ 左記実施	×	
	・ eラーニングを導入した教員に何らかのインセンティブが与えられるようになっているか		×	インセンティブというよりは、必要経費補助。オンデマンド授業開発に携わったことが、教育研究の業績としてカウントされるなど、大学から見た教員の業績評価基準には含まれない。なし（ただし、教育コーチ給または手当てが出るケースがある）
	・ 導入科目、教員ごとに、eラーニング導入前後の比較などの成果を公表するようになっているか		?	前年比などの比較はしているが、公表はしていない。
S-3	・ 的確な改善・修正をしつつも、諸評価基準の軸と質を一定に保ち、公平な支援を提供できる体制を整えているか	・ 左記実施	△	方針は整備されているが、3 キャンパスにおける支援者の人員配置に偏りがある（数が不十分）なため、公平となっていないところもある。

（表中原文のまま）

試用大学③：大阪学院大学（大阪府） …その他

【前提】

基本的なICT利用からLMS利用までを広くeラーニングと捉えている、対面授業の支援からオンデマンド（ブレンデッド）まで広く対象としている。

	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄（不足点・改善案など併記）
A-1	・ 教員向け Web など、eラーニング導入に関する情報を配信する手段を整備しているか	・ 教員向け eラーニング導入支援情報配信サイト構築	△	もともと教員向けのポータルサイトを掲載していましたが、eラーニング導入を睨んだものではなく、関連リンクボタンとニュースを掲載するだけのものでした。教員向け eラーニング導入支援情報配信サイトは、このチェックリスト実施のあと、現在構築中です。
		・ 同主旨の冊子等作成・配付	×	同主旨の冊子は作成していません。前述のポータルサイトにヘルプ欄などを掲載している程度です。
		・ 同主旨のメール等配信	△	教員向け ML はありますが、同主旨のものは配信していません。
	・ eラーニング導入の利点に関する情報を配信しているか	・ 左記実施	×	前項同様、当該情報は配信していません。
	・ 各種情報配信において、タイトルやイメージ図など、関心を引きつけるように工夫されているか		×	これまでは出来ていませんでした。上述の作成中サイトでは、工夫を凝らすよう心掛けています。
A-2	・ eラーニングという形態（カラクリ）を有効活用している科目事例を提示しているか	・ 左記実施	×	出来ていません。上述サイトにて提示しようとしています。
	・ eラーニングの有効性が論理的に解り易く示されているか		×	出来ていません。上述サイトにて提示しようとしています。
	・ 従来の問題点がいかにeラーニングで解決できるか、事例が紹介されているか		×	出来ていません。上述サイトにて提示しようとしています。
	・ 工夫次第で応用の可能性がどんどん広がることが示されているか		×	出来ていません。上述サイトにて提示しようとしています。
A-3	・ 配信する諸情報は簡潔・端的にまとめられているか	・ 左記実施	×	出来ていません。上述サイトではまとめられるよう注意しています。
	・ 短い説明が難しい場合は内容をブロックに分けて飽きないように工夫しているか		×	出来ていません。上述サイトではまとめられるよう注意しています。
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄（不足点・改善案など併記）
R-1	・ 当該学問領域におけるeラーニング活用事例を提示するなどして、対象教員の科目での利用イメージが湧きやすくしているか	・ 左記実施	×	出来ていません。上述サイトにて提示しようとしています。
		※当該領域における汎用性を示すこと。		
	・ 対象教員が思い描く理想の授業がどのように実現できるのか示しているか	・ 左記実施	×	出来ていません。上述サイトでもまだよい構想ができていません。
R-2	・ 対象教員に、eラーニングの有効性の理解とそれ	・ 左記実施	×	出来ていません。上述サイトにて提示しようとしています。が、実効性を高めるためにはより広く深い構想が必要と感

	による担当科目の改善が、 いかに重要であるか認識さ せる内容になっているか			じています。
	・ 対象教員が自ら進んで 目標を達成したいと思わせ る内容になっているか		×	出来ていません。 上述サイトにて実現を目指しています。
R-3	・ 対象教員の IT リテラ シーに合わせた、無理のな い e ラーニング導入イメー ジを提示しているか	・ 左記実施	×	出来ていません。 上述サイトにて提示しようとしています。
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄（不足点・改善案など併記）
AT-1	・ 対象教員が当該科目の e ラーニング導入において 利用できるシステム類、ツ ール類の種類・機能・使い 方について具体的に明示・ 説明しているか	・ 左記実施	○	支援窓口に掲示していますが、 上述サイトにてより詳しく 提示しようとしています。
AT-2	・ 対象教員が当該科目の e ラーニング導入において 受けられる支援（準備支援・ 運用支援・障害対応支援な ど）について具体的に明示 しているか	・ 左記実施	○	支援窓口に掲示していますが、 上述サイトにてより詳しく 提示しようとしています。
	・ 対象教員に、著作権に 関する支援の内容を明示し ているか	・ 関連サイトな どへのリンク掲載 ・ 著作権処理 の方針明示	○	支援申請書に記載していますが、 詳細を上述サイトにて提 示しようとしています。
	・ 対象教員に、今後の e ラーニング導入における支 援の保証を明示しているか	・ 左記実施	×	出来ていません。 上述サイトにて提示しようとしています。
AT-3	・ ID について簡潔に説 明しているか	・ 左記実施	×	出来ていません。 上述サイトにて提示しようとしています。
	・ ID に基づく、e ラーニ ングを有効活用した授業の 設計方法について具体的に 説明しているか	※ID に関する リファレンス（外部リ ンク・参考文献）提 示	×	出来ていません。 上述サイトにて提示しようとしています。
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄（不足点・改善案など併記）
C-1	・ e ラーニング導入につ いてのゴール（目標）を設 定し、対象教員と共有でき ているか	・ 左記実施 ※ドキュメント化 （可視化）するこ と	×	出来ていません。 上述サイトにて提示しようとしています。
C-2	・ e ラーニング導入前後 で学習成果（効果）を対比 するためのチェック項目を 挙げているか	・ 学習成果チェ ックシート（フォーマット） の整備	×	出来ていません。 上述サイトにて提示しようとしています。
	・ 当該科目の e ラーニン グ化を小さなステップに分 けて実施し、その都度出来 具合と効果を確認しながら 進める体制になっているか	・ 左記実施	×	出来ていません。 上述サイトにて提示しようとしています。
C-3	・ e ラーニング導入に関 して、うまくいかないところ がある場合、どこが悪か ったかを教員が自分で判断 できるように、ヒント集な	・ ヒント集の 整備	×	出来ていません。 上述サイトにて提示しようとしています。

	どが用意されているか			
	・ 対象教員が自ら中心となってeラーニング導入を行っていると思える支援体制になっているか	・ 左記実施	×	出来ていません。上述サイトにて提示しようとしています。
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄（不足点・改善案など併記）
S-1	・ C-1 で設定していたゴールに対して、成否を評価するチェックリストを用意しているか／それは、将来的な改善点が容易にピックアップできるようになっているか	・ 導入成果チェックシート（フォーマット）の整備	×	出来ていません。上述サイトにて提示しようとしています。
	・ eラーニングを導入した教員が、他の教員にも導入を勧めたり、支援する機会を設けているか	・ FD 報告会やWEB掲載の機会整備	△ ×	同義ではないですが、ICT 推進ワークグループという教員のワーキンググループを運営しており、折々に教員全体への働きかけを行っています。 FD 報告会やWEB掲載は行っていません。WEB掲載は、上述サイトにて実現しようと考えています。
S-2	・ C-2 により、対象教員がeラーニング導入の効果を確認するような手順を取っているか	・ 左記実施	×	出来ていません。上述サイトにて提示しようとしています。
	・ eラーニングを導入した教員に何らかのインセンティブが与えられるようになっているか		×	現時点では何もありません。検討中です。
	・ 導入科目、教員ごとに、eラーニング導入前後の比較などの成果を公表するようになっているか		×	出来ていません。上述サイトにて提示しようとしています。
S-3	・ 的確な改善・修正をしつつも、諸評価基準の軸と質を一定に保ち、公平な支援を提供できる体制を整えているか	・ 左記実施	×	出来ていません。上述サイトの構築と同期して体制整備しようと考えています。ただし、マンパワーの不足があることは否めませんので、出来る範囲でやらなければいけません。（増員のメドはなし）

（表中原文のまま）

試用大学④：B大学 …対面式

【前提】

具体的に明示された「eラーニング」という概念は全学的にはまだ定義づけしていない。ただし、LMSや諸設備、関連部局は整備している。ネットワークドライブ（共有フォルダ等）の有効活用が活発（10年間の運用実績）。

	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
A-1	・ 教員向け Web など、eラーニング導入に関する情報を配信する手段を整備しているか	・ 教員向け eラーニング導入支援情報配信サイト構築	△	LMS のマニュアルを WEB 掲載
		・ 同主旨の冊子等作成・配付	×	
		・ 同主旨のメール等配信	×	
	・ eラーニング導入の利点に関する情報を配信しているか	・ 左記実施	×	
	・ 各種情報配信において、タイトルやイメージ図など、関心を引きつけるように工夫されているか		×	
A-2	・ eラーニングという形態（カククリ）を有効活用している科目事例を提示しているか	・ 左記実施	△	研究会報告書(冊子)を過去 2 回発行。一部教員に配付している。
	・ eラーニングの有効性が論理的に解り易く示されているか		×	
	・ 従来の問題点がいかにeラーニングで解決できるか、事例が紹介されているか		×	
	・ 工夫次第で応用の可能性がどんどん広がることが示されているか		×	
A-3	・ 配信する諸情報は簡潔・端的にまとめられているか	・ 左記実施	×	
	・ 短い説明が難しい場合は内容をブロックに分けて飽きないように工夫しているか		×	
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
R-1	・ 当該学問領域におけるeラーニング活用事例を提示するなどして、対象教員の科目での利用イメージが湧きやすくしているか	・ 左記実施	×	
		※当該領域における汎用性を示すこと。		
	・ 対象教員が思い描く理想の授業がどのように実現できるのか示しているか	・ 左記実施	×	

R-2	・ 対象教員に、eラーニングの有効性の理解とそれによる担当科目の改善が、いかに重要であるか認識させる内容になっているか	・ 左記実施	×	
	・ 対象教員が自ら進んで目標を達成したいと思わせる内容になっているか		×	
R-3	・ 対象教員の IT リテラシーに合わせた、無理のないeラーニング導入イメージを提示しているか	・ 左記実施	×	
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
AT-1	・ 対象教員が当該科目のeラーニング導入において利用できるシステム類、ツール類の種類・機能・使い方について具体的に明示・説明しているか	・ 左記実施	○	WEB に掲載. 窓口でも説明している.
AT-2	・ 対象教員が当該科目のeラーニング導入において受けられる支援（準備支援・運用支援・障害対応支援など）について具体的に明示しているか	・ 左記実施	△	準備支援は施設・設備系のみ. 各PC教室には、障害対応等を主旨として、支援窓口への内線電話を配備している.
	・ 対象教員に、著作権に関する支援の内容を明示しているか	・ 関連サイトなどへのリンク掲載	×	窓口等、特に設置していない. (知的所有権関連部署はあるが、研究を主目的としている)
		・ 著作権処理の方針明示	×	
	・ 対象教員に、今後のeラーニング導入における支援の保証を明示しているか	・ 左記実施	×	
AT-3	・ ID について簡潔に説明しているか	・ 左記実施	×	
	・ ID に基づく、eラーニングを有効活用した授業の設計方法について具体的に説明しているか	※ID に関するリファレンス（外部リンク・参考文献）提示	×	
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
C-1	・ eラーニング導入についてのゴール（目標）を設定し、対象教員と共有できているか	・ 左記実施	×	
		※ドキュメント化（可視化）すること		
C-2	・ eラーニング導入前後で学習成果（効果）を対比するためのチェック項目を挙げているか	・ 学習成果チェックシート（フォーマット）の整備	×	
	・ 当該科目のeラーニング化を小さなステップに分けて実施し、その都度出来具合と効果を確認しながら進める体制になっているか	・ 左記実施	×	

C-3	・ eラーニング導入に関して、うまくいかないところがある場合、どこが悪かったかを教員が自分で判断できるように、ヒント集などが用意されているか	・ ヒント集の整備	×	
	・ 対象教員が自ら中心となってeラーニング導入を行っていると思える支援体制になっているか	・ 左記実施	×	
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
S-1	・ C-1 で設定していたゴールに対して、成否を評価するチェックリストを用意しているか／それは、将来的な改善点が容易にピックアップできるようになっているか	・ 導入成果チェックシート（フォーマット）の整備	×	
	・ eラーニングを導入した教員が、他の教員にも導入を勧めたり、支援する機会を設けているか	・ FD 報告会や WEB 掲載の機会整備	×	
S-2	・ C-2 により、対象教員がeラーニング導入の効果を確認するような手順を取っているか	・ 左記実施	×	
	・ eラーニングを導入した教員に何らかのインセンティブが与えられるようになっているか		×	
	・ 導入科目、教員ごとに、eラーニング導入前後の比較などの成果を公表するようになっているか		×	
S-3	・ 的確な改善・修正をしつつも、諸評価基準の軸と質を一定に保ち、公平な支援を提供できる体制を整えているか	・ 左記実施	△	ヘルプデスクは的確に運用できている。

(表中原文のまま)

試用大学⑤：C大学 …非対面式

【前提】

eラーニングの捉え方は、MoodleのようなLMS（学習活動支援）とドリル型CAIシステム（CBT対策）をさす。（「eラーニング」という言葉はあまり使われていない）LMSは、集合教育に使われた資料の提供や先生からのお知らせ、レポート提出など、先生や学生の学習活動をサポートする程度。

	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄（不足点・改善案など併記）
A-1	・ 教員向け Web など、eラーニング導入に関する情報を配信する手段を整備しているか	・ 教員向け eラーニング導入支援情報配信サイト構築	×	
		・ 同主旨の冊子等作成・配付	×	
		・ 同主旨のメール等配信	△	近日中に配信予定。
	・ eラーニング導入の利点に関する情報を配信しているか	・ 左記実施	×	
	・ 各種情報配信において、タイトルやイメージ図など、関心を引きつけるように工夫されているか		×	
A-2	・ eラーニングという形態（カラクリ）を有効活用している科目事例を提示しているか	・ 左記実施	×	
	・ eラーニングの有効性が論理的に解り易く示されているか		×	
	・ 従来の問題点がいかにeラーニングで解決できるか、事例が紹介されているか		×	
	・ 工夫次第で応用の可能性がどんどん広がることが示されているか		×	
A-3	・ 配信する諸情報は簡潔・端的にまとめられているか	・ 左記実施	×	
	・ 短い説明が難しい場合は内容をブロックに分けて飽きないように工夫しているか		×	
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄（不足点・改善案など併記）
R-1	・ 当該学問領域におけるeラーニング活用事例を提示するなどして、対象教員の科目での利用イメージが湧きやすくしているか	・ 左記実施	×	
		※当該領域における汎用性を示すこと。		
	・ 対象教員が思い描く理想の授業がどのように実現できるのか示しているか	・ 左記実施	×	

R-2	・ 対象教員に、eラーニングの有効性の理解とそれによる担当科目の改善が、いかに重要であるか認識させる内容になっているか	・ 左記実施	×	
	・ 対象教員が自ら進んで目標を達成したいと思わせる内容になっているか		×	
R-3	・ 対象教員の IT リテラシーに合わせた、無理のないeラーニング導入イメージを提示しているか	・ 左記実施	×	
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄（不足点・改善案など併記）
AT-1	・ 対象教員が当該科目のeラーニング導入において利用できるシステム類、ツール類の種類・機能・使い方について具体的に明示・説明しているか	・ 左記実施	△	
AT-2	・ 対象教員が当該科目のeラーニング導入において受けられる支援（準備支援・運用支援・障害対応支援など）について具体的に明示しているか	・ 左記実施	△	
	・ 対象教員に、著作権に関する支援の内容を明示しているか	・ 関連サイトなどへのリンク掲載	×	
		・ 著作権処理の方針明示		
	・ 対象教員に、今後のeラーニング導入における支援の保証を明示しているか	・ 左記実施	△	
AT-3	・ IDについて簡潔に説明しているか	・ 左記実施	×	
	・ IDに基づく、eラーニングを有効活用した授業の設計方法について具体的に説明しているか	※IDに関するリファレンス（外部リンク・参考文献）提示	×	
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄（不足点・改善案など併記）
C-1	・ eラーニング導入についてのゴール（目標）を設定し、対象教員と共有できているか	・ 左記実施	×	
		※ドキュメント化（可視化）すること		
C-2	・ eラーニング導入前後で学習成果（効果）を対比するためのチェック項目を挙げているか	・ 学習成果チェックシート（フォーマット）の整備	×	
	・ 当該科目のeラーニング化を小さなステップに分けて実施し、その都度出来具合と効果を確認しながら進める体制になっているか	・ 左記実施	○	

C-3	・ eラーニング導入に関して、うまくいかないところがある場合、どこが悪かったかを教員が自分で判断できるように、ヒント集などが用意されているか	・ ヒント集の整備	×	
	・ 対象教員が自ら中心となってeラーニング導入を行っていると思える支援体制になっているか	・ 左記実施	×	
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄（不足点・改善案など併記）
S-1	・ C-1 で設定していたゴールに対して、成否を評価するチェックリストを用意しているか／それは、将来的な改善点が容易にピックアップできるようになっているか	・ 導入成果チェックシート（フォーマット）の整備	×	
	・ eラーニングを導入した教員が、他の教員にも導入を勧めたり、支援する機会を設けているか	・ FD 報告会や WEB 掲載の機会整備	×	
S-2	・ C-2 により、対象教員がeラーニング導入の効果を確認するような手順を取っているか	・ 左記実施	×	
	・ eラーニングを導入した教員に何らかのインセンティブが与えられるようになっているか		×	
	・ 導入科目、教員ごとに、eラーニング導入前後の比較などの成果を公表するようになっているか		×	
S-3	・ 的確な改善・修正をしつつも、諸評価基準の軸と質を一定に保ち、公平な支援を提供できる体制を整えているか	・ 左記実施	×	

（表中原文のまま）

試用大学⑥：日本福祉大学（愛知県）…非対面式

【前提】

「eラーニング」を、パソコンやコンピュータネットワークなど I C Tを活用して教育を行なうこと／時間・場所を問わず「いつでもどこでも」学習者が自由に学習することができ、自律的に学習が進められること、と捉えている。あらゆるメディアを活用し、授業を構成することを目指し、これを大学として支援する。

	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
A-1	・ 教員向け Web など, eラーニング導入に関する情報を配信する手段を整備しているか	・ 教員向け eラーニング導入支援情報配信サイト構築	○	構築している。 http://www.n-fukushi.ac.jp/idlab/
		・ 同主旨の冊子等作成・配付	○	配布している。リーフレット、マニュアル、ガイドライン
		・ 同主旨のメール等配信	×	メール配信はしていない。
	・ eラーニング導入の利点に関する情報を配信しているか	・ 左記実施	○	Web 上に配信している。
	・ 各種情報配信において、タイトルやイメージ図など、関心を引きつけるように工夫されているか		○	初めての方でもわかるように工夫している。VOD 化してナレーション等を付加している。
A-2	・ eラーニングという形態（カラクリ）を有効活用している科目事例を提示しているか	・ 左記実施	○	活用事例を VOD 形式で紹介している。また、新たな活用事例集約のため、ICT 活用支援制度（年 30 万円）を実施し、先生方からの活用事例を集約することに努めている。その後まとめて報告集として先生方に配布を予定している。
	・ eラーニングの有効性が論理的に解り易く示されているか		○	VOD にてわかりやすく紹介・説明している。
	・ 従来の問題点がいかに eラーニングで解決できるか、事例が紹介されているか		○	している。
	・ 工夫次第で応用の可能性がどんどん広がることが示されているか		×	応用の可能性については、これからである。テスト機能やディスカッション機能など。
A-3	・ 配信する諸情報は簡潔・端的にまとめられているか	・ 左記実施	○	まとめている。しかし、さらに工夫する必要があると思われる。
	・ 短い説明が難しい場合は内容をブロックに分けて飽きないように工夫しているか		△	さらなる工夫を取り入れる必要がある。
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
R-1	・ 当該学問領域における eラーニング活用事例を提示するなどして、対象教員の科目での利用イメージが湧きやすくしているか	・ 左記実施	○	プロトタイプを制作し、紹介しながら各先生のイメージを具体化していくようにしている。いくつかの講義パターンを示している。
		※当該領域における汎用性を示すこと。		
	・ 対象教員が思い描く理想の授業がどのように実現できるのか示しているか	・ 左記実施	○	新たな発想を実現できるように、現在では取り組んでいる。先生と一緒に検討しながら進めている。

R-2	・ 対象教員に、eラーニングの有効性の理解とそれによる担当科目の改善が、いかに重要であるか認識させる内容になっているか	・ 左記実施	○	昨年度までに開発された科目の授業評価や改善前と改善後を紹介し、ご自身の科目の改善イメージを抱かせるようにしている。チェックリスト等はないため、課題である。
	・ 対象教員が自ら進んで目標を達成したいと思わせる内容になっているか		○	多くの事例やプロトタイプを紹介することで、イメージを具体的にさせることに取り組んでいる。教員の負担軽減につながることも情報提供し、インセンティブを持たせている。(出欠管理や休校対応、単位の実質化対応など)
R-3	・ 対象教員のITリテラシーに合わせた、無理のないeラーニング導入イメージを提示しているか	・ 左記実施	○	ICTが苦手な場合でも開発支援スタッフがパワーポイント作成支援、著作権処理代行、等を含め、支援を行うことや「科目ガイダンスVOD」製作を通じて、Eラーニングへの認識の敷居を低くする取組を実施している。
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
AT-1	・ 対象教員が当該科目のeラーニング導入において利用できるシステム類、ツール類の種類・機能・使い方について具体的に明示・説明しているか	・ 左記実施	○	リーフレット等を用いて、説明している。LMS機能についても画面紹介等により説明している。LMSの機能紹介VOD制作は今後の課題である。
AT-2	・ 対象教員が当該科目のeラーニング導入において受けられる支援(準備支援・運用支援・障害対応支援など)について具体的に明示しているか	・ 左記実施	○	リーフレット等を用いて、説明している。
	・ 対象教員に、著作権に関する支援の内容を明示しているか	・ 関連サイトなどへのリンク掲載 ・ 著作権処理の方針明示	○	明示している。また、大学との著作権処理契約を締結する仕組みを取り入れている。規程整備している。
	・ 対象教員に、今後のeラーニング導入における支援の保証を明示しているか	・ 左記実施	○	コンテンツ開発時の開発支援や開講時のICTサポートデスクでの運用支援等は説明・紹介している。日常的なICT活用も支援している。また、教員自身でICTを活用できるようにパワーポイント講座やエクセル・ワード講座も適宜実施している。ICT活用能力基準を学内で策定し、アンケート実施による評価を行っている。(高等教育機関バージョンを作成した)
AT-3	・ IDについて簡潔に説明しているか	・ 左記実施	○	ホームページにて紹介している。理解しているかは不明。
	・ IDに基づく、eラーニングを有効活用した授業の設計方法について具体的に説明しているか	※IDに関するリファレンス(外部リンク・参考文献)提示	○	年数回ほど学内諸機関会議や職員会議研修会等において、IDに基づくeラーニングの有効活用した授業設計方法や業務への反映等について、報告や発表を行うなどしている。今後は、FD講習会等も開催する予定でいる。
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
C-1	・ eラーニング導入についてのゴール(目標)を設定し、対象教員と共有できているか	・ 左記実施 ※ドキュメント化(可視化)すること	△	ブレンデッド型の教育実践・少人数教育の実践・全教員の授業見直し(FD)、学習目標の明確化等、「科目ガイダンスVOD」を通じて、Eラーニングへ多少関わることができ、全教職員への理解は次のステージへ進もうとしている。1段階進んできた。
C-2	・ eラーニング導入前後で学習成果(効果)を対比するためのチェック項目を挙げているか	・ 学習成果チェックシート(フォーマット)の整備	○	学生へのアンケート実施・教員の対面授業を含めた授業改善(FD)、意識改善・大学のコンピテシーに基づく、学生の達成度合い・科目の途中棄権率の低減、受講状況と成績との相関関係、ブレンデッド型科目の開発数の増加
	・ 当該科目のeラーニング化を小さなステップに分けて実施し、その都度出来具合と効果を確認しながら	・ 左記実施	○	教育デザイン研究室というEラーニング、教育改革、ICT活用等を推進する部署を立ち上げている。

	進める体制になっているか			
C-3	・ eラーニング導入に関して、うまくいかないところがある場合、どこが悪かったかを教員が自分で判断できるように、ヒント集などが用意されているか	・ ヒント集の整備	×	これからである。課題である。
	・ 対象教員が自ら中心となってeラーニング導入を行っていると思える支援体制になっているか	・ 左記実施	○	先生の意識や技術に応じて、支援内容にも違いはある。よって、教員自身が中心となって進めることも可能な体制にはなっている。moodleなどのさまざまな学習支援システムも、接続できるようにもなっている。
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
S-1	・ C-1 で設定していたゴールに対して、成否を評価するチェックリストを用意しているか／それは、将来的な改善点が容易にピックアップできるようになっているか	・ 導入成果チェックシート（フォーマット）の整備	×	これからである。どのようなものを作成すると良いのかのアドバイスをいただきたい。
	・ eラーニングを導入した教員が、他の教員にも導入を勧めたり、支援する機会を設けているか	・ FD 報告会や WEB 掲載の機会整備	○	実施している。さらに促進していけるよう冊子の発行等を検討している。課題である。
S-2	・ C-2 により、対象教員がeラーニング導入の効果を確認するような手順を取っているか	・ 左記実施	△	学生アンケート結果や教員アンケート結果等のみであり、それ以外はこれからである。課題である。
	・ eラーニングを導入した教員に何らかのインセンティブが与えられるようになっているか		○	手当てが発生している。休講せずにEラーニングによる開講を許可している。単位の実質化への対応を行っている。授業評価の改善につながる。
	・ 導入科目、教員ごとに、eラーニング導入前後の比較などの成果を公表するようになっているか		○	成果を比較することは、実施している。
S-3	・ 的確な改善・修正をしつつも、諸評価基準の軸と質を一定に保ち、公平な支援を提供できる体制を整えているか	・ 左記実施	○	教育デザイン研究室に3名の所属教員がコンテンツの質保証を担保している。また、各学部においても確認するフローを作成している。

(表中原文のまま)

試用大学⑦：明治大学（東京都）…非対面式

【前提】

基本的なICT利用からLMS利用まで、また、対面授業の支援からオンデマンド（ブレンデッドを含む）まで広く対象としている。LMS利活用特に力を入れている。

	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
A-1	・ 教員向け Web など, eラーニング導入に関する情報を配信する手段を整備しているか	・ 教員向け eラーニング導入支援情報配信サイト構築	○	・リーフレット, ホームページ, 説明資料を準備しているほか説明会を開催している
		・ 同主旨の冊子等作成・配付	○	
		・ 同主旨のメール等配信	×	・MLリストにて定期的な情報発信などは行っていない
	・ eラーニング導入の利点に関する情報を配信しているか	・ 左記実施	△	・ホームページを活用し配信しているほか, 説明資料は準備している ・リーフレットは未整備, 説明会の開催まではまだ至っていない
	・ 各種情報配信において, タイトルやイメージ図など, 関心を引きつけるように工夫されているか		○	・図を多用し視覚的に興味を引きわかりやすくなることを心がけている
A-2	・ eラーニングという形態（カラクリ）を有効活用している科目事例を提示しているか	・ 左記実施	○	・A-1で示した媒体を経由して行っている
	・ eラーニングの有効性が論理的に解り易く示されているか		○	同上
	・ 従来の問題点がいかにeラーニングで解決できるか, 事例が紹介されているか		○	同上
	・ 工夫次第で応用の可能性がどんどん広がることが示されているか		○	同上
A-3	・ 配信する諸情報は簡潔・端的にまとめられているか	・ 左記実施	○	・A-1で示した媒体に図を多用し視覚的に興味を引きわかりやすくなることを心がけている
	・ 短い説明が難しい場合は内容をブロックに分けて飽きないように工夫しているか		○	同上
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
R-1	・ 当該学問領域におけるeラーニング活用事例を提示するなどして, 対象教員の科目での利用イメージが湧きやすくしているか	・ 左記実施 ※当該領域における汎用性を示すこと。	○	・A-1で示した媒体を通して, 制作と運用の流れについて視覚的またはリストにして提供している
	・ 対象教員が思い描く理想の授業がどのように実現できるのか示しているか	・ 左記実施	○	・A-1で示した媒体に, 「一般的にeラーニングを活用するとどのような授業改革ができるか」については触れている
R-2	・ 対象教員に, eラーニングの有効性の理解とそれによる担当科目の改善が,	・ 左記実施	○	同上

	いかに重要であるか認識させる内容になっているか			
	・ 対象教員が自ら進んで目標を達成したいと思わせる内容になっているか		×	・A-1で示した媒体によってこのことが実現できるとは思えない
R-3	・ 対象教員のITリテラシーに合わせた、無理のないeラーニング導入イメージを提示しているか	・ 左記実施	○	・A-1で示した媒体に支援体制を確立していることを明示することで、この不安を取り除くようにしている
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
AT-1	・ 対象教員が当該科目のeラーニング導入において利用できるシステム類、ツール類の種類・機能・使い方について具体的に明示・説明しているか	・ 左記実施	○	・支援体制についてはA-1で示した媒体経由で詳しく説明している ・システムについては個別に説明している
AT-2	・ 対象教員が当該科目のeラーニング導入において受けられる支援(準備支援・運用支援・障害対応支援など)について具体的に明示しているか	・ 左記実施	○	・A-1で示した媒体経由で詳しく説明している
	・ 対象教員に、著作権に関する支援の内容を明示しているか	・ 関連サイトなどへのリンク掲載 ・ 著作権処理の方針明示	○ ○	・同上 ・著作権法自体については、セミナー等を実施している
	・ 対象教員に、今後のeラーニング導入における支援の保証を明示しているか	・ 左記実施	○	・A-1で示した媒体経由で詳しく説明している
AT-3	・ IDについて簡潔に説明しているか	・ 左記実施	○	・A-1で示した媒体に本当に基本的な部分のみ示している
	・ IDに基づく、eラーニングを有効活用した授業の設計方法について具体的に説明しているか	※IDに関するリファレンス(外部リンク・参考文献)提示	○	・同上 ・A-1で示した媒体にIDに関する外部リンク等は示していない。支援体制にIDerを配置している
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
C-1	・ eラーニング導入についてのゴール(目標)を設定し、対象教員と共有できているか	・ 左記実施	×	・学長方針やA-1で示した媒体経由して提示しているが、浸透が図れているとは思っていない
		※ドキュメント化(可視化)すること		
C-2	・ eラーニング導入前後で学習成果(効果)を対比するためのチェック項目を挙げているか	・ 学習成果チェックシート(フォーマット)の整備	×	・アンケートや成績、学習時間や単位取得率のデータ対比は行っているが、それによって成果の有無についてはまだ判断していない
	・ 当該科目のeラーニング化を小さなステップに分けて実施し、その都度出来具合と効果を確認しながら進める体制になっているか	・ 左記実施	○	・担当教員に配布する手引きに細かいステップを明示している ・ステップごとに出来栄はチェックしている ・ステップごとの効果の確認とはどのようなことがわからない
C-3	・ eラーニング導入に関して、うまくいかないところがある場合、どこが悪かったかを教員が自分で判断できるように、ヒント集な	・ ヒント集の整備	△	・FAQを整備している途中であるが、基本的には支援体制を確立しているので、そこへ問い合わせをしてもらうことで教員の負荷を軽減させている

	どが用意されているか			
	・ 対象教員が自ら中心となってeラーニング導入を行っていると思える支援体制になっているか	・ 左記実施	○	・eラーニングを活用した授業を動かしているとは思っていると思うが、それ以上に負荷をかけずに効果が上がっていることを体感してもらうことを心がけている
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
S-1	・ C-1 で設定していたゴールに対して、成否を評価するチェックリストを用意しているか／それは、将来的な改善点が容易にピックアップできるようになっているか	・ 導入成果チェックシート（フォーマット）の整備	△	・チェックシート自体は設けていない ・ただ、アンケートや出来栄えをチェックし、今後に生かすためのミーティング(全体会)は定期的開催している
	・ eラーニングを導入した教員が、他の教員にも導入を勧めたり、支援する機会を設けているか	・ FD 報告会やWEB掲載の機会整備	△	・FDとしての報告はまだしていない ・著作権的にOKなものについてはWeb掲載を始めている
S-2	・ C-2 により、対象教員がeラーニング導入の効果を確認するような手順を取っているか	・ 左記実施	○	・アンケートや成績、学習時間や単位取得率のデータ対比などの効果をはかるための材料は開示している
	・ eラーニングを導入した教員に何らかのインセンティブが与えられるようになっているか		×	・世の中の流れに沿っているため、インセンティブについては考えていない
	・ 導入科目、教員ごとに、eラーニング導入前後の比較などの成果を公表するようになっているか		○	・委員会において半期ごとに提示している
S-3	・ 的確な改善・修正をしつつも、諸評価基準の軸と質を一定に保ち、公平な支援を提供できる体制を整えているか	・ 左記実施	○	・万全の支援体制を整えている ・詳細は宮原の研究論文をみてほしい

(表中原文のまま)

試用大学⑧：熊本大学（熊本県）…その他

【前提】

eラーニングを広く ICT 活用教育ととらえ、全学的に推進している。授業設計の重要性から、2006 年「大学院教授システム学専攻」を開設、また、全学的サポートのため 2007 年度「eラーニング推進機構」を立ち上げる等、全学的に ICT 活用を推進している。

	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
A-1	・ 教員向け Web など、eラーニング導入に関する情報を配信する手段を整備しているか	・ 教員向け eラーニング導入支援情報配信サイト構築	○	・ 全学 LMS である WebCT に関して、以下の教員向けマニュアルを提供している。 ・ WebCT 入門マニュアル ・ FlashVideo 埋め込み手順書 ・ 音声ファイル読み込み手順書 ・ WebCT 機能解説マニュアル ・ CE4-CE6 ツール比較表 ・ WebCT マニュアル用語集 - http://www.ield.kumamoto-u.ac.jp/WebCTCE6.html ・ LMS 講習会を毎週火曜日に実施(申し込みがあれば)
		・ 同主旨の冊子等作成・配付	○	
		・ 同主旨のメール等配信	×	
	・ eラーニング導入の利点に関する情報を配信しているか	・ 左記実施	×	・ 明確な形ではできていない。 ・ 全学 LMS(WebCT)の運用、教授システム学専攻やeラーニング推進機構の設立、各学部専攻等からの GP 申請等に絡んで、間接的な情報配信にとどまっている。
A-2	・ 各種情報配信において、タイトルやイメージ図など、関心を引きつけるように工夫されているか		×	・ 明確な形ではできていない。 ・ 上記発信においては、タイトルやイメージはある程度活用している。 ・ WebCT マニュアル等は FLASH 判等作成している。
	・ eラーニングという形態(カラクリ)を有効活用している科目事例を提示しているか	・ 左記実施	×	・ あまりできていないとか言い難い。 ・ 講習会参加者、希望者等には、情報基礎 A/B へのオブザーバ参加を許可。 ・ eラーニング推進機構のコンテンツ評価 WG で特に優れた取組を表彰する予定だがまだ実施されていない。 ・ JOCW、UPO-NET 等での外部公開も含めて検討中。
	・ eラーニングの有効性が論理的に解り易く示されているか		×	・ 明確な形ではできていない。 ・ 総合情報基盤センター年報、教授システム学専攻やeラーニング推進機構の説明、各学部専攻等からの GP 申請等に絡んで、間接的な解説はあるが、まとまったものに乏しい。
	・ 従来の問題点がいかにeラーニングで解決できるか、事例が紹介されているか		×	・ 明確な形ではできていない。 ・ 総合情報基盤センター年報、教授システム学専攻やeラーニング推進機構の説明、各学部専攻等からの GP 申請等に絡んで、間接的な紹介はあるが、まとまったものに乏しい。
A-3	・ 配信する諸情報は簡潔・端的にまとめられているか	・ 左記実施	△	・ WebCT マニュアル等は、いくつかの版や、機能別になっており、比較的簡潔、端的にまとめられている。 ・ それ以外は、散逸する情報で、簡潔、端的にまとめられているとはとても言い難い。
	・ 短い説明が難しい場合は内容をブロックに分けて飽きないように工夫しているか		△	・ 同上
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
R-1	・ 当該学問領域におけるeラーニング活用事例を提示するなどして、対象教員	・ 左記実施	△	【現状と問題点】 ・ 特色GPによる、全学必修情報基礎、CALL、現代 GP による教員志望者向けの科目群等、学外も含めて公開されつつある
		※当該領域に	△	

	の科目での利用イメージが湧きやすくしているか	おける汎用性を示すこと。	コンテンツがある。 教授システム学専攻の演習講義「eラーニング実践演習 I, II」においては、実習の一環として、学内のほとんどの学部大学院にわたり、二十数科目の面接授業を既にIDに基づいてeラーニング化しているが、こちらは公開にいたっていない、しかしながら、eラーニング活用事例をまとめて紹介しているWebページ等はまだない。 参考：eラーニング実践演習 I, II http://www.gsis.kumamotou.ac.jp/curriculum/index.html#sogol ・ eラーニング連続セミナー (http://el-lects.kumamotou.ac.jp/) や随時開催の LMS 講習会 (http://www.ield.kumamotou.ac.jp/WebCTCE6.html) 等は、間接的ではあるが関連情報の提供になっていると思われる。学内では VOD により後から随時視聴可能としている。 【改善案】 ・ Web による、 ・ 学内活用事例の紹介(コンテンツや LMS のライセンス等もあり、場合によっては学内限定) ・ OCW 等の中から役立ちそうなものを選択し簡単な解説をつけて学問領域毎に LINK 集 ・ NIME Glad, (J)OCW 等一般的なサイトへのリンク集等をわかりやすくまとめて提示することが望まれる。 ・ また、学内のよい事例を表彰(eラーニング推進機構のWGのミッションの1つ)等して、その事例報告会や紹介 Web を作成することもしたい。
	・ 対象教員が思い描く理想の授業がどのように実現できるのか示しているか	・ 左記実施	△ 【現状と問題点】 ・ 全学 LMS の WebCT CE6 に関しては、その機能、使い方に、eラーニング推進機構の Web で提示しているが、「理想の授業がどのように実現できるのか示しているか」そのものではない。 http://www.ield.kumamoto-u.ac.jp/WebCTCE6.html ・ eラーニング連続セミナー (http://el-lects.kumamotou.ac.jp/) や随時開催の LMS 講習会 (http://www.ield.kumamotou.ac.jp/WebCTCE6.html) 等は、間接的ではあるが関連情報の提供になっていると思われる。学内では VOD により後から随時視聴可能としている。 【改善案】 ・ Web による情報提供として、 ・ 「ICT によって、どのような(理想の)授業が可能になるか」を示す。 ・ 「対象教員が思い描く理想の授業」の事例を複数あげ、その授業毎に「どのように実現できるのか」を示す。 ・ 個別に相談を受ける等があろう。
R-2	・ 対象教員に、eラーニングの有効性の理解とそれによる担当科目の改善が、いかに重要であるか認識させる内容になっているか	・ 左記実施	× 【現状と問題点】 ・ eラーニングの有効性に関しては、eラーニング連続セミナー (http://el-lects.kumamoto-u.ac.jp/) や随時開催の LMS 講習会 (http://www.ield.kumamotou.ac.jp/WebCTCE6.html) 等で紹介し、学内では VOD により後から随時視聴可能としている。 ・ しかしながら、Web 等による定常的な情報提供はほとんどされていないのが現状である。 【改善案】 ・ より具体的な事例紹介が必要と思われる。 ・ 分野毎に、eラーニングの有効性とそれによる科目改善の重

				要性を紹介した Web による情報提供が必要であろう。 ・eラーニング連続セミナー等でも、分野に特化した事例紹介の必要性を認識した。
	・ 対象教員が自ら進んで目標を達成したいと思わせる内容になっているか		○	【現状と問題点】 ・ 「対象教員の目標」がいわゆる担当科目の ICT 化関連で、「内容」がeラーニング化を薦める Web ページ等であったと仮定すると、大学ポータルに入ると、その教員の時間割があり、その中の科目名をクリックすると、WebCT 上の自分の科目のページへ飛び、コース作成ウィザードが開く。このシステムは、対象教員が自ら進んでやってみようと思わせる効果が少しはあると思われる。【改善案】・ よりスムーズに科目のeラーニング化ができるように、テンプレートの導入や、学務情報システムからのシラバス、成績等の自動登録、授業情報の視覚化(例えば、どのような学生が登録され、いつアクセスしたか等)を行うとよいと思われる。
R-3	・ 対象教員の IT リテラシーに合わせた、無理のないeラーニング導入イメージを提示しているか	・ 左記実施	×	【現状と問題点】 ・ 対象教員に個別相談を受けた場合は、eラーニング推進機構である程度対応している。 ・ 本件に関する Web 等による情報発信はない。 【改善案】 ・ ICT スキルに応じた、eラーニングに関する情報提供が必要であろう。例えば、 ・ 初級: プレゼン資料の提示、おしらせやスケジュールの公開... ・ 中級: ディスカッション作成、4 択問題作成、期限やパスワード設定、課題提出... ・ 上級: 複合問題、記述問題等の凝った問題作成、成績等による学習制御... 等の表とそれぞれのレベルにあった解説等考えられる。
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
AT-1	・ 対象教員が当該科目のeラーニング導入において利用できるシステム類、ツール類の種類・機能・使い方について具体的に明示・説明しているか	・ 左記実施	○	【現状と問題点】 ・ 当該教員が利用できるシステム類、ツール類については、随時開催の LMS 講習会 (http://www.ield.kumamotou.ac.jp/WebCTCE6.html) 等である程度は紹介している。 ・ また、eラーニング推進機構の Web で、機構における「使用可能機器類」に関しては紹介している。 http://www.ield.kumamoto-u.ac.jp/env.html ・ 具体的な使用、活用例等の紹介が足りないと思われる。 【改善案】 ・ スタジオ等、もう少し具体的に、何が可能か、手続き等は記載が必要であろう。 ・ 一般的に手に入るフリーウェア等の活用方法や、研究室や家庭にもある民生ビデオ等の活用方法等を紹介した Web が必要かと思われる。
AT-2	・ 対象教員が当該科目のeラーニング導入において受けられる支援(準備支援・運用支援・障害対応支援など)について具体的に明示しているか	・ 左記実施	○	【現状と問題点】 ・ 当該教員が受けられる支援については、随時開催の LMS 講習会 (http://www.ield.kumamotou.ac.jp/WebCTCE6.html) 等である程度は相談にのっているが、確かな規程等なく臨機応変に対応しているのが実状であろう。 ・ また、eラーニング推進機構の Web で、eラーニング推進機構の役割等の中で提供するサービス等を紹介している。 http://www.ield.kumamoto-u.ac.jp/ield.html 【改善案】 ・ 当該教員が受けられる支援については、もう少し具体的に何

				が可能か、手続きは等記載が必要であろう。 ・FAQのようなものがあるとよからう。（こんなときは、こういう支援が受けられる等）
	・ 対象教員に、著作権に関する支援の内容を明示しているか	・ 関連サイトへのリンク掲載 ・ 著作権処理の方針明示	△	【現状と問題点】 ・ 著作権に関する支援の内容は、eラーニング推進機構のWebの、機構の役割（http://www.ield.kumamoto.ac.jp/ield.html）等紹介の中で、「著作権等検討ワーキンググループ」の役割として、コンテンツの著作権、使用権等に関する指針、帰属等に関する権利規定の制定等を行うとあるが、実質的にはまだあまり機能していない。 ・ ただし、eラーニング推進機構等に持ち込まれた相談に関しては、学内に専門家を有するため、ある程度自信を持って対応可能である。 【改善案】 ・ コンテンツの著作権、使用権等に関する指針、帰属等に関する権利規定の制定等を推進し、Webによる参照や手続きが行えるようにする。
	・ 対象教員に、今後のeラーニング導入における支援の保証を明示しているか	・ 左記実施	△	【現状と問題点】 ・ 今後のeラーニング導入における支援の保証に関しては、明示しているとは言えない。 ・ 中期計画等で、ある程度、中長期的の方針を示している程度である。 【改善案】 ・ 教育に限らず様々な分野に関する、中長期的な情報化戦略は重要であり、それを計画、実施、修正していく組織的基盤が必要であろう。その上で、今後のeラーニング導入のロードマップ等を構成員に衆知徹底することがよからう。
AT-3	・ IDについて簡潔に説明しているか	・ 左記実施	×	【現状と問題点】 ・ IDについて簡潔に説明は、随時開催のLMS講習会（http://www.ield.kumamoto.ac.jp/WebCTCE6.html）等で少しはされるかもしれないが、明示的にはなにもされていないのが実状であろう ・ また、eラーニング推進機構のWebの、機構の役割（http://www.ield.kumamoto-u.ac.jp/ield.html）等紹介の中で、「eラーニング授業設計支援室」で、IDを中心とした本機構のみならず全学的な教材設計指導を行うとあるが、実質的にはまだあまり機能していない。 ・ ただし、eラーニング推進機構では、IDをある程度心得た教員や、IDを豊富に活用した教授システム学選考の講義科目の制作、運営の支援経験者が多く、この経験は他にも少しは活かされていると思う。 【改善案】 ・ せっかくIDのエキスパートが学内にいるので、講習会や研修プログラム等の実施が効果的であろう。 ・ Webによる、IDを活用した授業設計の紹介が望まれる。
	・ IDに基づく、eラーニングを有効活用した授業の設計方法について具体的に説明しているか	※IDに関するリファレンス（外部リンク・参考文献）提示	×	・ 同上。
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
C-1	・ eラーニング導入についてのゴール（目標）を設定し、対象教員と共有でき	・ 左記実施 ※ドキュメント化	△	【現状と問題点】 ・ 現在のところ、全学的には具体的なゴール（目標）は設定せず、少し（例えばプレゼン資料のみ）でも利用してもらおうという

	ているか	(可視化)すること		方針である。 ・ 個々の教員に対しては、随時開催の LMS 講習会 (http://www.ield.kumamoto-u.ac.jp/WebCTCE6.html) 等で、場合によっては相談に乗っている。 【改善案】 ・ Web による具体的な事例の紹介が有効化もしれない。 ・ その際に、事例毎にステップアップ方法(時系列)も含めた紹介がよいと思う。 ・ 第一段階: プレゼン資料の提示 ・ 第二段階: 課題のオンライン提出 ・ ・ 第N段階: グループディスカッションによるまとめとプレゼン等。
C-2	・ eラーニング導入前後で学習成果(効果)を対比するためのチェック項目を挙げているか	・ 学習成果チェックシート(フォーマット)の整備	×	【現状と問題点】 ・ 現在のところ、「eラーニング導入前後で学習成果(効果)を対比するためのチェック項目」は提示していないと思われる。 【改善案】 ・ なかなか難しいだろうが、最初は事例毎に作成し、徐々に一般性のあるものに育ててとういうのはどうだろうか。
	・ 当該科目のeラーニング化を小さなステップに分けて実施し、その都度出来具合と効果を確認しながら進める体制になっているか	・ 左記実施	×	【現状と問題点】 ・ 現在のところ、「小さなステップ毎に実施、出来具合、効果の確認できる体制」は、ほとんどできていない。 ・ 随時開催の LMS 講習会 (http://www.ield.kumamoto-u.ac.jp/WebCTCE6.html) 等で、場合によっては対応している。 【改善案】 ・ なかなか難しいだろうが、最初は事例毎に作成し、徐々に一般性のあるものに育ててとういうのはどうだろうか。
C-3	・ eラーニング導入に関して、うまくいかないところがある場合、どこが悪かったかを教員が自分で判断できるように、ヒント集などが用意されているか	・ ヒント集の整備	×	【現状と問題点】 ・ eラーニング導入に関して、うまくいかないところがある場合のヒント集等は用意されていない。 【改善案】 注: eラーニング導入に関して、うまくいかないところがある場合のヒント集等を Web で公開するのがよいと思われる。
	・ 対象教員が自ら中心となってeラーニング導入を行っていると思える支援体制になっているか	・ 左記実施	○	【現状と問題点】 ・ 資金的、人的問題もあり、支援体制としては、対象教員が自らコンテンツを作成するのを支援するのが基本となっており、 ・ 対象教員が自ら中心となって eラーニング導入を行っていると思わざるおえない状況であろう。 【改善案】 ・ 「思わざるおえない」状況ではなく、しっかりした支援の上で、「思える」状況にする必要があらう。
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
S-1	・ C-1 で設定していたゴールに対して、成否を評価するチェックリストを用意しているか／それは、将来的な改善点が容易にピックアップできるようになっているか	・ 導入成果チェックシート(フォーマット)の整備	×	【現状と問題点】 ・ 用意していない。 ・ 教員ないし科目毎のゴールの設定が必要であり、その成否も各々で必要となることが予想され、なかなか難しいことにつながる。 【改善案】 ・ 個別に、IDerが対応する ・ ある程度ゴールを含めたパターン(テンプレート)を用

				意し、そこから選ぶ 等が考えられるが、なかなか実現は難しいかもしれない。
	・ eラーニングを導入した教員が、他の教員にも導入を勧めたり、支援する機会を設けているか	・ FD 報告会 や WEB 掲載の機会整備	×	【現状と問題点】 ・ ほとんど設けていないと言ってよからう。 ・ ただし、複数教員で同一科目の開発を行っているケースやeラーニング経験のある教員が中心となって講習会等の企画を学部等の単位で行う場合もあり、このような場合、eラーニングを導入した教員が、他の教員にも導入を勧めたり、支援することもある。 【改善案】 ・ 優秀なコンテンツを表彰すると同時に、その教員による導入を勧めるビデオを VOD へ置く。(eラーニング推進機構の Web の、機構の役割 (http://www.ield.kumamoto-u.ac.jp/ield.html) 等紹介の中の「コンテンツ評価WG」が表彰)・ FD研修、新人研修等に取り入れる。 等が考えられる。
S-2	・ C-2 により、対象教員が eラーニング導入の効果を確認するような手順を取っているか	・ 左記実施	×	【現状と問題点】 ・ C-2 のチェックリスト等による eラーニング導入効果確認の手順は取っていない。 【改善案】 ・ 何らかの形で、eラーニング導入効果の確認ができる手段が必要であろう。 ・ 主観的なものから、数値的なものまで、様々な角度でチェックし、その経験が無駄にならないようにしたい。
	・ eラーニングを導入した教員に何らかのインセンティブが与えられるようになっているか		×	【現状と問題点】 ・ 優秀なコンテンツの表彰を計画しているが、まだ実施されていない。(eラーニング推進機構の Web の、機構の役割 (http://www.ield.kumamoto-u.ac.jp/ield.html) 等紹介の中の「コンテンツ評価WG」が表彰予定) 【改善案】 ・ 表彰だけではなく、他に何らかのインセンティブがあると思うが、財源等も含めて難しい問題であろう。
	・ 導入科目、教員ごとに、eラーニング導入前後の比較などの成果を公表するようになっているか		×	【現状と問題点】 ・ 導入科目、教員ごとに、eラーニング導入前後の比較などの成果を公表するようになっていない。 【改善案】 ・ 事例を集めて Web で紹介するとともにデータベース化することで、経験の有効活用をはかる。
S-3	・ 的確な改善・修正をしつつも、諸評価基準の軸と質を一定に保ち、公平な支援を提供できる体制を整えているか	・ 左記実施	△	【現状と問題点】 ・ 諸評価基準の軸と質を一定に保つのは難しいが、eラーニング推進機構の Web の、機構の役割 (http://www.ield.kumamoto-u.ac.jp/ield.html) 等紹介の中の「コンテンツ評価WG」が表彰予定もあるため十分留意したい。 【改善案】 ・ 「コンテンツ評価WG」では、全学的にどの程度教材のデジタル化が進んでいるかの現状調査や評価も行うことになっており、その中で公平性を保つ。 ・ 同機構の「カリキュラム検討WG」で、教材のデジタルコンテンツ化を効率的に推進するために、カリキュラム全体を見渡す

				ことが重要で、例えば、内容の重複する授業科目は協力してデジタル化することが効率的と考え、カリキュラムの検討、支援すべき科目群の発掘、プロジェクト化、科目間調整を行うことで、支援の重点化を考えており、これは、ある意味では公平とは言えないかもしれない。つまり、公平の意味にもよるが、支援が公平なことが必ずしも得策でない場合もあると考える。例えば大学院で2人しか受けない科目と、初学年で 1000 人以上が同じ内容を受ける科目に対して、同じような支援を行うのはかえって不公平といえないだろうか。
--	--	--	--	---

(表中原文のまま)

試用大学⑨：大阪経済法科大学（大阪府）…非対面式

【前提】

学内における e ラーニングに対する明確な定義や共通理解はないが、広く ICT を活用した教育方法として捉えられている。主には授業支援・補完（ブレンデッド）や自学自習教材とし利用されている。

	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
A-1	・ 教員向け Web など、e ラーニング導入に関する情報を配信する手段を整備しているか	・ 教員向け e ラーニング導入支援情報配信サイト構築	×	e ラーニング導入に関する Web サイトは未整備。
		・ 同主旨の冊子等作成・配付	○	教員向け冊子(教育の情報化支援サービス冊子)は作成し、配布している。
		・ 同主旨のメール等配信	×	メール等の配信はない。
	・ e ラーニング導入の利点に関する情報を配信しているか	・ 左記実施	○	上記の冊子配布の他、学内セミナーを定期的実施。内容は、教育用システムの操作講習会など。2009 年 1 月には e ラーニングの活用事例紹介をセミナー形式で開催予定
	・ 各種情報配信において、タイトルやイメージ図など、関心を引きつけるように工夫されているか		—	
A-2	・ e ラーニングという形態（カラクリ）を有効活用している科目事例を提示しているか	・ 左記実施	△	教員の FD 関連の部会での報告はあるが、教員らへの周知・提示は不十分。上記のセミナー等を活用して、事例提示を行っていく予定。
	・ e ラーニングの有効性が論理的に解り易く示されているか		×	NG.
	・ 従来の問題点がいかに e ラーニングで解決できるか、事例が紹介されているか		×	NG.
	・ 工夫次第で応用の可能性がどんどん広がることが示されているか		×	NG.
A-3	・ 配信する諸情報は簡潔・端的にまとめられているか	・ 左記実施	△	冊子ではまとめられている。Web サイトはなし。
	・ 短い説明が難しい場合は内容をブロックに分けて飽きないように工夫しているか		△	同上。
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
R-1	・ 当該学問領域における e ラーニング活用事例を提示するなどして、対象教員の科目での利用イメージが湧きやすくしているか	・ 左記実施	×	提示する機会や場を持っていない。関心のある教員とは個別で協議したり提案したりすることはあるが、全学的な取り組みとはなっていない。
		※当該領域における汎用性を示すこと。		
	・ 対象教員が思い描く理想の授業がどのように実現できるのか示しているか	・ 左記実施	×	同上。

R-2	・ 対象教員に、eラーニングの有効性の理解とそれによる担当科目の改善が、いかに重要であるか認識させる内容になっているか	・ 左記実施	×	同上。
	・ 対象教員が自ら進んで目標を達成したいと思わせる内容になっているか		×	同上。
R-3	・ 対象教員の IT リテラシーに合わせた、無理のないeラーニング導入イメージを提示しているか	・ 左記実施	×	この点が難しさの一つ。IT 活用やeラーニング実施をサポートする体制(人員)が乏しく、IT リテラシーの低い教員になかなかeラーニングの導入が広がらない。
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
AT-1	・ 対象教員が当該科目のeラーニング導入において利用できるシステム類、ツール類の種類・機能・使い方について具体的に明示・説明しているか	・ 左記実施	○	冊子等で説明。何度か操作説明会等も実施しているが、参加率の問題もあり、全教員への周知度は高くない。
AT-2	・ 対象教員が当該科目のeラーニング導入において受けられる支援(準備支援・運用支援・障害対応支援など)について具体的に明示しているか	・ 左記実施	○	支援内容についての冊子配布を行っている。
	・ 対象教員に、著作権に関する支援の内容を明示しているか	・ 関連サイトなどへのリンク掲載	×	NG.
		・ 著作権処理の方針明示		
	・ 対象教員に、今後のeラーニング導入における支援の保証を明示しているか	・ 左記実施	○	支援・サポートすることは提示している。
AT-3	・ IDについて簡潔に説明しているか	・ 左記実施	×	NG.
	・ IDに基づく、eラーニングを有効活用した授業の設計方法について具体的に説明しているか	※IDに関するリファレンス(外部リンク・参考文献)提示	×	NG.
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
C-1	・ eラーニング導入についてのゴール(目標)を設定し、対象教員と共有できているか	・ 左記実施	×	NG.
		※ドキュメント化(可視化)すること		
C-2	・ eラーニング導入前後で学習成果(効果)を対比するためのチェック項目を挙げているか	・ 学習成果チェックシート(フォーマット)の整備	×	NG.
	・ 当該科目のeラーニング化を小さなステップに分けて実施し、その都度出来具合と効果を確認しながら進める体制になっているか	・ 左記実施	×	NG.

C-3	・ eラーニング導入に関して、うまくいかないところがある場合、どこが悪かったかを教員が自分で判断できるように、ヒント集などが用意されているか	・ ヒント集の整備	×	NG.
	・ 対象教員が自ら中心となってeラーニング導入を行っていると思える支援体制になっているか	・ 左記実施	×	NG.
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
S-1	・ C-1 で設定していたゴールに対して、成否を評価するチェックリストを用意しているか／それは、将来的な改善点が容易にピックアップできるようになっているか	・ 導入成果チェックシート（フォーマット）の整備	×	NG.
	・ eラーニングを導入した教員が、他の教員にも導入を勧めたり、支援する機会を設けているか	・ FD 報告会やWEB掲載の機会整備	○	事例紹介のセミナー、教員のFD部会等を通じて紹介.
S-2	・ C-2により、対象教員がeラーニング導入の効果を確認するような手順を取っているか	・ 左記実施	×	NG.
	・ eラーニングを導入した教員に何らかのインセンティブが与えられるようになっているか		×	NG.
	・ 導入科目、教員ごとに、eラーニング導入前後の比較などの成果を公表するようになっているか		×	NG.
S-3	・ 的確な改善・修正をしつつも、諸評価基準の軸と質を一定に保ち、公平な支援を提供できる体制を整えているか	・ 左記実施	×	NG.

(表中原文のまま)

試用大学⑩：札幌学院大学（北海道）…非対面式

【前提】

対面、遠隔、独学という実施形態は問わず、パソコンや携帯端末などの電子機器を使用し、情報ネットワークを通じて多様な教育リソース（電子的に構成された教材はもとよりネットワーク上の雑多な情報、教授者や学習者の知識や経験までを含む）を活用した教育学習活動と捉えている。

	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
A-1	・ 教員向け Web など、eラーニング導入に関する情報を配信する手段を整備しているか	・ 教員向け eラーニング導入支援情報配信サイト構築	×	Web ページでの情報提供環境は整備していない。毎年、年度始めにeラーニング利用に関する案内パンフを配布している(非常勤講師を含む)。専任教員向け講習会を開催しているが、eラーニング利用に関心のない教員への対応は特段行っていない。
		・ 同主旨の冊子等作成・配付	○	Web ページよりも、全教員対象のメルマガなどブッシュ型の情報提供の必要性を感じている。
		・ 同主旨のメール等配信	×	4年前、関連情報として、電子的な教材を作成、発信するにあたっての著作権の取扱いに関する冊子(文化庁発行)を配布した。
	・ eラーニング導入の利点に関する情報を配信しているか	・ 左記実施	×	「このような利用ができる」という機能紹介を案内パンフに掲載しているが、利点は特に示していない。
A-2	・ 各種情報配信において、タイトルやイメージ図など、関心を引きつけるように工夫されているか		△	システムの全体構造への理解を助ける画面イメージを提示している。
	・ eラーニングという形態(カラクリ)を有効活用している科目事例を提示しているか	・ 左記実施	×	成功事例、失敗事例ともに情報発信していない。具体的な実践を広報する必要性を感じている。
	・ eラーニングの有効性が論理的に解り易く示されているか		×	論理的に展開するほどのボリュームではない(現状は、箇条書き程度のものに過ぎない)。
	・ 従来の問題点がいかにeラーニングで解決できるか、事例が紹介されているか		×	紹介を行っていない。具体的な実践を広報する必要性を感じている。
A-3	・ 工夫次第で応用の可能性がどんどん広がることが示されているか		×	示していない。具体的な実践を示した案内の必要性を感じている。
	・ 配信する諸情報は簡潔・端的にまとめられているか	・ 左記実施	△	案内パンフはA4版1枚程度としているが、必要十分な情報量とはいえない。
	・ 短い説明が難しい場合は内容をブロックに分けて飽きないように工夫しているか		×	案内パンフはわずかな情報量なので、特段の工夫は行っていない。
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
R-1	・ 当該学問領域におけるeラーニング活用事例を提示するなどして、対象教員の科目での利用イメージが湧きやすくしているか	・ 左記実施	×	していない。学問領域ごとにeラーニング活用事例を提示することも有用かもしれないが、当該学問領域に限らず、広く多様な事例を提示し、自分が担当する授業科目への適用可能性を教員自身に考えさせることが重要と考える。
		※当該領域における汎用性を示すこと。		
R-2	・ 対象教員が思い描く理想の授業がどのように実現できるのか示しているか	・ 左記実施	×	示していないが、それぞれの授業科目に対して、改善の可能性や方向性を示す有用性は感じる。
	・ 対象教員に、eラーニングの有効性の理解とそれによる担当科目の改善が、	・ 左記実施	×	(「内容」とは何の内容なのか示されていないので、前項「A」で提示された「教員向け Web など、eラーニング導入に関する情報を配信する手段」と考えて回答する)

	いかに重要であるか認識させる内容になっているか			なっていない。
	・ 対象教員が自ら進んで目標を達成したいと思わせる内容になっているか		×	(「内容」とは何の内容なのか示されていないので、前項「A」で提示された「教員向け Web など、eラーニング導入に関する情報を配信する手段」と考えて回答する) なっていない。
R-3	・ 対象教員の IT リテラシーに合わせた、無理のないeラーニング導入イメージを提示しているか	・ 左記実施	×	していないが、教員に合った e ラーニング導入を提示して、無理のないペースで進められるような工夫は有用と考える。
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
AT-1	・ 対象教員が当該科目のeラーニング導入において利用できるシステム類、ツール類の種類・機能・使い方について具体的に明示・説明しているか	・ 左記実施	×	eラーニング利用希望者に対する具体的な個別支援は実施しているが、教員全体に対してということであれば、特段の情報提供は行っていない。
AT-2	・ 対象教員が当該科目のeラーニング導入において受けられる支援(準備支援・運用支援・障害対応支援など)について具体的に明示しているか	・ 左記実施	×	同上
	・ 対象教員に、著作権に関する支援の内容を明示しているか	・ 関連サイトなどへのリンク掲載 ・ 著作権処理の方針明示	△	していない(著作権処理に関する支援は行っていないため。ただし、電子的な教材を作成、発信するにあたっての著作権の取扱いに関する冊子(文化庁発行)を配布している)。
	・ 対象教員に、今後のeラーニング導入における支援の保証を明示しているか	・ 左記実施	×	していない。
AT-3	・ ID について簡潔に説明しているか	・ 左記実施	×	していない。
	・ ID に基づく、eラーニングを有効活用した授業の設計方法について具体的に説明しているか	※IDに関するリファレンス(外部リンク・参考文献)提示	×	していない。
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
C-1	・ eラーニング導入についてのゴール(目標)を設定し、対象教員と共有できているか	・ 左記実施	×	できていない。
		※ドキュメント化(可視化)すること		
C-2	・ eラーニング導入前後で学習成果(効果)を対比するためのチェック項目を挙げているか	・ 学習成果チェックシート(フォーマット)の整備	×	掲げていない。
	・ 当該科目のeラーニング化を小さなステップに分けて実施し、その都度出来具合と効果を確認しながら進める体制になっているか	・ 左記実施	×	なっていない。
C-3	・ eラーニング導入に関して、うまくいかないところがある場合、どこが悪かったかを教員が自分で判断	・ ヒント集の整備	×	していない。

	できるように、ヒント集などが用意されているか			
	・ 対象教員が自ら中心となってeラーニング導入を行っていると思える支援体制になっているか	・ 左記実施	×	なっていない。
	チェック項目	タスクリスト		チェック結果記入欄(不足点・改善案など併記)
S-1	・ C-1 で設定していたゴールに対して、成否を評価するチェックリストを用意しているか／それは、将来的な改善点が容易にピックアップできるようになっているか	・ 導入成果チェックシート（フォーマット）の整備	×	していない。
	・ eラーニングを導入した教員が、他の教員にも導入を勧めたり、支援する機会を設けているか	・ FD 報告会やWEB 掲載の機会整備	×	設けていない。
S-2	・ C-2 により、対象教員がeラーニング導入の効果を確認するような手順を取っているか	・ 左記実施	×	取っていない。
	・ eラーニングを導入した教員に何らかのインセンティブが与えられるようになっているか		×	なっていない。
	・ 導入科目、教員ごとに、eラーニング導入前後の比較などの成果を公表するようになっているか		×	なっていない。
S-3	・ 的確な改善・修正をしつつも、諸評価基準の軸と質を一定に保ち、公平な支援を提供できる体制を整えているか	・ 左記実施	×	整えていない。

(表中原文のまま)

【ARCS+ATモデル】ver1.1

ARCS+ATモデルとは、eラーニング導入支援者がeラーニング導入教員を支援するに当たって、当該機関の方針に沿って(または、方針を整備しつつ)eラーニング導入を成功に導くための「教員を動機づける」ための方策集として、インストラクショナル・デザイン(ID)に基づいてまとめたものです。

[基本情報]

1. 構成	ARCS+ATモデルは、 1) ARCS+ATモデル(各要素解説) 2) ARCS+ATチェックリスト 3) ARCS+ATウェブサイト(サンプル) から成り立っています。
2. 利用者	ARCS+ATモデルは、 eラーニング導入支援者が、 所属機関におけるeラーニング導入に当たって利用します。
3. 利用対象	ARCS+ATチェックリストを使って、 所属機関全体を対象にしてチェックをかけます。 ただし、チェックリストでは、 【要素A】は機関全体を、【要素R・AT・C・S】は科目ごとの対応を 主眼においてまとめています。
4. 利用方法	ARCS+ATチェックリストでチェックをかけたあと、 明確となった改善点、工夫点について、整備計画を提案し、実行する。 その環境にて、個別にeラーニング導入支援を行い、 導入実績を所属機関全体に還元します。 これらの作業サイクルを反復します。
5. その他	前項の作業サイクルを所属機関全体で共有するため ARCS+ATウェブサイト(サンプル)を利活用して随時情報提供してください。

1) ARCS+ATモデル(各要素解説)

注意 (Attention) <面白そうだなあ>

機関全体に対して、学外を含めた全般的な「注意を引く」情報を提示する方策を整備します。

A-1:知覚的喚起 (Perceptual Arousal)	面白そうだなあと関心を引きつける →教員に、eラーニングという効果的な教育方法（論）があることに気付かせる。
A-2:探求心の喚起 (Inquiry Arousal)	好奇心を大切にする →教員に、自分の研究や教育資源を学生に伝播するのにとても役立つそうなので使ってみたいと思わせる。
A-3:変化性 (Variability)	マンネリを避ける →eラーニングの効果に関する教員への説明や解説は、長く続けずに、簡潔にまとめる。

関連性 (Relevance) <役立ちそうだなあ>

機関全体に対して、学外を含めた一般論的な、個別に有用な「関連性のある」情報を提示する方策を整備します。eラーニング導入が「効果的である」という前提に立って整備します。

R-1:親しみやすさ (Familiarity)	対象教員の担当科目・専門領域を前提とする →対象教員が担当する科目・講義を取り上げて、その教員が思い描く理想の授業をeラーニング導入によって実現する方法を示す。
R-2:目的指向性 (Goal Orientation)	目標達成の重要性をはっきり認識させ、自らそこへ向かわせる →対象教員に、当該科目のeラーニング化による改善の重要性を認識させ、自ら進んで取り組ませる。
R-3:動機との一致 (Motive Matching)	プロセスを楽しめるよう配慮する →対象教員のITリテラシーの有無に関わらず、教員に合ったeラーニング導入を提示して、無理のないペースで進められるよう工夫する。

支援 (Assistance & Tools) <頼れそうだなあ>

機関全体に対して、個別に有用な機関の「利用できる支援」情報を提示する方策を整備します。また、IDの有効性を伝播する方策を整備します。

AT-1:ツール明示 (Tool Information)	選択肢としてどのようなシステム利用が可能か明示している →対象教員が利用可能なeラーニングシステムやツールについて明示する。
AT-2:支援明示 (Assistance Information)	どれだけの支援が受けられるか明示している →対象教員が受けることが出来る、eラーニング導入・運用に係る支援について明示する。
AT-3:ID明示 (ID Guidance)	ID (Instructional Design) のノウハウを明示している →効果的なeラーニング導入実現のための、IDのノウハウについて明示する。

自信（Confidence）＜実現・改善していけそうだなあ＞

主に個別支援対応を想定して「実現可能性を感じさせる」情報を提示する方策を整備します。

C-1:講義要求 (Instruction Requirement)	ゴールインテープをはる →何ができたらeラーニング導入の完了とするかをはっきり具体的に示す。
C-2:成功の機会 (Success Opportunities)	一歩ずつ確かめて進めるよう配慮する →従来の対面講義とeラーニング導入後の講義との比較で、その効果を確認められるようにする。
C-3:コントロールの個人化 (Personal Control)	自己コントロールを促進する →対象教員が自ら中心となってeラーニング導入を行ったと思えるようにする。

満足感（Satisfaction）＜導入してよかったなあ＞

主に個別支援対応を想定して「導入実現」に関する情報を提示する方策を整備します。

S-1:自然な結果 (Natural Consequences)	無駄に終わらせない →eラーニング導入による授業の改善が実感できるよう、目標に基づいてすぐにチェックできるようにする。
S-2:肯定的な結果 (Positive Consequences)	建設的な評価を行う →受講生の学習成果から、eラーニング導入の価値や重要性をもう一度強調する。
S-3:公平さ (Equity)	支え続ける →eラーニング導入状況やその効果等に関する評価基準を一定に保つ。公平な支援体制を実現する。

2) ARCS+ATチェックリスト

[はじめに]

ARCS+ATチェックリストの利用にあたっては、ARCS+ATモデル[基本情報] をご参照の上、各項目についてチェックをかけてください。各項目については、前項の1)ARCS+ATモデル(各要素解説)に基づいて、「このことが、当該機関において最善の状況に整備されていれば〇」、されていなければ、そこが改善していける箇所」という具合に機関における問題、課題を主体的に洗い出すことにより、機関としての改善策の検討・実施が促され、そうして整備された環境で主体的な「eラーニング導入支援」が展開できるようになります。

[利用に当たって]

ここでは「eラーニング」を広義のeラーニングとして取り扱っていますが、機関によって「eラーニングの定義」や「eラーニング推進計画・方向性」は異なりますので、最初に機関における大前提を確認する作業を行ってからARCS+ATチェックリストへ進んでください。

項目	回答記入欄
機関における eラーニングの定義は？ (どのように受け止められているか)	例) 広くICT全般を捉えてeラーニングとしている。
機関における eラーニング推進の方向性は？ 計画は？	例) 全学的に推進に前向きですが具体的な計画は提示されていない。

もし上記項目いずれも回答できる状況にない(=eラーニングが推進されていない)場合、チェックリストは全体的に回答しにくいことがあります。この場合、次項の3)ARCS+ATウェブサイト(サンプル)をご参照、ご活用いただき、eラーニング推進の足がかりとしてください。

[チェックリスト]

注意（Attention）＜面白そうな方法だなあ＞

	チェック項目	タスクリスト	チェック結果記入欄（不足点・改善案など併記）
A-1 知覚的 喚起	1. 教員向け Web など, e ラーニング導入に関する情報を配信する手段を整備しているか	・ 教員向け e ラーニング導入支援情報配信サイト構築 ・ 同主旨の冊子等作成・配付 ・ 同主旨のメール等配信	
	2. e ラーニング導入の利点に関する情報を配信しているか	・ 前項の手段による配信における方策	
	3. 各種情報配信において, タイトルやイメージ図など, 関心を引きつけるように工夫されているか		
A-2 探求心 の喚起	1. e ラーニングという形態（カラクリ）を有効活用している科目事例を提示しているか	・ 前項の手段による配信における方策	
	2. e ラーニングの有効性が解り易く示されているか		
	3. 従来の問題点がいかに e ラーニングで解決できるか, 事例が紹介されているか		
	4. 工夫次第で応用の可能性がどんどん広がることが示されているか		
A-3 変化性	1. 配信する諸情報は簡潔・端的にまとめられているか	・ 教員が飽きない, 混乱しない書き様	
	2. 短い説明が難しい場合は内容をブロックに分けて飽きないように工夫しているか		

関連性（Relevance）＜役立ちそうだなあ＞

	チェック項目	タスクリスト	チェック結果記入欄（不足点・改善案など併記）
R-1 親しみ やすさ	1. 各学問領域における e ラーニング活用事例を提示するなどして, 対象教員の科目での利用イメージが湧きやすくしているか	・ 左記実施 ※当該領域における汎用性を示すこと.	
	2. 対象教員が思い描く理想の授業がどのように実現できるのか示しているか	・ 個別対応の場合, 当該教員の個別の理想を聴取した上で求められる情報の提示, 例示	
R-2 目的 指向性	1. 対象教員に, e ラーニングの有効性を理解し, それによる担当科目の改善が, いかに重要であるか認識させる内容になっているか	・ 個別対応の際に, (e ラーニング導入に意義を見出せる場合), 教員本人が「e ラーニング導入を進めていこう」となる情報の提示 ※「目標」は当該教員が持つ, e ラーニング導入によって果たす目標.	
	2. 対象教員が自ら進んで目標を達成したいと思わせる内容になっているか		
R-3 動機と の一致	1. 対象教員の IT リテラシーに合わせた, 無理のない e ラーニング導入イメージを提示しているか	・ 当該教員の IT リテラシーの状況に合わせた導入イメージの提示	

支援（Assistance & Tools）＜頼れそうだなあ＞			
	チェック項目	タスクリスト	チェック結果記入欄（不足点・改善案など併記）
AT-1 ツール 明示	1. 対象教員が当該科目のeラーニング導入において利用できるシステム類、ツール類の種類・機能・使い方について具体的に明示・説明しているか	・ Web, 冊子, 掲示等による情報配信	
AT-2 支援 明示	1. 対象教員が当該科目のeラーニング導入において受けられる支援（準備支援・運用支援・障害対応支援など）について具体的に明示しているか	・ Web, 冊子, 掲示等による情報配信	
	2. 対象教員に、著作権に関する支援の内容を明示しているか	・ 関連サイトなどへのリンク掲載 ・ 著作権処理の方針明示	
	3. 対象教員に、今後のeラーニング導入における支援の保証を明示しているか	・ 支援体制の保持を明示	
AT-3 ID明示	1. IDについて簡潔に説明しているか	・ 左記実施 ※IDに関するリファレンス（外部リンク・参考文献）提示	
	2. IDに基づく、eラーニングを有効活用した授業の設計方法について具体的に説明しているか		

自信（Confidence）＜実現・改善していけそうだなあ＞			
	チェック項目	タスクリスト	チェック結果記入欄（不足点・改善案など併記）
C-1 講義 要求	1. eラーニング導入についての成否指標を設定し、対象教員と共有できているか	・ 当該教員とeラーニング導入実施の成否判断指標を予めドキュメント化して共有 [参照] IDレイヤーモデル(鈴木,2005)	
C-2 成功の 機会	1. eラーニング導入前後で学習成果（効果）を対比するためのチェック項目を挙げているか	・ 当該教員と学習成果チェックシートを予めドキュメント化して共有	
	2. 当該科目のeラーニング化を小さなステップに分けて実施し、その都度出来具合と効果を確認しながら進める体制になっているか	・ eラーニング導入、実施の過程で当該教員と進捗状況を確認する体制整備	
C-3 コントロール の個人 化	1. eラーニング導入実施に関して、うまくいかないところがある場合、どこが悪かったかを教員が自分で判断できるように、ヒント集などが用意されているか	・ ヒント集の整備 ・ 質問箱の整備	
	2. 対象教員が自ら中心となってeラーニング導入実施を行っていると思える支援体制になっているか	・ 過干渉のない体制整備	

満足感 (Satisfaction) <導入してよかったなあ>			
	チェック項目	タスクリスト	チェック結果記入欄 (不足点・改善案など併記)
S-1 自然な結果	1. C-1で設定・共有した成否指標を評価するチェックシートにより、将来的な改善点が容易にピックアップできるようになっているか	・ eラーニング導入成否チェックシートの利用による成否チェックを実施など	
	2. eラーニングを導入した教員が、他の教員にも導入を勧めたり、支援する機会を設けているか	・ FD報告会やWEB掲載の機会整備	
S-2 肯定的な結果	1. C-2により、対象教員がeラーニング導入の効果を確認するような手順を取っているか	・ 当該教員との定期的な確認機会 (チェックシート利用) を持つなど	
	2. eラーニングを導入した教員に何らかのインセンティブが与えられるようになっているか	・ 手当で支給など	
	3. 導入科目、教員ごとに、eラーニング導入前後の比較などの成果を公表するようになっているか	・ FD報告会やWEB掲載の機会整備	
S-3 公平さ	1. 的確な改善・修正をしつつも、諸評価基準の軸と質を一定に保ち、公平な支援を提供できる体制を整えているか	・ eラーニング導入成否チェックシートをはじめとする諸基準を公開 ・ 支援体制の恒常的な運営を明示	

注) 要素C・Sで記載した「eラーニング導入成否チェックシート」は、ARCS+ATウェブサイト(サンプル)に掲載しているのでそちらを参照ください。

3) ARCS+ATウェブサイト(サンプル)

画面例は別添資料をご参照ください。なお、その構成は以下のとおりです。

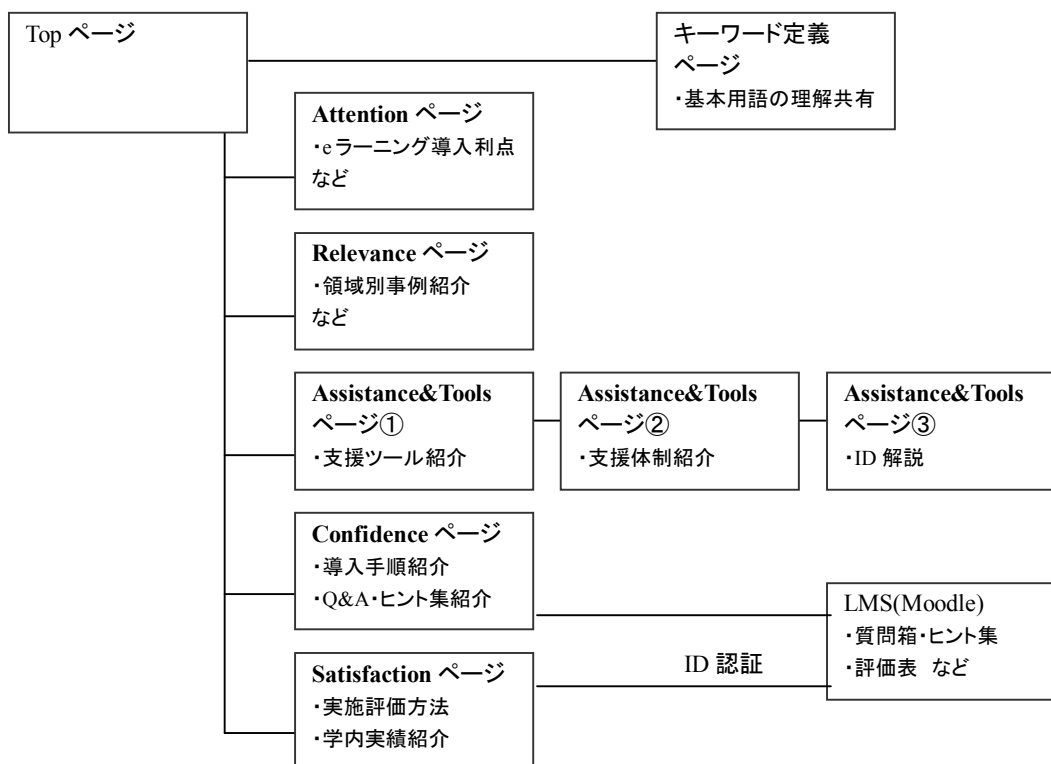


図1. ARCS+ATウェブサイト(サンプル)構成図

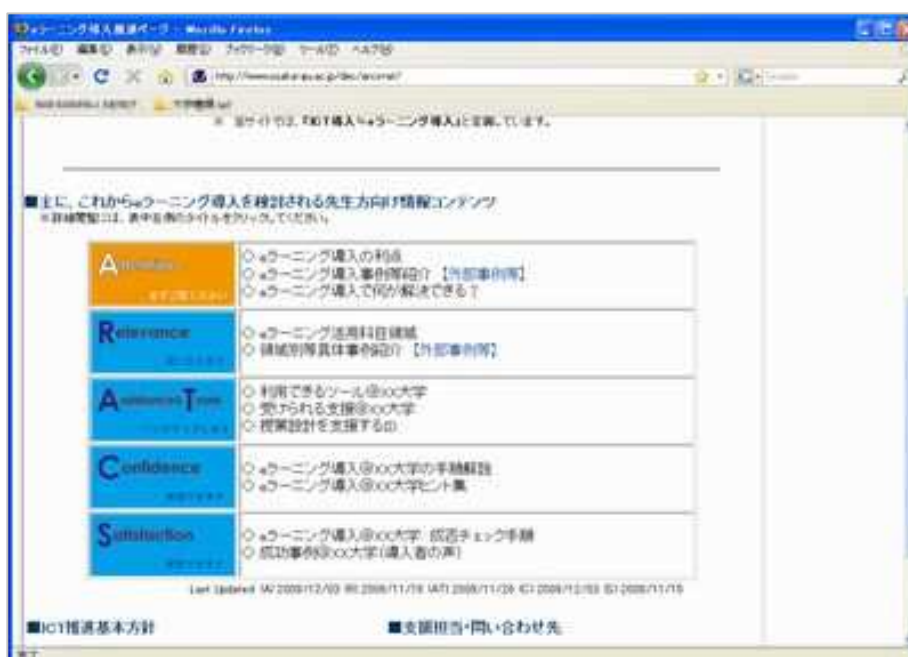


図2. ARCS+ATウェブサイト(サンプル)イメージ

添付資料 1: ARCS+AT ウェブサイト画面イメージ
添付資料 2: ARCS+AT チェックリスト記入例

[eラーニング導入推進サイト]

メインテーマは、[eラーニング導入推進]。
…有効な利活用を目指して



ITセンターは、
本学の教育におけるICTの有効利活用を推進します。

先生方の担当科目において、
「そもそも、はたしてICT活用が有用なのか？」という視点から
「何をどう使ってどのようにインストラクションするのが有用なのか？」までを
広く捉えて、効率的な協働によるICT推進に取り組みます。

[キーワード定義] [ICT](#) / [eラーニング](#) / [ID \(インストラクショナル・デザイン\)](#) など

※ 当サイトでは、「ICT導入 eラーニング導入」と定義しています。

■主に、これからeラーニング導入を検討される先生方向け情報コンテンツ

※ 詳細閲覧には、表中左側のタイトルをクリックしてください。

A ttention まずご覧ください	◇ eラーニング導入の利点 ◇ eラーニング導入事例等紹介 [外部事例等] ◇ eラーニング導入で何が解決できる？
R elevance 役に立ちます	◇ eラーニング活用科目領域 ◇ 領域別等具体事例紹介 [外部事例等]
A ssistance & T ools バックアップします	◇ 利用できるツール@XX大学 ◇ 受けられる支援@XX大学 ◇ 授業設計を支援するID
C onfidence 実現できます	◇ eラーニング導入@XX大学の手順解説 ◇ eラーニング導入@XX大学ヒント集
S atisfaction 実感できます	◇ eラーニング導入@XX大学 成否チェック手順 ◇ 成功事例@XX大学 (導入者の声)

Last Updated: (A) 2008/12/04 (R) 2008/11/15 (AT) 2008/12/16 (C) 2008/12/03 (S) 2008/11/15

■ICT推進基本方針

[ITセンター]では、本学の教育とICTを適切に橋渡すことを主旨として、講義の効果・効率・魅力を高める一助となる支援を提供します。
支援においては、先生方主体で進められるよう柔軟なサポート提供を目指します。

■支援担当・問い合わせ先

ITセンター
XXXX@XXX.ac.jp

※当サイト管理者は、
大阪学院大学ITセンター主任
／熊本大学大学院教授システム学専攻M2
[中嶋](#)です。

■キーワード定義

頻出する用語の理解を共有するため、各用語について本学における理解を定義付けします。
なお、必要があれば 随時更新します。

キーワード	本学での解釈／一般的語彙／Wikipediaリンクなど
ICT	ICT とは、情報コミュニケーション技術と表現され、情報技術(IT)だけではなく、人と人とのコミュニケーションの重要性を含む表現として用いられることもあります。本学では、このICTの中で、特に、「eラーニング」を重視していることから、「ICT推進」や「ICT導入」を、「eラーニング推進」や「eラーニング導入」とほぼ同義的にとらえています。 ・「ICT」＝「Information and Communication Technology」の略 ・IT用語辞典Binary:「ICT」
eラーニング	本学では、「eラーニング」を「広義のeラーニング」と捉えています。 つまり、「コンピュータやネットワークを有効活用した教育、学習」のことを指して「eラーニング」としていますので、「eラーニング導入」とは、たとえば、「講義をネットワーク上で自学自習形式で実施する」のも「講義にプレゼンテーションスライドを活用する」のもすべて含みます。 ・IT用語辞典e-Words:「eラーニングとは」 ・Wikipedia:「eラーニング」
LMS	本学では、「OGU-Caddie」がLMSに当たります。 ネットワーク上で教員・学生が都合のよい時間にアクセスできる仮想的クラスルームです。 ここでは、学生は、資料閲覧／レポート提出／小テスト受験／掲示板書き込みなどができ、教員はこれを一括管理することができます。 「24hのオンデマンドによる教員や学生、学生間のインタラクションが可能」がウリとなります。 ・「LMS」＝「Learning Management System」の略。 ・CMS (Course Management System) という場合もあります。 ・eラーニング用語集 (日本eラーニングコンソーシアム)

その他、サイト内で使用しているキーワードについて説明します。
こちらも必要があれば随時更新します。

キーワード	本学での解釈／一般的語彙／Wikipediaリンクなど
ID (インストラクショナル・デザイン)	一般的に、IDとは「教育・研修の効果・効率・魅力を高めるための体系的なアプローチに関する方法論」とされています。 このIDは、特にeラーニングにおいて、その科目内容によらず、学習者に学習の継続性や教育効果を高め、効率的に目的を達成させる授業設計手法として近年注目を集めています。 ・Wikipedia:「インストラクショナル・デザイン」 ・IDer (Instructional Designer) : IDを使って授業設計を支援する役割をインストラクショナルデザイナーと言います。「IDer」と表記します。
インストラクション	当サイトでは、「インストラクション」は「講義 (コース・1回の講義など総じて)」を表します。
SME	科目の専門家のことを指します。 ・Subject Matter Expertの略。

Last Updated 2008/10/27

※ 記載内容について問い合わせがありましたら、下記問い合わせ先までご連絡ください。

ITセンター
XXXX@XXX-u.ac.jp

- ◇ [eラーニング導入の利点](#)
- ◇ [eラーニング導入事例等紹介](#)
- ◇ [eラーニング導入で何が解決できる？](#)

◇ eラーニング導入の利点

eラーニングを導入する、ICTを活用する、といってもただ道具を使うだけでよい成果を導けるわけではありません。
eラーニング活用には、よい準備とよい使い方がなされる必要があります。これを前提として、その利点をまとめています。

[オンライン環境を利用したeラーニングの利点]

eラーニングを利用するメリット3大要素

情報提示 : 24時間、いつでもどこでも授業コンテンツにアクセスできること
相互作用 (インタラクション) : オンラインの同期や非同期のディスカッションや質疑によって理解を深められること
外部リソース接続 (リンク) : WWW上の様々なリソースを直に活用できること

「eラーニングの11のベネフィット」 (ローゼンバーグ,2002) より抜粋

- ・ 伝達される内容はニーズに応じて、統一することもカスタマイズすることもできる
- ・ 内容は常に新しく、信憑性がある
- ・ 毎日24時間いつでも学習できる
- ・ 利用のための準備に時間がかからない
- ・ 普遍性がある (=世界共通のインターネットプラットフォームを利用している)
- ・ コミュニティを構築できる
- ・ 拡張性が高い

「よくデザインされたeラーニングのメリット」 (ブロードベント,2002, 鈴木訳出,2004)

<学習者にとって>

1. オンライン討議で質疑をやり取りするときに、理解や記憶を刺激する相互作用を生む。
2. 学習スタイルの差に応じたバラエティに富む学習が可能で、様々な学習者を支援できる。
3. 自己ペースで学習することができ、自分が好むスピードで学習を進めることを可能にする。
4. いつでもどこでも学習を進めることができる便宜を提供する。
5. 移動に必要な時間と費用を節約できる。
6. WWWへのハイパーリンクで情報を探しにいくことを可能にする。
7. Web上の情報のうち、適切で焦点化した素材を選ぶことを可能にする。
8. 作業支援ツールで文脈に適したヘルプが提供される。
9. インターネットを使うための技術的なスキルを向上させる。
10. 学習者に学習に対する責任をもたせ、知識や自信を高める。

<インストラクタにとって>

1. いつでもどこからでも (学習者から) インストラクタへのアクセスが可能になる。
2. すべての学習者にあらかじめ重要な情報をパッケージ化して提供しておくことで、インストラクタは授業実施時に高次の活動に集中できる。
3. スレッド型掲示板やストリーミング技術を使って討議記録を残し、あとで参照できる。
4. 学習者の積極的な参加を得ることで、個人差に応じた指導を可能にする。
5. 授業実施に係る移動と宿泊の費用を削減できる。
6. インストラクタがWeb上の最新情報へアクセスすることを推奨する。
7. 印刷物による遠隔教育に比べて、より積極的なかわりをサポートするコミュニケーションを可能にする。

<教材開発者にとって>

1. Webサイト上で、教材や宿題、管理情報などのレイアウトを標準化できる。
2. 教材の更新を迅速化する枠組みを設定できる。
3. 投票システムやクイズなどの革新的でインタラクティブなツールを使うことを推奨する。
4. コンピテンシー評価や職務遂行管理のためのツールと学習を結びつける。
5. 現存するWeb上の多種多様な資源へのアクセスを推奨する。
6. 知識に基づいた質問への回答を自動化できる。
7. インターネット上の討議機能を用いて参加者同士の有意義な意見交換を可能にする。
8. 音声ファイルやビデオストリーミング、個別的ビデオ会議などの技術を使うことで、より引き込まれやすい個別対応要素を追加できる。

<管理者にとって>

1. 学習者の参加・進捗状況についてのレポートを自動的・継続的に提供する。
2. 伝統的な集合研修施設 (=教室等設備) にかかる財産資源を削減できる。

3. 遠隔学習プログラムに係る教材作成、郵送、電話のコストを削減できる。
4. HTMLファイルとブラウザを用いることで、WindowsやUNIX、Machintoshなどの異なるプラットフォームで同じ教材を活用できる。
5. テンプレートを用いることで、研修（＝講義）プログラムにより統一性をもたせることができる。
6. 組織横断的に研修（＝講義）プログラムを提供するためのソフトウェアを活用して「すべてここでまかなえる場所」を作ることができる。
7. 世界的に活躍するインストラクタへアクセスすることができる。

注) 一部、大学における理解に適合するよう追記しています。

References:
M.J.Rosenberg(2001). E-learning: Strategies for delivering knowledge in the digital age. McGraw-Hill
Broadbent,B.(2002). ABCs of e-learning: Reaping the benefits and avoiding the pitfalls. Jossey-Bass/Pfeiffer, ASTD.

[ページトップへ](#)

◇ eラーニング導入事例等紹介

ここでは、学外のeラーニング導入事例やeラーニング関連サイトを紹介します。是非、ご参照ください。

 社団法人私立大学情報教育協会 Japan Universities Association for Computer Education 私立大学情報教育協会	■ 教育事例等オンデマンド配信	協会で開催した会議、発表会等における教育改善のための教育方法、教材開発、教育支援に関する講演、事例紹介のデジタルアーカイブ → コンテンツのリストは誰でも見ることができますが、コンテンツそのものを閲覧する場合は認証が必要です。閲覧希望の場合は、ITセンターまでご連絡ください。
 独立行政法人 メディア教育開発センター National Institute of Multimedia Education メディア教育開発センター (NIME)	 ■ 能力開発学習ゲートウェイ NIME-glad	大学等がインターネットで配信している学習コンテンツを総合的に検索できるWebサイト
	 ■ 能力開発学習コンテンツCLAD	社会の人材ニーズとして、大学・高等専門学校卒業生に求められる知識・スキルなどの能力開発のためのeラーニング学習システム
	 ■ リメディアル教育READ	基礎学力向上のためのeラーニング学習システム
	■ NIMEセミナー (オンデマンド)	NIMEセミナーは、大学等の教職員を対象に、eラーニングの導入に必要なノウハウをはじめとした実際の教育現場に役立つ知識や能力の修得を支援し、ICT活用教育の担い手の養成を目指します。 → 「eラーニング運用実践セミナー」や「ICT活用による教員の教育力向上のためのFD実践」などをオンデマンドで視聴できます。

※随時追加掲載します。

[ページトップへ](#)

◇ eラーニング導入で何が解決できる？

では、eラーニング導入によって、これまでにあったどんな問題が解決されるのか、具体的に考えてみます。

問題1	講義時間だけでは不足。しかし補講などを実施するのは負担が大きすぎる。	[解決策・案] LMS (例: OGU-Caddie) を利用して自学自習のインストラクションを施す。24時間のインタラクティブ環境を提示する。これらにより、講義時間外の学習を促すことができる。
問題2	予習・復習をしてこない。	[解決策・案] LMSに講義前後の毎回のタスクを設置して単位取得に必須とする。これにより、全員がオンデマンドで取り組むことになり、予習・復習となる。また、学習状況管理もできるメリットもある。
問題3	小テストをしっかり受けさせたい。	[解決策・案] LMSに小テストを設置してみる。一回の問題数を少なくして回数を増やす(スモールステップ)。満点になるまで何回でも受験できるようにする。これらにより、全員がひととおり小テストをクリアする環境を創出できる。

※随時追加掲載します。

[ページトップへ](#)

※ 記載内容について問い合わせがありましたら、下記問い合わせ先までご連絡ください。

◇ eラーニング活用科目領域
 ◇ 領域別等具体事例紹介

◇ eラーニング活用科目領域

◇ 領域別具体事例紹介

ここでは、学内外のeラーニング導入事例を紹介します。
 eラーニングが利活用されている科目領域、授業形態などに注目して参照ください。
 先生方の科目でも使えそうだと参考になるところがあるかもしれません。
 是非、ご覧ください。

[科目領域別事例]

語学科目		
会計関連科目		
情報基礎科目		
		※随時追加掲載します。

[その他の分類別事例]

通信教育	「科目ガイダンス」にVODを活用	日本福祉大学通信教育部
ゼミナール	読書必須プログラムにLMSを活用	読書プログラム@外国語学部 (OGU) 学生向けチラシ (pdf)
大教室		
		※随時追加掲載します。

※ 記載内容について問い合わせがありましたら、下記問い合わせ先までご連絡ください。

ITセンター
XXXX@XXX-u.ac.jp

	◇ 利用できるツール@XX大学 ◇ 受けられる支援@XX大学 ◇ 授業設計を支援するID
---	--

◇ 利用できるツール@XX大学

本学で運用しているシステムやICT関連ツールなど、先生方がeラーニング導入に当たって利用いただけるツールを紹介します。
(※ 以下、例示です)

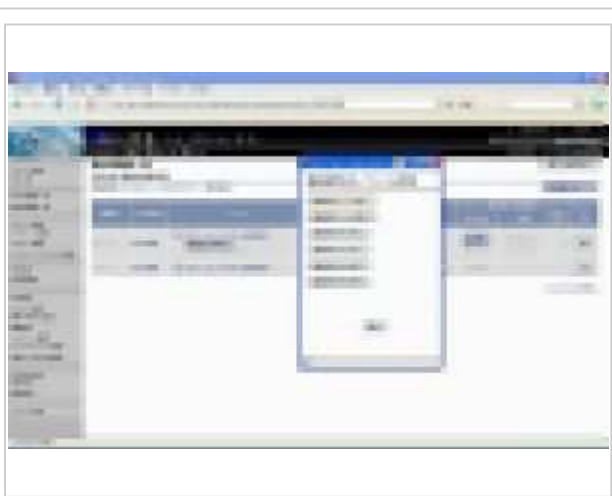
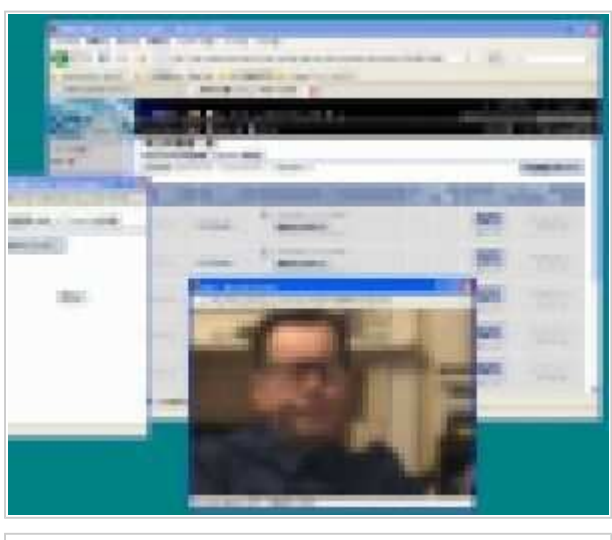
【講義中に利用できるもの】

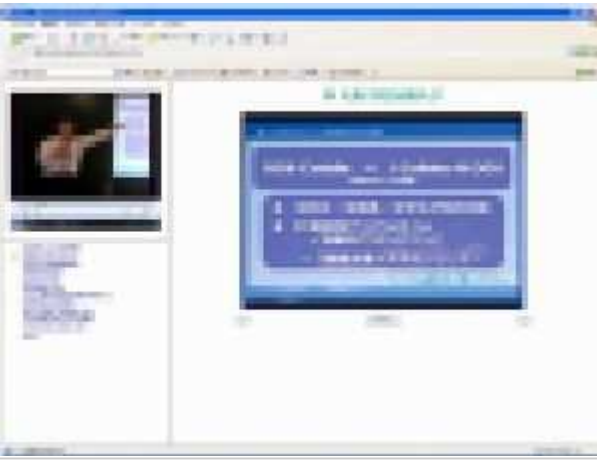
- ◇ [LMS](#)
- ◇ [Wing-NET](#)
- ◇ [ネットワークドライブ・Workフォルダ](#)
- ◇ [TV会議システム](#)
- ◇ [VODサーバ](#)
- ◇ [EZプレゼンター](#)

【講義前後に利用できるもの】

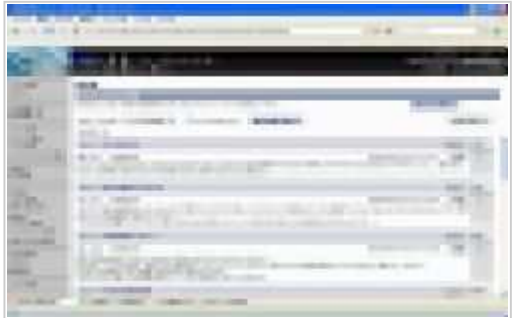
- ◇ [LMS](#)
- ◇ [VODサーバ](#)
- ◇ [WWWサーバ](#)
- ◇ [テレプロンプタ](#)
- ◇ [録音ブース](#)
- ◇ [ワークステーション](#)

【講義中に利用できるもの】

LMS		・ LMS (Learning Management System) です。 ・ 主な機能：資料配付・小テスト・アンケート・レポート・掲示板など。 ・ 時間割データ・履修登録データを一括登録しているので、ログインすればすぐに利用開始できます。 ・ 講義中であれば・・・ → スライド資料等、教室で画面提示する。 → PC教室なら、アンケート、掲示板などをその場で回答させる。 - また、その場で集計・表示することもできます。などの利用ができます。 参考リンク：利用マニュアル：
Wing-NET	画像なし	・ PC教室内の学生機を一括管理できるシステムです。
ネットワークドライブ Workフォルダ	画像なし	・ PC教室で利用いただける教室内の共有フォルダです。 注) 一時利用のための共有エリアです。個々のデータは必要に応じて別途管理してください。
TV会議システム		・ 高品質の動画・音声で、世界中のいずれとも多地点 (4箇所まで) 接続して遠隔コミュニケーションできるシステムです。 - インターネットベースで接続するので接続費用がかかりません。 ※接続先が同等の仕組みを持っていることが前提となります。 ・ 講義時に・・・ → 例えばゼミなどで、国内外の他大学と接続してプロジェクトベースで協働学習することができます。Webなどの他の (オンデマンド) ツールと併せて利用すると活動の幅と深みが広がります。
VODサーバ		・ 予め撮影した動画をストリーミング再生できるシステムです。 ・ 講義時に・・・ → 予め収録された教材、過去に収録した教材などをLMSを通して受講生に配信することができます。

EZプレゼンター		・ プレゼンテーションスライドとプレゼンテーション発表(動画)を同期させてオーサリングできるシステムです。 ・ 講義時に… → 例えば受講生がプレゼンテーションする場合、発表の様子をスライドと併せて収録し、学習の成果物として事後配付することができます。
		※随時追加掲載します。

【講義前後に利用できるもの】

LMS		・ 機能等は前述のとおり。 ・ 講義前後の利用では… → 例えば、テーマを与えて受講生同士の意見交換を必須課題とする(掲示板機能)。小テストを設置して、満点合格するまでを必須課題とする(小テスト機能)、など。
VODサーバ		・ 機能等は前述のとおり。 ・ 講義前後の利用では… → 例えば、撮影した講義を、LMSを通してオンデマンド配信することができます。欠席した受講生のキャッチアップや復習用に活用できます。
WWWサーバ	画像なし	・ 外部公開用ウェブサーバです。 ・ 利用方法は… → LMSの機能で果たせないもの(例えば、自由なレイアウトによるhtmlでの教材テキスト表示など)がある場合、Web作成で解決できる場合があります。LMSにリンクを掲載できるので、受講生はLMSをプラットフォームとして学習に集中できます。
テレプロンクタ		・ 動画撮影時に目線を動かすことなくテロップを読み上げることができる仕組みを持つものです。 ・ 利用方法は… → 上述のVODコンテンツ制作の際に効果を発揮します。レンズを見据えて話すことで、先生の熱意をストレートに伝えることができます。 ※ 利用時はITセンターが支援します。利用に関する問い合わせはITセンターまで。
録音ブース		・ オリジナルの音声マテリアルを作成できます。作成した音声マテリアルはデジタルデータとして保存されるので多用途に利用できます。 ・ 利用方法は… → 語学教材用のナレーション作成、小テスト用ナレーション作成など。

		※ 利用時はITセンターが支援します。利用に関する問い合わせはITセンターまで。 参考: 音声素材制作案内 (pdf)
ワークステーション @ITセンター		・ 教員用のワークステーションです。ITセンター内に設置しています。操作などの補助も受けられます。(プリンタ・スキャナ等完備) ・ 利用方法は… → 機器・スタッフとも支援体制を整えています。あらゆる授業準備に活用いただけます。
		※随時追加掲載します。

[ページトップへ](#)

※ 記載内容について問い合わせがありましたら、下記問い合わせ先までご連絡ください。

ITセンター
XXXX@XXX-u.ac.jp

- ◇ [利用できるツール@XX大学](#)
- ◇ [受けられる支援@XX大学](#)
- ◇ [授業設計を支援するID](#)

◇ 受けられる支援@XX大学

eラーニング導入に際して本学が提供できるサポートの内容について紹介します。
ITセンターでは、ICT推進に関わる人的支援を行っています。支援内容に合わせて担当者を派遣します。
※人員に限りがありますので、状況によっては、即時対応が難しい場合もあります。予めご了解ください。

単発講義支援	ある日のある科目の講義を支援します。	・ 受講生向けLMS等利用説明会実施
コース支援	セメスターを通してある科目を支援します。	・ 他大学との遠隔交流企画実施支援
プロジェクト型支援	あるプロジェクトの実施を支援します。	・ ある単位(学部など)で実施するプロジェクトをICTの側面から支援 例) ICT利用企画「読書プログラム@外国語学部」実施支援

■ 知的財産権の取り扱いについて

ITセンターでは、ICT推進に関わる支援における、先生方の教育コンテンツの著作権等についての処理は行っていません。
支援の際には、必要に応じて、各自で著作権処理を完了しているか確認をさせていただきますので予めご了解ください。
注) 明らかに他者の知的財産権を侵害している恐れがある場合は、支援をお断りさせていただく場合があります。

[参考サイト]

高等教育機関における教材開発支援サイト「[教育著作権情報](#)」(NIME)

→関連法令から教材開発に関する一問一答、「[著作権処理相談システム](#)」など教育現場と関わる情報が掲載されています。

[ページトップへ](#)

※ 記載内容について問い合わせがありましたら、下記問い合わせ先までご連絡ください。

ITセンター

XXXX@XXX-u.ac.jp



- ◇ [利用できるツール@XX大学](#)
- ◇ [受けられる支援@XX大学](#)
- ◇ [授業設計を支援するID](#)

◇ 授業設計を支援するID(インストラクショナル・デザイン)

授業の効果・効率・魅力を高めるための方法論であるインストラクショナル・デザインについて紹介・解説します。
なお、ここに記載されている諸事項(理論・モデルなど)の捉え方について問い合わせ、ご意見などある場合は
後述の問い合わせ先までご連絡くださいますようお願いいたします。
(文責:ITセンター中島)

■ 代表的な理論・モデル

システムのアプローチ	システムのアプローチとは、IDプロセスの学問的根拠となる考え方。 問題を解決するための一般的手法として、問題を「システムの問題」として捉え、問題所在(解決されるべき目標)を明確にしてフィードバックを得ながら徐々に問題解決に迫っていくことを目指すもの。(鈴木,2004) 【システムのアプローチの特徴】 ※鈴木(2004)を中島が大学向けに編集した。 ・ 目的・目標が外的・社会的文脈とつながりを持っている。 ・ 教授方略はその効果についての実証的な裏付けに基づいている。 ・ 学習目標と評価基準は、授業開始時に決定・通知されており、何を学習成果として期待されているかを学習者が知っている。テストに驚きはしない。 ・ 高いレベルの学習結果が大多数、もしくは全員の学習者に求められる。 ・ もし高い学習成果が得られない場合は、学習プログラムが改善される必要があるとみなされる。 Gagne&Madsker(1996),鈴木訳出(2004)
------------	--

[IDプロセスモデル]

タイトル	概要	参考
ADDIEモデル	IDプロセスモデルの一般形として知られる。IDの推進に当たって、試行錯誤を繰り返してよりよいインストラクションを実現するもの。 ・ Analyze: 分析 ・ Design: 設計 ・ Develop: 開発 ⇒ Revise as needed ・ Implement: 実施 ・ Evaluate: 評価	
ラピッドプロトタイピング	開発サイクルの所要時間を短縮しようとするプロセスモデル。 1. ビジョンを創造・共有 2. 概念プロトタイプを作成 3. みせかけ模型で思考実験 4. 動作プロトタイプで確認 5. フルシステムの稼働	Dorsey,Goodman&Schwem(1997), 鈴木訳出(2004)

[IDモデル等]

タイトル	概要	参考
ガニエの9教授事象	認知心理学に基づいた「学習のプロセスを助ける9種類の働きかけ」。 IDにおける、学習支援設計の基本的な枠組みとして広く知られている。 1. 学習者の注意を喚起する 2. 授業の目標を知らせる 3. 前提条件を思い出させる 4. 新しい事項を提示する 5. 学習の指針を与える 6. 練習の機会を作る 7. フィードバックを与える 8. 学習の成果を評価する 9. 保持と転移を高める	鈴木(1995)
	学習の焦点化を図るために、学習開始時に学習者に公	

目標明確化の3要素	表しておく諸要素。 ・目標行動 → 「行動」で目標を示す ・評価条件 ・合格基準	鈴木 (2002)
ガニエの 学習成果5分類	到達度の測定方法が異なる、また到達を支援する最善の方法が異なる、というIDの観点から学習木曜の性質に基づいて課題を分類したもの。 ・言語情報 → 再生的学習・宣言的知識 ・知的技能 → 手続き的知識 ・認知的方略 → 学習技能 ・運動技能 ・態度	鈴木(1995)
カークパトリックの 4段階評価モデル	企業内教育評価 (研修そのものの評価) に用いられる。 1. Reaction: 反応 2. Learning: 学習 3. Behavior: 行動 4. Results: 業績	大学においては、 1. 学ぶことに満足する 2. 学んだ内容に学ぶ 3. 学んだことを活かす 4. 行動から実績を生む と捉えると評価指標となりうる。
プログラム学習の5原理	プログラム学習とは、「教育目標の到達に向かって、学習者に説かせる問題を段階的に配置して提示する教材を用いた学習」(鈴木,2004) のこと。 ・積極的反応の原理 ・即時確認の原理 ・スモールステップの原理 ・自己ペースの原理 ・学習者検証の原理	東洋他(編)(1979)
ユーザビリティの5側面 (※)	主に、eラーニング教材についてのユーザビリティについてまとめたもの。(ニールセン,1993) ・学習しやすさ → すぐに学習できるか ・効率のよさ → 効率よく学習できるか ・覚えやすさ → 使い方をすぐ思い出せるか ・間違えにくさ → エラーを起こさずにすむか ・満足感 → 心地よく使えるか	ニールセン(1993)
構造化技法・ 課題分析 (学習階層分析)	構造化技法とは、洗い出された学習すべき項目の関係を図示する方法を示す。ID理論では、学習課題の種類によって、課題の構造が異なると仮定されており、以下のような課題分析法がそれぞれ適しているとされている。 ・言語情報 → クラスター分析 ・知的技能 → 階層分析 ・運動技能 → 手順分析 ・態度 → 階層/手順分析・クラスター分析	教授カリキュラムマップ (ICM: Instructional Curriculum Map) 鈴木 (2002)
ARCSモデル	ARCSモデルは、学習意欲を「注意・関連性・自信・満足感」の4側面ととらえ、教育の魅力を高める作戦を整理するための枠組みである。 ・Attention: 注意 (面白そうだな) ・Relevance: 関連性 (やりがいがありそうだな) ・Confidence: 自信 (やればできそうだな) ・Satisfaction: 満足感 (やってよかったな)	Keller&Suzuki(1988), 鈴木(1995)
ブランソンの 「学校の情報技術モデル」		
キャロルの時間モデル		
完全習得学習 (Mastery Learning)		
		※随時追加掲載します。

(※) ユーザビリティとID: 「ユーザビリティ」は「使いやすさ」が目的であって、「ID」は「学びやすさ」が目的。よって、「ID」がいつも「ユーザビリティ」を求めているわけではないことを注記する。

References:

- [1] 鈴木克明(2004) , e-Learning Fundamentalテキスト
- [2] Dorsey, L.T., Goodrum, D.A., & Schwen, T.M.(1997). Rapid collaborative prototyping as an instructional development diagram. In C.R. Dills & A.J. Romiszowski(Eds.), *Instructional development diagrams*. Educational Technology Publications, 445-465(Chapter26)
- [3] Gagne, R.M, &Madsker, K.L.(1996). *The conditions of Learning: Training applications*. Harcourt Brace, ASTD.
- [4] 鈴木克明(2002), 『教材設計マニュアル』 北大路出版
- [5] Nielsen, J. (1993). Usability engineering. Academic Press. [ヤコブ・ニールセン(2002), 篠原稔和・三好かおる(翻訳) 「ユーザビリティエンジニアリング原論-ユーザーのためのインターフェースデザイン」 東京電気大学出版局
- [6] 鈴木克明(1995a) 『放送利用からの授業デザイナー入門』 日本放送教育協会
- [7] 鈴木克明(1995b) 「『魅力ある教材』 設計・開発の枠組みについて-ARCS動機づけモデルを中心に-」 『教育メディア研究』 1(1) 50-61
- [8] Keller, J.M., & Suzuki, K. (1988). Use of the ARCS motivation model in courseware design (Chapter16). In D.H. Johnnasen (Ed.), *Instructional design for microcomputer courseware*. Lawrence Erlbaum Associates, USA.

[ページトップへ](#)

※ 記載内容について問い合わせがありましたら、下記問い合わせ先までご連絡ください。

ITセンター

XXXX@XXX-u.ac.jp

Copyright 2008 by ITCenter

◇ eラーニング導入@XX大学の手順解説

eラーニングを実際に導入しよう、となった場合の、本学における導入手順について説明します。
 「eラーニングを導入したいが…」のあと、以下のいずれのパターンに当てはまるかを確認して、その手順をご覧ください。

	状 況	手 順
パターン1	 具体イメージ なし  ノウハウ なし  YES サポート必要	という場 合 1. まずITセンター担当者にご相談ください。 2. ITセンターから利用ツールの提示やeラーニングの組み立て方を提案するなどして、先生と共にイメージの具体化を図ります。 3. 具体化が出来たら、スケジュールを引き、先生とITセンターの作業分担を定めます。併せて、到達目標、導入成否の基準などを定めます。 4. 準備実作業に入ります。(必要に応じてITセンターが支援します) 5. 講義にてeラーニングを利用。 6. 先生と共に実施評価をします。
パターン2	 具体イメージ あり  ノウハウ なし  YES サポート必要	という場 合 1. まずITセンター担当者にご相談ください。 2. 先生の具体案に基づき、ITセンターから利用ツールやeラーニングの組み立て方について提案させていただきつつ、スケジュールを引き、先生とITセンターの作業分担を定めます。併せて、到達目標、導入成否の基準などを定めます。 3. 準備実作業に入ります。(必要に応じてITセンターが支援します) 4. 講義にてeラーニングを利用。 5. 先生と共に実施評価をします。
パターン3	 具体イメージ あり  ノウハウ あり  YES サポート必要	という場 合 1. まずITセンター担当者にご相談ください。 2. 先生の具体案に基づき、スケジュールを引き、先生とITセンターの作業分担を定めます。到達目標、導入成否の基準などを定めます。 3. 準備実作業に入ります。(必要に応じてITセンターが支援します) 4. 講義にてeラーニングを利用。 5. 先生と共に実施評価をします。
パターン4	 具体イメージ あり  ノウハウ あり  NO サポート不要	という場 合 ※ サポート不要ということですが、独自で実施されたeラーニングの実施の様子を是非お聞かせください。
パターン5	ITセンターから 起案・提案	という場 合 1. 学内外の諸取り組みに係って、学内のeラーニング導入取り組みに関連するものがあった場合、ICT推進ワークグループもしくはITセンターから、eラーニング導入企画化の打診をさせていただきます。 2. 企画の妥当性や実現性、効果などを先生方(もしくは学部単位など)と協議して、妥当であると判断される場合、実施に向けて調整開始。 3. 協議に基づいて、スケジュールを引き、先生方とITセンターの作業分担を定めます。到達目標、導入成否の基準などを定めます。これにより企画立案となります。これにて、ITセンターで企画案を作成します。 4. 企画案に基づき、関係各所との調整作業を行います。 5. 準備実作業に入ります。 6. 当該企画にてeラーニングを利用。 7. 先生方と共に実施評価をします。
パターン6	その他、連携プロジェクト	※ eラーニング導入に係るアイデアや企画などがありましたら、まずICT推進ワークグループもしくはITセンターまでご相談ください。本学での実現可能性を共に計ります。

◇ eラーニング導入@XX大学 ヒント集

eラーニングを実際に導入する際／実施中、に役立つヒント集を設置しています。
また、質問を書き込める掲示板も設置していますのでお気軽に質問を書き込んでください。
後ほどITセンターから回答を投稿いたします。



※ Moodleという別システムにリンクしています。
ログイン画面でID＋パスワードでログインして閲覧ください。
不明点は下記問い合わせまで問い合わせてください。

[このページのトップへ](#)

※ 記載内容について問い合わせがありましたら、下記問い合わせ先までご連絡ください。

ITセンター
XXXX@XXX-u.ac.jp

Copyright 2008 by ITCenter



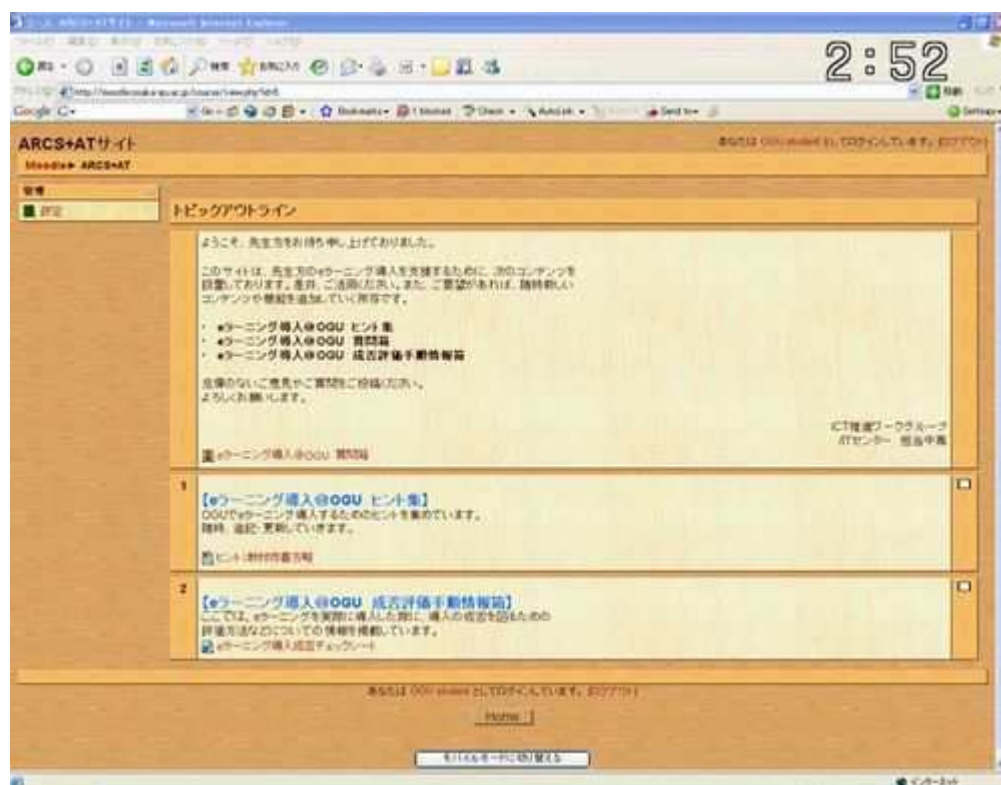
◇ eラーニング導入@XX大学 ヒント集 (サンプル画面)

Moodleにリンクしている、という想定のため、リンク先サンプル画面と説明を掲載しています。

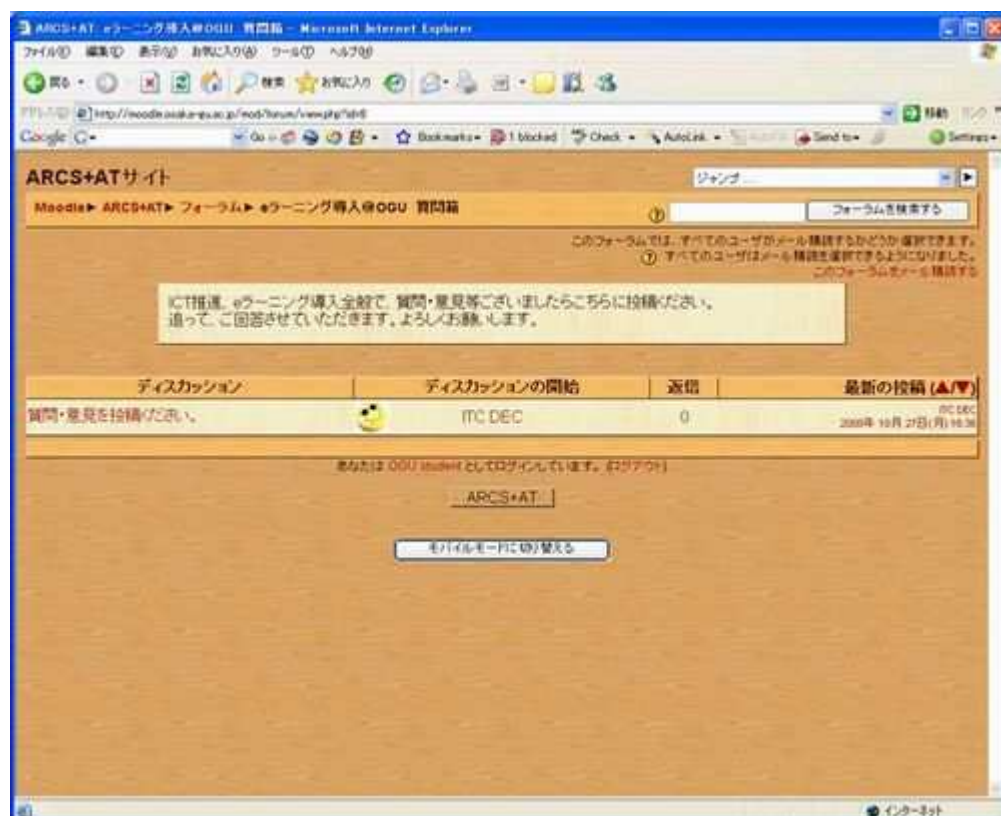
■ Moodleにリンクすることによって、LMSならではの機能を有効活用して情報配信すると同時に、統計機能により利用状況を把握します。



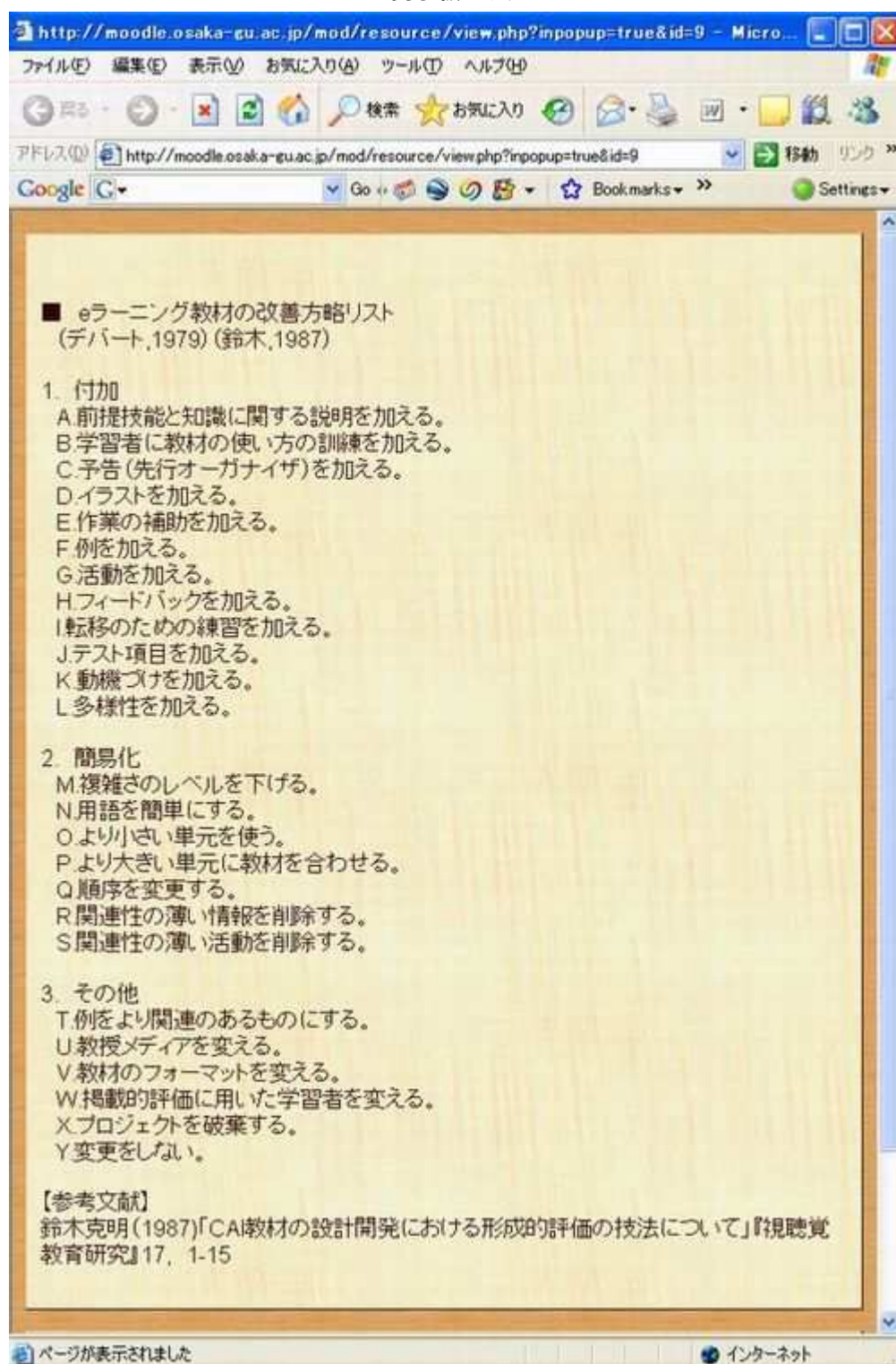
ログイン画面です。



トップ画面に
・質問箱 (掲示板)
・ヒント集 (html)
・成否チェックシート (Word) ←「S」で利用
を掲載しています。



掲示板です。



ヒントのサンプルです。

※ 記載内容について問い合わせがありましたら、下記問い合わせ先までご連絡ください。

ITセンター

XXXX@XXX-u.ac.jp

Copyright 2008 by ITCenter



- ◇ eラーニング導入@XX大学 成否チェック手順
- ◇ 成功事例@XX大学 (導入者の声)

◇ eラーニング導入@XX大学 成否チェック手順

eラーニング導入の結果を評価するための手順について説明します。
eラーニングを導入されての成否チェックや、今後の改善点の洗い出しを目的としています。

[ポイント]

評価に当たっては、eラーニング導入前に、
・ どうなったらeラーニング導入成功か、具体的な指標を挙げておく。
・ 学習前後で対比する学習成果 (効果) チェック項目を挙げておく。
・ 実施中に問題が発生した場合、その対処を含めた履歴を逐次残す準備をしておく。
ことが肝要です。



※ Moodleという別システムにリンクしています。
ログイン画面でID+パスワードでログインして閲覧ください。
不明点は下記問い合わせまで問い合わせてください。

◇ 成功事例@XX大学 (導入者の声)

eラーニング導入の結果についてのレポートを掲載させていただいています。
なお、評価の結果、「成功でなかった」という結論に至っている事例も今後の改善・参考のためとしてここに紹介しています。

*随時掲載していきます。
ご協力よろしくお願いいたします。*

※ 記載内容について問い合わせがありましたら、下記問い合わせ先までご連絡ください。

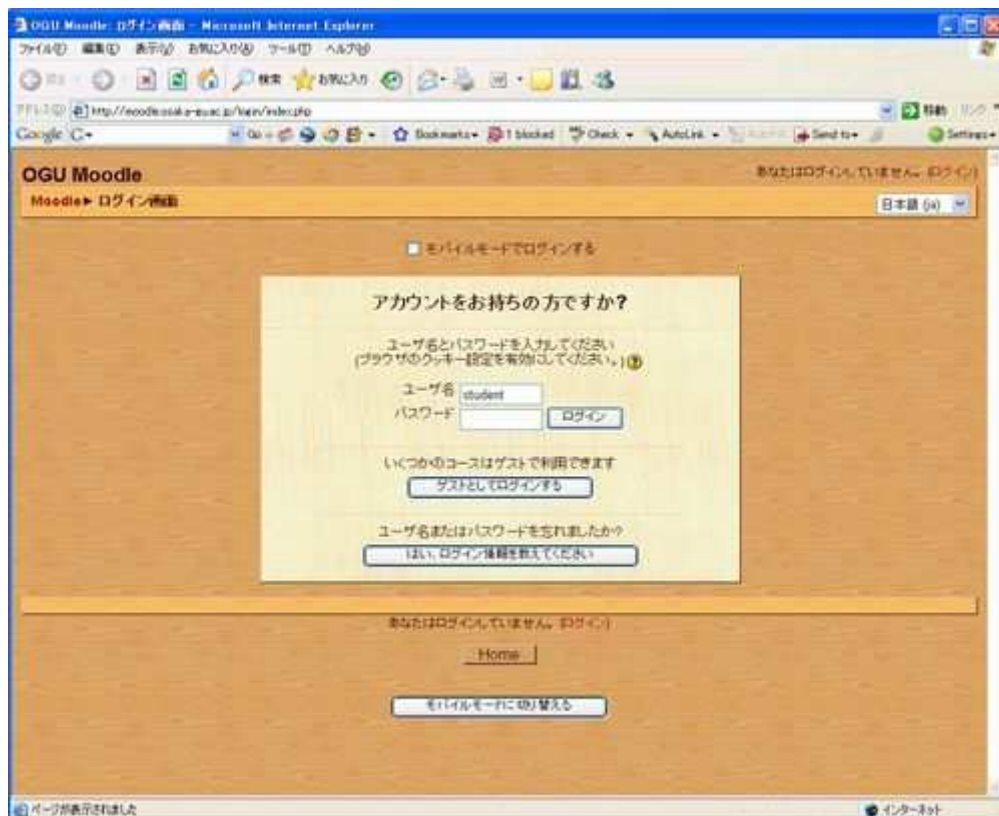
ITセンター
XXXX@XXX-u.ac.jp



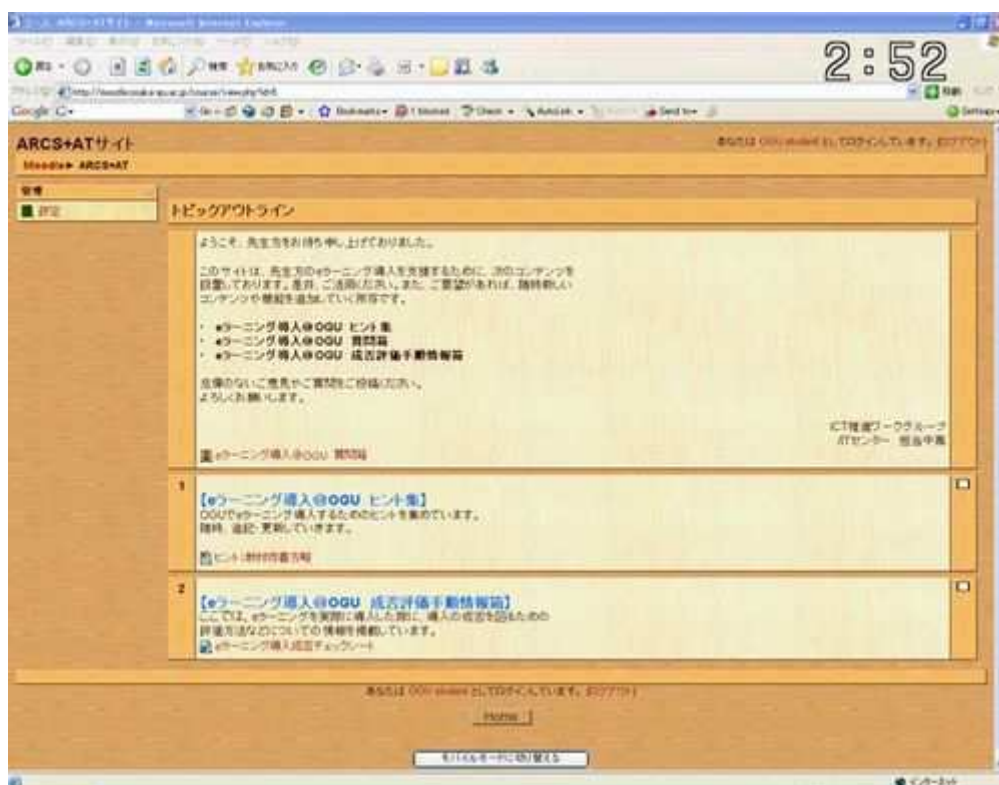
◇ eラーニング導入@XX大学 成否チェックリスト (サンプル画面)

Moodleにリンクしている、という想定のため、リンク先サンプル画面と説明を掲載しています。

■ Moodleにリンクすることによって、LMSならではの機能を有効活用して情報配信すると同時に、統計機能により利用状況を把握します。



ログイン画面です。



トップ画面に
・質問箱 (掲示板)
・ヒント集 (html) ←「C」で利用
・成否チェックシート (Word)
を掲載しています。

[eラーニング導入成否 チェックシート](#)

※ 記載内容について問い合わせがありましたら、下記問い合わせ先までご連絡ください。

ITセンター
XXXX@XXX-u.ac.jp

■ e ラーニング導入に係る 成否チェックシート

e ラーニング導入に当たっては、成否のチェックのために、①導入前の現況、②導入前の設定目標、③実施後評価、を記述するチェックシートを導入前に作成しておきます(①②は導入前に記述しておきます)。また、今後の改善のためのチェックとして【プロセス変数】【支援変数・適性変数】【動機づけ変数】を評価指標としたリストも事前準備しておき、実施中に随時記述して、実施後の評価材料とします。

1. 成否チェック ※e ラーニング導入前と実施後に記述してください。

設定目標(具体目標)が実現された場合、e ラーニング導入の成功と判断します。

	導入前の現況	設定目標	実施後チェック
現況はどうですか？		—	—
どうなったら成功と判断しますか？	—		—
実施後の結果はどうでしたか？	—	—	

2. 改善点チェック ※e ラーニング実施中に随時記述してください。

変数	チェック項目	記述欄
プロセス変数	・ インストラクション実施上、設計されたとおりに実施できなかった点とその要因を挙げてください。	
支援変数 適性変数	・ システム、環境、人的支援などについて想定(期待していたもの)どおりでなかった点を挙げてください。 ・ e ラーニング導入において先生自身がフィットしなかったと感じる点があれば挙げてください。	
動機づけ変数	・ e ラーニング実施に当たって、意欲を阻害する要因があった場合、これを挙げてください。	

以 上

[ARCS+AT チェックリスト記入例]

注意（Attention）＜面白そうな方法だなあ＞

	チェック項目	タスクリスト	チェック結果記入欄（不足点・改善案など併記）
A-1 知覚的 喚起	1. 教員向け Web など、eラーニング導入に関する情報を配信する手段を整備しているか	・ 教員向け eラーニング導入支援情報配信サイト構築 ・ 同主旨の冊子等作成・配付 ・ 同主旨のメール等配信	・ LMS に関して教員向けマニュアル冊子を提供しているが教員向け Web やメール配信などの整備はできていない。 ・ 【対応策】これからサイト構築する方向で方策を検討する。
	2. eラーニング導入の利点に関する情報を配信しているか	・ 前項の手段による配信における方策	・ 明確な形ではできていない。 ・ 【対応策】上記サイト(以下、「サイト」とする)で配信したい。
	3. 各種情報配信において、タイトルやイメージ図など、関心を引きつけるように工夫されているか		・ 明確な形ではできていない。 ・ 【対応策】担当スタッフに意識付けしていく。
A-2 探求心 の喚起	1. eラーニングという形態（カラクリ）を有効活用している科目事例を提示しているか	・ 前項の手段による配信における方策	・ あまりできていない。 ・ 【対応策】要事例調査。次項目等含めて eラーニングに関する調査と研究が必要。調査した情報はサイトに掲載する形となる。
	2. eラーニングの有効性が解り易く示されているか		・ 明確な形ではできていない。 ・ 取り組みごとの解説はあるが、まとまったものに乏しい。 ・ 【対応策】要研究・調査。
	3. 従来の問題点がいかにeラーニングで解決できるか、事例が紹介されているか		・ 明確な形ではできていない。 ・ 【対応策】まずは事例調査に注力したい。
	4. 工夫次第で応用の可能性がどんどん広がることが示されているか		・ 明確な形ではできていない。 ・ 【対応策】要研究・調査。
A-3 変化性	1. 配信する諸情報は簡潔・端的にまとめられているか	・ 教員が飽きない、混乱しない書き様	・ 簡潔、端的にまとめられるよう配慮しているが不十分か。 ・ 【対応策】スタッフ意識付けを徹底する。
	2. 短い説明が難しい場合は内容をブロックに分けて飽きないように工夫しているか		・ 同上

関連性（Relevance）＜役立ちそうだなあ＞

	チェック項目	タスクリスト	チェック結果記入欄（不足点・改善案など併記）
R-1 親し みや すさ	1. 各学問領域におけるeラーニング活用事例を提示するなどして、対象教員の科目での利用イメージが湧きやすくしているか	・ 左記実施 ※当該領域における汎用性を示すこと。	・ eラーニング活用事例を紹介している Web ページ等はない。 ・ 【対応策】まずは要事例調査して、サイトに掲載か。 ・ サイトにおける、 ・ 学内活用事例の紹介(コンテンツや LMS のライセンス等もあり、場合によっては学内限定)

			・OCW 等の中から役立ちそうなものを選択し簡単な解説をつけて学問領域毎にリンク集を整備する ・NIME Glad 等一般的な HP へのリンク集等をわかりやすくまとめて提示する。 ・また、学内のよい事例を表彰等して、その事例報告会や紹介をサイト上で行う、など。
	2. 対象教員が思い描く理想の授業がどのように実現できるのか示しているか	・個別対応の場合、当該教員の個別の理想を聴取した上で求められる情報の提示、例示	・できていない。 【対応策】 まずは事例調査。 ・サイトによる情報提供として、「対象教員が思い描く理想の授業」の事例を複数あげ、その授業毎に「どのように実現できるのか」を示す。 ・個別に相談を受ける
R-2 目的指向性	1. 対象教員に、eラーニングの有効性を理解し、それによる担当科目の改善が、いかに重要であるか認識させる内容になっているか	・個別対応の際に、（eラーニング導入に意義を見出せる場合）、教員本人が「eラーニング導入を進めていこう」となる情報の提示	・、Web 等による定常的な情報提供はほとんどしていないのが現状。 【改善案】まずは研究・調査。 ・サイト上で・より具体的な事例紹介。 ・分野毎に、eラーニングの有効性とそれによる科目改善の重要性を紹介した情報提供。
	2. 対象教員が自ら進んで目標を達成したいと思わせる内容になっているか	※「目標」は当該教員が持つ、eラーニング導入によって果たす目標。	・できていない。 【対応案】 ・よりスムーズに科目のeラーニング化ができるように、テンプレートの導入や、シラバス、成績等の自動登録、授業情報の視覚化（例えば、どのような学生が登録され、いつアクセスしたか等）などの整備をしたい。
R-3 動機と一致	1. 対象教員のITリテラシーに合わせた、無理のないeラーニング導入イメージを提示しているか	・当該教員のITリテラシーの状況に合わせた導入イメージの提示	・対象教員に個別相談を受けた場合はある程度対応している。

支援（Assistance & Tools）＜頼れそうだなあ＞

	チェック項目	タスクリスト	チェック結果記入欄（不足点・改善案など併記）
AT-1 ツール明示	1. 対象教員が当該科目のeラーニング導入において利用できるシステム類、ツール類の種類・機能・使い方について具体的に明示・説明しているか	・ Web, 冊子, 掲示等による情報配信	・窓口、掲示板等に情報掲載している。 【対応策】 ・最新情報、詳細をサイトに掲載したい。
AT-2 支援明示	1. 対象教員が当該科目のeラーニング導入において受けられる支援（準備支援・運用支援・障害対応支援など）について具体的に明示しているか	・ Web, 冊子, 掲示等による情報配信	・同上
	2. 対象教員に、著作権に関する支援の内容を明示しているか	・ 関連サイトなどへのリンク掲載	・窓口、掲示等では明示している。 【対応案】

		・ 著作権処理の方針明示	・ コンテンツの著作権、使用権等に関する指針、帰属等に関する権利規定の制定等を推進して、サイトによる参照が行えるようにしたい。
	3. 対象教員に、今後のeラーニング導入における支援の保証を明示しているか	・ 支援体制の保持を明示	・ 今後の e ラーニング導入における支援の保証に関しては、明示しているとは言えない。 【対応案】 ・ 今後の e ラーニング導入のロードマップ等を適宜公表して周知する。
AT-3 ID 明示	1. IDについて簡潔に説明しているか	・ 左記実施 ※IDに関するリファレンス (外部リンク・参考文献) 提示	・ 明示的にはなにもしていない。 【改善案】 ・ ID習熟者を育成し、講習会や研修プログラム等の実施を企画したい。
	2. IDに基づく、eラーニングを有効活用した授業の設計方法について具体的に説明しているか		同上

自信（Confidence）＜実現・改善していけそうだなあ＞

	チェック項目	タスクリスト	チェック結果記入欄（不足点・改善案など併記）
C-1 講義要求	1. eラーニング導入についての成否指標を設定し、対象教員と共有できているか	・ 当該教員とeラーニング導入実施の成否判断指標を予めドキュメント化して共有 [参照] IDレイヤ-モデル（鈴木,2005）	・ 現在のところ、個別には設定せず、少し（例えばプレゼン資料のみ）でも利用してもらおうという方針。 【対応案】 ・ サイトによる具体的な事例の紹介を行う。 ・ 個別対応では必ず成否指標を策定して共有するよう運用を徹底する。
C-2 成功の機会	1. eラーニング導入前後で学習成果（効果）を対比するためのチェック項目を挙げているか	・ 当該教員と学習成果チェックシートを予めドキュメント化して共有	・ 提示していない。 【対応案】 ・ サイトに事例を紹介する。 ・ チェックシートのサンプルをサイトに掲載する。
	2. 当該科目のeラーニング化を小さなステップに分けて実施し、その都度出来具合と効果を確認しながら進める体制になっているか	・ eラーニング導入、実施の過程で当該教員と進捗状況を確認する体制整備	・ できていない。 【対応案】 ・ 進捗確認の運用を策定して徹底する。
C-3 コントロールの個人化	1. eラーニング導入実施に関して、うまくいかないところがある場合、どこが悪かったかを教員が自分で判断できるように、ヒント集などが用意されているか	・ ヒント集の整備 ・ 質問箱の整備	・ できていない。 【対応案】 ・ サイトにヒント集や質問箱を掲載する。
	2. 対象教員が自ら中心となってeラーニング導入実施を行っていると思える支援体制になっているか	・ 過干渉のない体制整備	・ 資金的、人的問題もあり、支援体制としては、対象教員が自らコンテンツを作成するのを支援するのが基本となっている。

満足感（Satisfaction）＜導入してよかったなあ＞

	チェック項目	タスクリスト	チェック結果記入欄（不足点・改善案など併記）
S-1 自 然 な 結 果	1. C-1で設定・共有した成否指標を評価するチェックシートにより、将来的な改善点が容易にピックアップできるようになっているか	・ eラーニング導入成否チェックシートの利用による成否チェックを実施など	・ 用意していない。 【対応案】 ・ 個別に、ID習熟者が対応する ・ ある程度ゴールを含めたパターン（テンプレート）を用意し、そこから選ぶ等が考えられる。
	2. eラーニングを導入した教員が、他の教員にも導入を勧めたり、支援する機会を設けているか	・ FD報告会やWEB掲載の機会整備	・ 設けていない 【対応案】 ・ 優秀なコンテンツを表彰すると同時に、その教員による導入を勧めるビデオをVODへ置く。 ・ サイトで紹介する。 ・ FD研修、新人研修等に取り入れる。等が考えられる。
S-2 肯 定 的 な 結 果	1. C-2により、対象教員がeラーニング導入の効果を確認するような手順を取っているか	・ 当該教員との定期的な確認機会（チェックシート利用）を持つなど	・ 手順は取っていない。 【対応案】 ・ 主観的なものから、数値的なものまで、様々な角度でチェックし、その経験が無駄にならないようにしなければならない。
	2. eラーニングを導入した教員に何らかのインセンティブが与えられるようになっているか	・ 手当で支給など	・ 優秀なコンテンツの表彰を計画している。 【対応案】 ・ 表彰だけではなく、他に何らかのインセンティブがあるかと思いが、財源等も含めて難しい問題。
	3. 導入科目、教員ごとに、eラーニング導入前後の比較などの成果を公表できるようになっているか	・ FD報告会やWEB掲載の機会整備	・ なっていない。 【対応案】 ・ 事例を集めてサイトで紹介するとともにデータベース化することで、経験の有効活用をはかる。
S-3 公 平 さ	1. 的確な改善・修正をしつつも、諸評価基準の軸と質を一定に保ち、公平な支援を提供できる体制を整えているか	・ eラーニング導入成否チェックシートをはじめとする諸基準を公開 ・ 支援体制の恒常的な運営を明示	・ そのような体制を整えるのは難しい。 【対応案】 ・ 全学的にどの程度教材のデジタル化が進んでいるかの現状調査や評価を行い、その中で公平性を保つ。

高等教育における e ラーニング導入支援者のための方策研究

A Supporting Methodology for e-Learning Development in Higher Education

中寫 康二 中野 裕司 大森 不二雄 鈴木 克明
Koji NAKAJIMA Hiroshi NAKANO Fujio OHMORI Katsuaki SUZUKI
熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻
Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University
Email: knakajima@st.gsis.kumamoto-u.ac.jp

あらまし：高等教育機関において、e ラーニング導入支援者が学習効果の高い e ラーニング化を効率的に成功させるための方策に関して提案する。具体的には、ID（インストラクショナル・デザイン）理論、特に ARCS+AT モデルを、「教授者＝e ラーニングを導入しようとしている教員」、「学習者＝その講義を受講している学生」という見方だけでなく、「教授者＝e ラーニング導入支援者」、「学習者＝e ラーニングを導入しようとしている教員」という見方で整理し直し、効果的かつ効率的に e ラーニング化の支援を行うための「ID 理論に基づいたチェックリスト」の提案を行う。

キーワード：ID、インストラクショナル・デザイン、e ラーニング、ARCS、チェックリスト

1. はじめに

大学をはじめとする高等教育機関においては、e ラーニング導入の推進に関して、様々な取り組みがなされているが、組織的に効果・効率を高める成果を導くことは容易ではないのが現状である。この課題を解消する鍵として、e ラーニング導入支援者に注目した。

高等教育機関の e ラーニング導入においては、教員が担当するのか、事務局が担当するのかに関わらず、e ラーニング導入支援者の果たす役割が大きい。そして、e ラーニング導入支援者が、e ラーニングの導入を求めている教員や e ラーニングを有効活用することで学習成果が上がると予想される科目に対して、如何に情報提供し、支援していくのが適切なのかを具体的に確認する方策が準備できれば、e ラーニング導入を成功に導くことができるものとする。

当研究では、ID（インストラクショナル・デザイン）の理論をもとにして、特にケラーが提唱した ARCS モデル⁽¹⁾をもとにした ARCS+AT モデルを参照して、e ラーニング導入支援者のためのチェックリストを提案する。

2. ARCS+AT チェックリストの提案

ARCS モデルは、心理学的に裏付けられた、学習者を動機付けることを目的とした教授者のための理論であるが、当研究では、「学習者」、「教授者」の該当者を「学生」、「教員」と捉えると同時に、「e ラーニングを導入しようとする教員」、「e ラーニング導入支援者」という捉え方をを行った。この二重構造により、教員・クラスを動機付け、機関としての方針に則った e ラーニング化を実現することが可能となる。ただし、後者の組み合わせの場合、ARCS モデルに挙げられる項目だけでは網羅できない要素があり、これを AT（Assistance & Tools）という要素を付加して補完した。かくして、ARCS+AT 各要素につ

いて整理分析し、チェックリストを作成するに至った。

2.1 ARCS+AT の考え方

ARCS+AT では、高等教育機関におけるある科目での e ラーニング導入が、担当教員の独力でなされるべきものではなく、組織的な方針と支援のもとで適切に行われるべきであると考えており、そこでは、ID 理論が適格に活用されることが望まれる。すなわち、ARCS（＝注意・関連性・自信・満足感）に付加する要素「AT」は、利用ツール、支援体制、ID による組織的支援を意味するものである。

2.2 ARCS モデルとの対比

ここで、改めて ARCS モデルと ARCS+AT モデルの対比を行い、相違点を確認しておく。表 1 のとおり、ARCS+AT は、二重構造による動機付け理論となる。

表 1 ARCS モデルとの対比表

	ARCS	ARCS+AT
モデル利用者	教授者	e ラーニング導入支援者
モデル対象者	学習者	e ラーニング導入教員
主旨	学習者の動機付け 1. 学習成果を生む	導入教員の支援 1. e ラーニングの的確な導入実現 2. 学習成果を生む 3. 機関として e ラーニング導入の成功を導く

また、「学生」と「教員」ならびに、「e ラーニングを導入しようとする教員」と「e ラーニング導入支援者」、ARCS と ARCS+AT の相関図は次のとおりとなる。

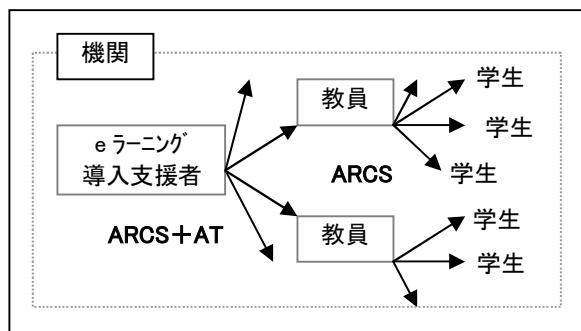


図1 相関図

2.3 ARCS+AT チェックリスト

このような経緯により、ARCS モデル(鈴木 2002)を参照して ARCS+AT のそれぞれの項目を再分析し、各項目の意味付けを明確化するとともに、項目下の確認事項を列挙してチェックリストを作成した。

ここでは、ARCS+AT の各要素、各項目と明確化されたその意味付けを表2に示す。なお、チェックリストでは、各項目の下層にチェック項目を列挙している。

表2 ARCS+AT チェックリスト タイトル一覧

Attention : 注意 <面白そうな方法だなあ>
A-1:知覚的喚起 (Perceptual Arousal) 教員に、eラーニングという効果的な教育方法(論)があることに気付かせる。
A-2:探求心の喚起 (Inquiry Arousal) 教員に、自分の研究や教育資源を学生に伝播するのにとても役立ちそうなので使ってみたいと思わせる。
A-3:変化性 (Variability) eラーニングの効果に関する教員への説明や解説は、長く続けずに、簡潔にまとめる。
Relevance : 関連性 <役立ちそうだなあ>
R-1:親しみやすさ (Familiarity) 対象教員が担当する科目・講義を取り上げて、その教員が思い描く理想の授業をeラーニング導入によって実現する方法を示す。
R-2:目的指向性 (Goal Orientation) 対象教員に、当該科目のeラーニング化による改善の重要性を認識させ、自ら進んで取り組ませる。
R-3:動機との一致 (Motive Matching) 対象教員のITリテラシーの有無に関わらず、教員に合ったeラーニング導入を提示して、無理のないペースで進められるよう工夫する。
Assistance & Tools : 支援 <頼れそうだなあ>
AT-1:ツール明示 (Tool Information) 対象教員が利用可能なeラーニングシステムやツールについて明示する。
AT-2:支援明示 (Assistance Information) 対象教員が受けることが出来る、eラーニング導入・運用に係る支援について明示する。
AT-3:ID明示 (ID Guidance) 効果的なeラーニング導入実現のための、IDのノウハウについて明示する。

Confidence : 自信 <実現・改善していけそうだなあ>
C-1:講義要求 (Instruction Requirement) 何ができたらeラーニング導入の完了とするかをはっきり具体的に示す。
C-2:成功の機会 (Success Opportunities) 従来の対面講義とeラーニング導入後の講義との比較で、その効果を確かめられるようにする。
C-3:コントロールの個人化 (Personal Control) 対象教員が自ら中心となってeラーニング導入を行ったと思えるようにする。
Satisfaction : 満足感 <導入してよかったなあ>
S-1:自然な結果 (Natural Consequences) eラーニング導入による授業の改善が実感できるよう、目標に基づいてすぐにチェックできるようにする。
S-2:肯定的な結果 (Positive Consequences) 受講生の学習成果から、eラーニング導入の価値や重要性をもう一度強調する。
S-3:公平さ (Equity) eラーニング導入状況やその効果等に関する評価基準を一定に保つ。公平な支援体制を実現する。

3. 支援の手法と応用の可能性

eラーニング導入支援者は、実際の科目において、担当教員と協力し、ARCS+AT チェックリストで確認しながら導入支援する。その過程で、eラーニング導入支援者は、導入科目における学習者の学習成果や担当教員のインタビューなどによって、チェックリストの効果を計ることになる。

本チェックリストは、科目のeラーニング導入支援だけでなく、機関におけるeラーニング推進計画を立案するところから、実際の科目でeラーニングを導入し、分析・評価するところまでの一連の流れを的確に導くことを目的としている。そのため、「機関におけるeラーニング推進計画立案の判断材料」や、「効果的なeラーニング導入支援サイトの構築」への活用も考えられる。

今後、本チェックリストをさらに改良するとともに、実証実験や、様々な応用の可能性に関して模索していきたい。

4. おわりに

本研究では、eラーニング導入支援者のためのARCS+AT チェックリストの提案を行った。今後は、心理学的裏付けを取りつつ、調査を経た改善を行い、ARCS+AT の完成度を高める。また、他大学などでの使用と評価を目指したいところである。

参考文献

- (1) 鈴木克明「教材設計マニュアル」北大路書房(2002)

高等教育における eラーニング導入支援者の方策研究

中島康二 中野裕司 大森不二雄 鈴木克明
熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻
@ISIS E2008
2008/09/05

研究の主旨

- 高等教育機関において、効果的・効率的なeラーニング導入が組織的になされるよう、eラーニング導入支援者を支援するための方策を研究する。

⇒eラーニング導入支援者がeラーニング導入教員を的確に導くためのARCS+ATチェックリストを提案する。

ARCSモデル

Attention: 注意 「おもしろそうだな」

Relevance: 関連性 「やりがいがありそうだな」

Confidence: 自信 「やれそうでそうだな」

Satisfaction: 満足感 「やってよかったな」

(ジョン・M・ケラー)

- 教授者が学習者の学習意欲動機付けを行うための、研修(授業)の魅力を高める作戦を整理するための枠組み。
- 動機づけに関する心理学的研究や実践からの知見に基づいてID(インストラクショナル・デザイン)モデルに整理したもの。

ARCS+AT ①

- ARCSモデルをeラーニング導入支援者とeラーニング導入教員の関係に置き換えてみる。

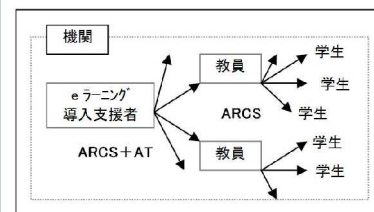


図1 相関図

ARCS+AT ②

- ARCSモデルとの対比は次のとおり。

	ARCS	ARCS+AT
モデル利用者	教授者	eラーニング導入支援者
モデル対象者	学習者	eラーニング導入教員
主旨	学習者の動機付け 1.学習成果を生む	導入教員の支援 1.eラーニングの的確な導入実現 2.学習成果を生む 3.機関としてeラーニング導入の成功を導く

ARCS+ATチェックリスト [A]

■注意 (Attention) <面白そうな方法だなあ>■

A-1:知覚的喚起 (Perceptual Arousal)

面白そうだなあと関心を引きつける

→教員に、eラーニングという効果的な教育方法（論）があることに気付かせる。

- ・教員向け Web など、eラーニング導入に関する情報を配信する手段を整備しているか
- ・eラーニング導入の利点に関する情報を配信しているか
- ・各種情報配信において、タイトルやイメージ図など、関心を引きつけるように工夫されているか

A-2:探求心の喚起 (Inquiry Arousal)

好奇心を大切にする

→教員に、自分の研究や教育資源を学生に伝播するのにとても役立ちそうなので使ってみたいと思わせる。

- ・eラーニングという形態（カラクリ）を有効活用している科目事例を提示しているか
- ・eラーニングの有効性が論理的に解り易く示されているか
- ・従来の問題点がいかにeラーニングで解決できるか、事例が紹介されているか
- ・工夫次第で応用の可能性がどんな広がりがあることが示されているか

A-3:変异性 (Variability)

マンネリを避ける

→eラーニングの効果に関する教員への説明や解説は、長く続けずに、簡潔にまとめる。

- ・配信する諸情報は簡潔・機能的にまとめられているか
- ・短い説明が難しい場合は内容をブロックに分けて飽きないように工夫しているか

ARCS+ATチェックリスト [R]

■関連性 (Relevance) <役立ちそうだなあ>■

R-1:親しみやすさ (Familiarity)

対象教員の担当科目・専門領域を前提とする

→対象教員が担当する科目・講義を取り上げて、その教員が思い描く理想の授業をeラーニング導入によって実現する方法を示す。

- ・当該学問領域におけるeラーニング活用事例を提示するなどして、対象教員の科目での利用イメージが湧きやすくなるか
- ・対象教員が思い描く理想の授業がどのように実現できるのか示しているか

R-2:目的指向性 (Goal Orientation)

目標達成の重要性をはっきり認識させ、自らそこへ向かわせる

→対象教員に、当該科目のeラーニング化による改善の重要性を認識させ、自ら進んで取り組ませる。

- ・対象教員に、eラーニングの有効性の理解とそれによる担当科目の改善が、いかに重要であるか認識させる内容になっているか
- ・対象教員が自ら進んで目標を達成したいと思わせる内容になっているか

R-3:動機との一致 (Motive Matching)

プロセスを楽しめるよう配慮する

→対象教員のITリテラシーの有無に関わらず、教員に合ったeラーニング導入を提示して、無理のないペースで進められるよう工夫する。

- ・対象教員のITリテラシーに合わせた、無理のないeラーニング導入イメージを提示しているか

ARCS+ATチェックリスト [AT]

■支援 (Assistance & Tools) <頼れそうだなあ>■

AT-1:ツール明示 (Tool Information)

選択肢としてどのようなシステム利用が可能か明示している

→対象教員が利用可能なeラーニングシステムやツールについて明示する。

- ・対象教員が当該科目のeラーニング導入において利用できるシステム種、ツール種の種類・機能・使い方について具体的に明示・説明しているか

AT-2:支援明示 (Assistance Information)

どれだけの支援が受けられるか明示している

→対象教員が受け取ることが出来る、eラーニング導入・運用に係る支援について明示する。

- ・対象教員が当該科目のeラーニング導入において受けられる支援（準備支援・運用支援・障害対応支援など）について具体的に明示しているか

AT-3:ID明示 (ID Guidance)

ID (Instructional Design) のノウハウを明示している

→効果的なeラーニング導入実現のための、IDのノウハウについて明示する。

- ・IDについて簡潔に説明しているか
- ・IDに基づく、eラーニングを有効活用した授業の設計方法について具体的に説明しているか

ARCS+ATチェックリスト [C]

■自信 (Confidence) <実現・改善していけそうだなあ>■

C-1:講義要求 (Instruction Requirement)

ゴールインテグレーションをはる

→何ができたらeラーニング導入の完了とするかをはっきり具体的に示す。

C-2:成功の機会 (Success Opportunities)

一歩ずつ確かめて進めるよう配慮する

→従来の対面講義とeラーニング導入後の講義との比較で、その効果を確かめられるようにする。

C-3:コントロールの個人化 (Personal Control)

自己コントロールを促進する

→対象教員が自ら中心となってeラーニング導入を行ったと思えるようにする。

- ・ eラーニング導入についてのゴール(目標)を設定し、対象教員と共有できているか
- ・ eラーニング導入前後で学習成果(効果)を対比するためのチェック項目を挙げているか
- ・ 当該科目のeラーニング化を小さなステップに分けて実施し、その都度出来具合と効果を確認しながら進める体制になっているか
- ・ eラーニング導入に関して、うまくいかないところがある場合、どこが良かったかを教員が自分で判断できるように、ヒント案などが用意されているか
- ・ 対象教員が自ら中心となってeラーニング導入を行っていると思える支援体制になっているか

ARCS+ATチェックリスト [S]

■満足感 (Satisfaction) <導入してよかったなあ>■

S-1:自然な結果 (Natural Consequences)

無駄に終わらせない

→eラーニング導入による授業の改善が実感できるように、目標に基づいてすぐにチェックできるようにする。

S-2:肯定的な結果 (Positive Consequences)

建設的な評価を行う

受講生の学習成果から、eラーニング導入の価値や重要性をもう一度強調する。

S-3:公平さ (Equity)

支え続ける

eラーニング導入状況やその効果等に関する評価基準を一定に保つ。公平な支援体制を実現する。

- ・ C-1で設定していたゴールに対して、成果を評価するチェックリストを用意しているか/それは、将来的な改善点が容易にピックアップできるようにしているか
- ・ eラーニングを導入した教員が、他の教員にも導入を勧めたり、支援する機会を設けているか
- ・ C-2により、対象教員がeラーニング導入の効果を確認するような手順を取っているか
- ・ eラーニングを導入した教員に何らかのインセンティブが与えられるようになっているか
- ・ 導入科目、教員ごとに、eラーニング導入前後の比較などの成果を公表するようになっているか
- ・ 的確な改善・修正をしつつも、該評価基準の軸と質を一定に保ち、公平な支援を提供できる体制を整えているか
- ・ 対象教員に、今後のeラーニング導入における支援の保証を明示しているか

注) 表中の「eラーニング」は、「広義のeラーニング」を指しており、導入の対象になるeラーニングは、広くICT全般を捉えたものとして考えています。

支援の手法

- ・ eラーニング導入支援者は、
- ・ ARCS+ATチェックリストで各項目を確認しながら整備した支援体制・環境をもとに、
- ・ 科目担当教員(eラーニング導入教員)と協力して、(ARCS+ATチェックリストで各項目を確認しながら)eラーニング導入準備～実施～評価を行う。

応用の可能性

- ・ ARCS+ATチェックリストの利用を通して
⇒教育機関におけるeラーニング推進計画立案を推進
- ・ ARCS+ATチェックリストの利用において
⇒「導入を説得的に行える情報を集めた教員向けWebサイト」構築

今後の展望

- 実証実験などを通して、ARCS+ATチェックリストを改善。
- 大学等、諸機関で利用されることを目指す。

ありがとうございました。

KNAKAJIMA@ST.GSIS.KUMAMOTO-U.AC.JP

Exhibit A

An Instructional Design Based Checklist for e-Learning Supporters in Higher Education

Koji Nakajima*, Hiroshi Nakano, Fujio Ohmori, Katsuaki Suzuki and Toshihiro Kita,
Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

Abstract: For those who support e-learning development in higher education (We refer to this as “e-learning supporters” in this paper.) in order to achieve efficient and effective e-learning outcomes, we present a checklist based on ID (Instructional Design) theories, especially the ARCS+AT Model, which will be the key to successful e-learning development. In our ARCS+AT model, we refer to ARCS “instructors” as e-learning supporters and ARCS “learners” as instructors planning to adopt e-learning as learners.

Keywords: ID (Instructional Design), e-Learning, the ARCS Model, the ARCS+AT Model, checklist.

I. INTRODUCTION

It is true that many Japanese universities are diligently working on activities to develop e-learning and are having difficulty in achieving efficient and effective outcomes compared to a university’s own expectation. We found that it is better to focus on a person (or a section) in charge of supporting instructors and the university’s e-learning development.

The role of that person is important whether or not the one is a professor or staff. The one will be able to succeed when the person has a method of checking what to do concretely and clearly to provide proper information and assistance for achieving better outcomes in e-learning. In this study, we propose a checklist for e-learning supporters based on ID theories, especially on the ARCS+AT Model, which is based on the ARCS Model⁽¹⁾ proposed by Dr. Keller.

II. SUGGESTING ARCS+AT CHECKLIST

The ARCS Model, which is an instructional design model based on psychological motivation, has successfully increased learners’ motivation. If e-learning supporters are able to motivate both instructors and students, then they can develop e-learning consistent with the direction of the University’s policy. In this case, we suppose that the four factors of Attention (A), Relevance (R), Confidence (C) and Satisfaction (S) in the ARCS Model will not be enough because the ARCS Model does not include assistance from the organization. Therefore, we added another factor, Assistance & Tools (AT), to complete it. We then created a checklist by analyzing each factor (A, R, C, S, AT) individually.

A. The Meaning of the ARCS+AT Model

In the ARCS+AT Model, developing e-learning in a class should be done with the assistance from the organization based on its policy. Also, we suggest that the ID theories will work well for planning e-learning. The “AT” features of ARCS+AT consists of three factors —tools that can be used, staff assistance that can be provided, and ID theories that can be used to improve the course.

B. Comparing two Models

We compare the two models to illustrate their differences in Table I. You can see how the ARCS+AT Model is constructed in the double structure.

TABLE I
COMPARING TWO MODELS

	The ARCS Model	The ARCS+AT Model
Users	Instructors will use this.	e-learning supporters will use this.
Targets	Learners will be motivated.	Instructors will be motivated.
Objective	To motivate learners to learn - To guide learners to better learning outcomes	To motivate instructors to start e-learning - To implement e-learning properly in class - To guide learners to better learning outcomes - To lead University to efficient and effective e-learning outcomes

Also, we correlate the two Models in Figure 1:

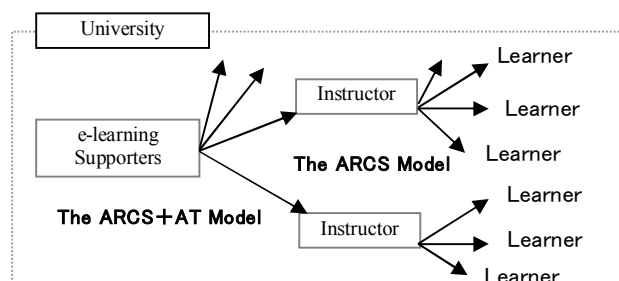


Fig. 1. Correlation of the ARCS Model & the ARCS+AT Model

C. The ARCS+AT Checklist

With such background, we started to analyze the ARCS Model Hints List (Suzuki, 2002) and worked on translating each factor to align it with the ARCS+AT Model. Then we added more detail for each factor to complete the checklist. The headlines of each factor in the results are shown in Table II.

TABLE II
THE ARCS+AT CHECKLIST

Attention: Interesting!
A-1: Perceptual Arousal Have instructors notice that there are effective e-learning methods for class.
A-2: Inquiry Arousal Have instructors feel that it is useful to distribute resources of his/her research or teaching to his/her learners and to think that he/she would like to use e-learning
A-3: Variability Make explanations to instructors about the effectiveness of e-learning as simple as possible.
Relevance: I see the importance!
R-1: Familiarity Show instructors methods of e-learning that can make his/her ideal classes a reality by talking about his/her actual classes.
R-2: Goal Orientation Show instructors the importance of improvement by e-learning and have him/her set a goal for e-learning on his/her own.
R-3: Motive Matching Provide the information for e-learning that fits his/her IT literacy level. Try designing the best pace for the instructor.
Assistance & Tools: It is reliable!
AT-1: Tool Information Give information about e-learning tools or systems that instructors can use.
AT-2: Assistance Information Give information about staff support or assistance which instructors can get regarding using e-learning.
AT-3 ID (Instructional Design) Guidance Give information about the “know-how” of ID that makes effective e-learning become real.
Confidence: I can do it if I try!
C-1: Instruction Requirement Share the point of completion of using e-learning concretely with the instructor.
C-2: Success Opportunities Prepare to compare the effectiveness with and without e-learning.
C-3: Personal Control Give the instructor the initiative also for the things related to e-learning in his/her class.
Satisfaction: I'm glad I did it!
S-1: Natural Consequences Prepare a check sheet to give the instructor an opportunity to see how the class was improved by e-learning.
S-2: Positive Consequences Let instructor realize the value or the importance of e-learning by the learner's outcomes.

S-3: Equity

Maintain a standard of evaluation for the effectiveness of e-learning. Keep the system of assistance to provide instructor support equally.

III. WHAT WILL HAPPEN TO THE CHECKLIST

E-learning supporters will work with an instructor on an actual class using this checklist. During this time, we will ask e-learning supporters to evaluate how effective this checklist is. We will obtain results from learner outcomes or by interviewing the instructor.

The application of this checklist ranges from designing an e-learning development plan at a university to supporting classes and evaluating how well e-learning works. The checklist may result in “providing suggestions for developing e-learning at a university” or “creating a website for instructors that provides information about using e-learning in classes.”

IV. CONCLUSION

In this paper, we proposed the use of an ARCS+AT checklist for e-learning supporters. The checklist we have developed is intended to be applicable for achieving better outcomes in e-learning at any university. It has also the meaning of helping learners, instructors, e-learning supporters or even universities so that they can concentrate on teaching or learning by using ID theories and technologies as a tool.

We will continue our research with verifying psychological factors and improving the checklist. Also, we will try to measure e-learning supporters' understanding and will plan to use this checklist at universities as often as possible to improve its quality.

V. REFERENCES

- [1] Suzuki, K. (2002) “Instructional Design Manual”(in Japanese), pp.176-179. (Kitaoji-Shobo, Kyoto)
- [2] Keller, J. M. & Suzuki, K. (1988) Application of the ARCS model to courseware design, in: D.H. Jonassen (Ed.) *Instructional designs for microcomputer courseware design* (New York, Lawrence Erlbaum)

000

An Instructional Design Based Checklist for e-Learning Supporters in Higher Education

Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University
Koji Nakajima*, Hiroshi Nakano, Fujio Ohmori, Katsuaki Suzuki and Toshihiro Kita

INTRODUCTION

- PROBLEM:**
 - Difficulty in achieving efficient and effective outcomes of e-learning developments in Japanese universities.
- SOLUTIONS:**
 - Better to focus on a person (or a section) in charge of supporting instructors and the university's e-learning development.
 - "we call such persons (or sections) as "e-learning supporters"
 - The one will be able to succeed when the e-learning supporters has "A checklist for e-learning supporters based on Instructional Design (ID) theories".
- ID MODEL:**
 - For the checklist, proposing a new model "ARCS+AT Model" based on the ARCS Model(1).

SUGGESTING ARCS+AT CHECKLIST

- The ARCS Model**
 - An ID model based on psychological motivation.
 - Successfully increasing learners' motivation.
 - 4 focus: Attention (A), Relevance (R), Confidence (C) and Satisfaction (S).
- ARCS+AT model (our proposal)**
 - Better to motivate both learners and instructors to progress university-wide e-learning.
 - ARCS Model will not be enough, because not including assistance from the organization.
 - Adding another factor, Assistance & Tools (AT).

The Meaning of the ARCS+AT Model

- The "AT" features of ARCS+AT consists of three factors**
 - Tools that can be used
 - Staff assistance that can be provided
 - ID theories that can be used to improve the course

Comparing two Models

- The ARCS+AT Model is constructed in the double structure** as shown in
 - Differences in Table 1.
 - Correlation in Figure 1.

Table 1

	The ARCS Model	The ARCS+AT Model
Users	Instructors will use this.	e-learning supporters will use this.
Targets	Learners will be motivated.	Instructors will be motivated.
Objective	To motivate learners to learn -To guide learners to better learning outcomes	To motivate instructors to start e-learning -To implement e-learning properly in class -To guide learners to better learning outcomes -To lead University to efficient and effective e-learning outcomes

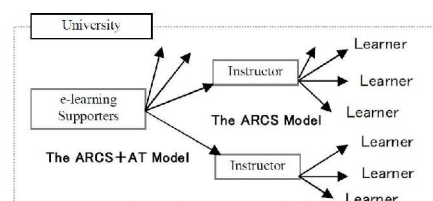


Fig. 1. Correlation of the ARCS Model & the ARCS+AT Model

The ARCS+AT Checklist

Attention: Interesting!

- A-1: Perceptual Arousal
Have instructors notice that there are effective e-learning methods for class.
- A-2: Inquiry Arousal
Have instructors feel that it is useful to distribute resources of his/her research or teaching to his/her learners and to think that he/she would like to use e-learning.
- A-3: Variability
Make explanations to instructors about the effectiveness of e-learning as simple as possible.

Relevance: I see the importance!

- R-1: Familiarity
Show instructors methods of e-learning that can make his/her ideal classes a reality by talking about his/her actual classes.
- R-2: Goal Orientation
Show instructors the importance of improvement by e-learning and have him/her set a goal for e-learning on his/her own.
- R-3: Motive Matching
Provide the information for e-learning that fits his/her IT literacy level. Try designing the best pace for the instructor.

Assistance & Tools: It is reliable!

- AT-1: Tool Information
Give information about e-learning tools or systems that instructors can use.
- AT-2: Assistance Information
Give information about staff support or assistance which instructors can get regarding using e-learning.
- AT-3: ID (Instructional Design) Guidance
Give information about the "know-how" of ID that makes effective e-learning become real.

Confidence: I can do it if I try!

- C-1: Instruction Requirement
Share the point of completion of using e-learning concretely with the instructor.
- C-2: Success Opportunities
Prepare to compare the effectiveness with and without e-learning.
- C-3: Personal Control
Give the instructor the initiative also for the things related to e-learning in his/her class.

Satisfaction: I'm glad I did it!

- S-1: Natural Consequences
Prepare a check sheet to give the instructor an opportunity to see how the class was improved by e-learning.
- S-2: Positive Consequences
Let instructor realize the value or the importance of e-learning by the learner's outcomes.
- S-3: Equity
Maintain a standard of evaluation for the effectiveness of e-learning. Keep the system of assistance to provide instructor support equally.

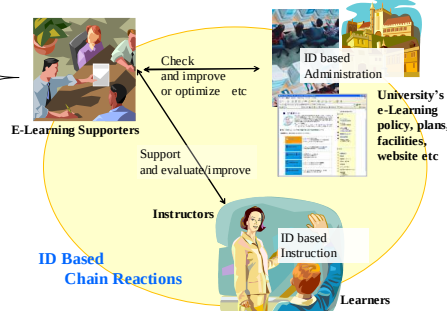
Task List & Check Sheet

Task List & Check Sheet

Task List & Check Sheet

Task List & Check Sheet

Task List & Check Sheet



WHAT WILL HAPPEN TO THE CHECKLIST

- Evaluation plan for the checklist**
 - E-learning supporters work with an instructor on an actual class
 - Obtaining results from learner outcomes or by interviewing the instructor
- Expected application range of the checklist**
 - from designing an e-learning development plan at a university
 - to supporting classes and evaluating how well e-learning works.
- Expected results of the checklist**
 - Providing suggestions for developing e-learning at a university
 - Creating a website for instructors how to introduce e-learning in classes

CONCLUSION & FUTURE PLAN

- We proposed the use of an ARCS+AT checklist for e-learning supporters.
- We proposed a new instructional design model "ARCS+AT model" for the checklist.
- AT = "Assistance & Tools" compensate ARCS model.
- The ARCS+AT model is constructed in the double structure: e-learning supporters ↔ instructors & instructors ↔ learners
- The checklist is intended to be applicable for achieving better outcomes in e-learning at any university with further evaluation.
- Future Plan:**
 - Try to verify psychological factors and improving the checklist.
 - Try to measure e-learning supporters' understanding.
 - Try to use the checklist at universities as often as possible to improve its quality.

REFERENCES

- Sanuki, K. (2002) "Instructional Design Manual" (in Japanese), pp.176-179. (Kinjo-Shobo, Kyoto)
- Keller, J. M. & Suzuki, K. (1988) Application of the ARCS model to courseware design, in D.H. Jonassen (Ed.), Instructional designs for microcomputer courseware design (New York, Lawrence Erlbaum)